

2018 年度採択
文部科学省 私立大学研究ブランディング事業

保育者育成のためのキャリア・ループリックの開発
～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～

最終報告書（2021 年度）

はじめに

2018年度に文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択され、全学を挙げて取り組んでまいりました「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発」事業につきましては、2021年度を最終年度とし、本年2月にオンラインで行われた成果報告会及びこの最終報告書の公表をもって一応の完結に至りました。本事業の実施にあたり、調査研究にご協力いただきました関係機関の皆様、また事業の進め方等について貴重なご意見、ご指導をいただきました外部評価委員の皆様がたには篤くお礼申し上げる次第です。

本学は、仏教精神に基づく「仁愛兼濟」の語を建学の精神として、1964年に家政科単科で開学したものです。現在は、生活科学学科と幼児教育学科の二学科構成で運営しております。保育者の養成は、開学2年目の保育科設置により開始し、半世紀以上に亘って多くの卒業生を、主として県内の保育施設、幼児教育機関に送り出してまいりました。また、幼児教育学科の専門職就職率は、例年9割を超えており、福井県内の保育者の養成、供給には、現時点においても本学は大きな役割を果たしていると認識もしております。キャンパス内には附属幼稚園を設置しており、本年3月からは別法人の保育園もキャンパスに隣接することとなり、幼児教育、保育の現場とも日常的に緊密な連携を強化し、保育者養成の一層の充実を目指しているところでもあります。

この事業の取組みのきっかけは、本学におきまして3ポリシーの点検作業を進める過程で、幼児教育学科のアドミッションポリシー（AP）と受験生との間、またディプロマポリシー（DP）と保育現場の期待する資質・能力との乖離が認識されるようになったことによります。このことから、今回の報告につながる調査研究がまず開始され、これをもとに、養成校入学前の保育者を希望する段階から、保育職に就いて管理職レベルに至るまでの、各段階に求められる資質・能力を「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」として定めることで、各段階のギャップを明らかにしつつ、シームレスなつながりを目指そうというのが、本研究の趣旨でした。

また本学は、福井県内で唯一の短期大学となっていることから、短期大学での教育・研究についての理解を促すためにも、保育者養成を担ってきた本学のブランディングの柱の一つとして「保育の学びがみえる仁短」を掲げ、一層の地域へのアピールを図ろうということで、本事業に取り組んだものです。

本事業については、先日「私立大学研究ブランディング事業委員会」から2020年度までの成果に対する総括コメントを頂戴いたしました。それによりますと、キャリア・ルーブリックの開発という具体性、および本学の保育者養成の実践の集約という点からのブランディングということに関しては評価をされたと思いますが、ルーブリックの実際的な活用に向けた展開、あるいは各段階での「シームレスなつながり」ということそのものについての検討や具体化については、さらなる取り組みも求められております。

本報告書は、一応の完成をみたキャリア・ルーブリックの内容について、また保育者養成校としての本学のブランディングへの取り組みについてまとめたものですが、皆様にご高覧いただくことにより、多様な観点からのご意見、ご助言を賜り、引き続き本ルーブリックの改良改善に、また保育者養成校としての質向上につなげていくことができれば、まことに幸いと考える次第です。

この報告書の公表を通して、本学の教育・研究へのご理解をいただくとともに、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、刊行にあたってのご挨拶といたします。

2022年3月

仁愛女子短期大学
学長 禰 正宣

目次

はじめに

PART I 各年度進捗状況の報告および成果報告 1

- 1. 2018 年度 2
- 2. 2019 年度 4
- 3. 2020 年度 6
- 4. 成果報告書(2021 年5月提出) 8

PART II キャリア・ループリック 11

- 1. 長期的ループリック(キャリア・ラダー) 12
- 2. 短期的ループリック 13
- 3. 「キャリア・ループリック」の見方および活用方法 17

PART III 成果報告会(2022.2.26) 23

- 1. 事業着手からこれまでの経緯 25
- 2. 事業組織 35
- 3. 事業成果概要(研究実施部会に関する成果概要) 37
- 4. 「キャリア・ループリック」およびその活用方法(保育者養成課程における質の保証・向上の仕組みづくりとその運用) 62
- 5. 今後の課題 80

PART IV 2021 年度ブランディング戦略活動報告 81

- 1. YouTube 82
- 2. Instagram 86
- 3. 未来の参考書 88
- 4. 保育体験ツアー 90

おわりに

PART I

各年度進捗状況の報告および最終報告

2018年度 進捗状況の報告

学校法人番号	181002	学校法人名	福井仁愛学園		
大学名	仁愛女子短期大学				
事業名	保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発 ～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	2018	年度～	2020 年度
参画組織	幼児教育学科、生活科学学科、地域活動実践センター、点検評価推進室、研究活動委員会、CI委員会、学生部、事務局				
事業概要	本事業の目的は、「保育職を志す高校生」が「豊かな経験を有する保育者」へと成長していくため、向上させるべき資質能力の継続的發展を示す「キャリア・ルーブリック」の開発を行い、高校・短大(養成校)・保育現場が三者間で連携・協働してシームレスな保育者育成環境を構築することにより、「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すことである。				
①事業目的	本学幼児教育学科では、これまで3ポリシー(AP・CP・DP)を設定し、適宜その見直しも行なってきた。しかし、見直しを重ねる中で、入口側であるAPと受験生が身につけている資質能力、出口側であるDPと保育現場が求めている資質能力との間には乖離(=段差)があることが浮き彫りになってきた。 この課題を明確にするため、平成26年度から4年間にわたり、福井県全幼稚園、保育所、認定こども園(計337園)を対象としたアンケート調査を実施し(回収率86%)、その結果を『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』(平成30年3月発行)としてまとめ、本学の保育者養成の特徴や課題の数値化及びその分析を行なった。 現在、本学が設定する3ポリシーは、あくまで短期大学の立場で、学生が入学時点で保有して欲しい学習水準から、卒業時点での獲得すべき学習成果の目標、及びその達成のための教育課程編成等の基本的な方針を言語化したものである。しかし、学生本人の立場からすれば、保育職を志望する時点から保育者になった後の将来に亘ってまで、一筋のキャリアとしてストーリー化でき得るものとはなっていない。 そこで本学では、「保育職を志望する段階」から「管理職の保育者になる段階」までの間に求められる資質能力を、一貫して体系化していくためのものを「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」と名付け、開発を行なう。 キャリア・ルーブリックとは、本人が、高校、短大、保育現場の各段階で身につけるべき資質能力及びその段階的基準を共通化し、それを共有することにより「学びの可視化」を図るためのものである。この開発により、三者がキャリア・ルーブリックという一つのツールで繋がり、一体となって保育者を育成していこうとする育成環境、即ち、継ぎ目の無い「シームレスな高校、短大、保育現場の繋がり」が構築される。 短期大学は、入学してから2年間という短い期間で保育者を育成し、しかも専門職就職率が9割を超える状況で学生を保育現場へと送り出す。言い換えれば、高校・保育現場と連携して、一貫した保育者育成環境を構築するには、短大が最も適していると言える。このように、本研究は、本学が短大の強みを活かしたものであり、研究テーマを地域社会にアピールしていくことで「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すものである。				
②2018年度の実施目標及び実施計画	■研究活動 <目標> ○「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」開発に向けた予備調査・研究に着手 <実施計画> ○各都道府県「教員育成指標」の調査研究 ○「高大接続改革」の下、「学びの連続性」を実現している高大接続事例の調査研究 ■ブランディング戦略 <目標> ○保育現場と高校のつながりを強化(高校生に、保育を志すきっかけを提供する) ○すすんだ保育研究を行っている短大としての認知度の向上(本事業の告知を行う) <実施計画> ○保育体験ツアーなど、高校生が「保育と出会うイベント」を開催(2021年度まで継続) ○本事業を紹介するWebサイトや印刷物の制作(2021年度まで継続)				

③2018年度の事業成果	■研究活動 ○本ブランディング事業全体の方向性（各都道府県「教員育成指標」の調査等含む）についてまとめた論稿を執筆した（増田翼「高校・養成校・保育現場をシームレスにつなぐ育成環境の構築に向けて～「教員育成指標」作成事例を手がかりに～」『仁愛女子短期大学研究紀要』第51号）。 ○「キャリア・ループリック」開発に向けて必要な研究内容を洗い出し、個々のテーマの仮題を決定した。 ■ブランディング戦略 ○広報活動としては、ホームページで事業採択の公表を行った。 ○2019年度からの事業推進に向け、ブランディング推進室を設置し、推進体制の強化を図った。
④2018年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	（自己点検・評価） 今年度は、3部会（研究実施、ブランディング戦略、プロジェクト評価）の自己点検・評価活動は行わず、全体会（次の外部評価の項目参照）で総括を実施した。なお、助成期間が3年に短縮されたことに伴い、短期間で成果が上げられるよう、年次計画の変更（5年→4年）及び組織改編によるブランディング推進室の設置を決定し、取組体制の再整備を行った。本格的なブランディング戦略活動は2019年から取組んでいく。 （外部評価） 平成31年3月28日（木）、外部評価員を招き2018年度研究ブランディング事業全体会を開催した。外部評価員に対し「申請事業」「年次計画の変更」「2019年度事業計画(案)」の説明を行い、次の意見を得た。 ○ループリックは、各段階で求められる「質」を4段階ほどで示すようにした方が、現場での研修や自己評価に使いやすくなると思う。 ○ループリックは、具体的に現場で実践されるパフォーマンスの状態を評価し、目に見える形にしていくことに意義があると考えるので、できるだけ「現場でこういった能力が必要か」を整理する必要がある。そのためにはアンカー（作品例）を作る必要がある。トップダウンで作成するよりも、各段階の保育者がお互いを評価し合い、その状態を表す言葉づくりをしていく方が良いと考える。それにより、学生や現場が見たときに分かりやすい表現になる。 ○ループリックは、一旦作って完成するものではなく、常にフィードバックを元に改訂していくという考え方で作り上げていく方が良いものになる。 ○映像教材の作成なども検討してはどうか。そうすれば、授業や現場でも使えるし、広報でも使えると思う。 ○現場としても、ループリックの作成を通じて、現場と養成校を繋げる良い機会だと思う。 ○保育者は、業務に追われがちで、自分にこういった能力が備わっているのか等、客観的に自分を見て、論理的に自分たちの仕事を位置づける機会が無いので、そういう機会にできると良い。 ○少子化で子どもが減っているものの、0～2歳の保育需要は増し、保育者不足となっている。行政と養成校が緊密に連携して取り組むことが大事である。 ○保育の仕事にどんな価値があり、どんな魅力があるのかを高校生のうちからしっかりと伝え、それを本人や周囲、現場が共有できるものにして欲しい。 ○養成校だけでなく、現場も動かないといけないと考えているので、この事業に協力したい。
⑤2018年度の補助金の使用状況	○資料複写代（国会図書館） ○研究ブランディング成果発表会参加 旅費（愛知文教女子短期大学主催） ○図書購入費（研究関連書籍） ○第6回仏教教育学研究会参加 旅費（建学の理念と大学教育） ○2018年度研究ブランディング事業全体会 開催関係経費

2

2019年度 進捗状況の報告

学校法人番号	181002	学校法人名	福井仁愛学園		
大学名	仁愛女子短期大学				
事業名	保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発 ～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	2018	年度～	2020 年度
参画組織	幼児教育学科、生活科学学科、研究活動委員会、CI委員会、点検評価推進室、情報資源センター、総合学務センター（旧：学生部および地域活動実践センター）、事務局				
事業概要	本事業の目的は、「保育職を志す高校生」が「豊かな経験を有する保育者」へと成長していくため、向上させるべき資質能力の継続的発展を示す「キャリア・ルーブリック」の開発を行い、高校・短大(養成校)・保育現場が三者間で連携・協働してシームレスな保育者育成環境を構築することにより、「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すことである。				
①事業目的	本学幼児教育学科では、これまで3ポリシー(AP・CP・DP)を設定し、適宜その見直しも行なってきた。しかし、見直しを重ねる中で、入口側であるAPと受験生が身につけている資質能力、出口側であるDPと保育現場が求めている資質能力との間には乖離（＝段差）があることが浮き彫りになってきた。この課題を明確にするため、平成26年度から4年間にわたり、福井県全幼稚園、保育所、認定こども園(計337園)を対象としたアンケート調査を実施し（回収率86%）、その結果を『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』（平成30年3月発行）としてまとめ、本学の保育者養成の特徴や課題の数値化及びその分析を行なった。 現在、本学が設定する3ポリシーは、あくまで短期大学の立場で、学生が入学時点で保有している学習水準から、卒業時点での獲得すべき学習成果の目標、及びその達成のための教育課程編成等の基本的な方針を言語化したものである。しかし、学生本人の立場からすれば、保育職を志望する時点から保育者になった後の将来に亘ってまで、一筋のキャリアとしてストーリー化でき得るものとはなっていない。そこで本学では、「保育職を志望する段階」から「管理職の保育者になる段階」までの間に求められる資質能力を、一貫して体系化していくためのものを「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」と名付け、開発を行なう。 キャリア・ルーブリックとは、本人が、高校、短大、保育現場の各段階で身につけるべき資質能力及びその段階的基準を共通化し、それを共有することにより「学びの可視化」を図るためのものである。この開発により、三者がキャリア・ルーブリックという一つのツールで繋がり、一体となって保育者を育成していくこととする育成環境、即ち、継ぎ目の無い「シームレスな高校、短大、保育現場の繋がり」が構築される。 短期大学は、入学してから2年間という短い期間で保育者を育成し、しかも専門職就職率が9割を超える状況で学生を保育現場へと送り出す。言い換えれば、高校・保育現場と連携して、一貫した保育者育成環境を構築するには、短大が最も適していると言える。このように、本研究は、本学が短大の強みを活かしたものであり、研究テーマを地域社会にアピールしていくことで「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すものである。				
②2019年度の実施目標及び実施計画	■研究活動 (目標) ○キャリア・ルーブリックを提示していきたいステークホルダーの実際の現状等を把握 ○キャリア・ルーブリックの具体的な文言の作成に着手 (実施計画) ○『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』に基づく追加調査 [アンケート調査および個別面接調査] ○高校進路指導部に対するアンケート調査 ○「保育体験ツアー」時における高校生へのアンケート調査 ○キャリア・ルーブリック試案の作成 ■ブランディング戦略 (目標) ○保育現場と高校のつながりを強化（高校生に、保育を志すきっかけを提供する） ○すすんだ保育研究を行っている短大としての認知度の向上（本事業の告知を行う） (実施計画) ○Webサイト、印刷物、SNS等を活用し、実施した内容とその成果を周知。				
③2019年度の事業成果	■研究活動 「研究実施部会」において詳細な研究テーマ・内容を決定するとともに、テーマに基づき3つの部会を設け、各々の研究活動の展開および進捗管理を行った。以下に、各部会の成果を簡潔に記す。 (第1部会)「保育者に求められる資質・能力とその獲得に向けた養成校における学習と評価」 ①全国の2年制保育者養成校におけるDPおよびAPを収集し、それぞれの傾向やいくつかのカテゴリーを抽出した。②現場保育者が好んで用いる「人間性」という言葉に着目し、保育者が求めている「人間性」とは何を指しているのか、という点を明らかにすべく、質問紙調査を行った。③保育者養成教育における「プログラミング教育」への考え方や「音楽的感性」を養う授業展開など、今後の日本の保育において求められてくるであろう学習成果や学習内容について研究を行った。④幼稚園実習、保育所実習に参加する学生に「実習先で気づいてほしい点」を開講科目ごとに記し表にした「実習ポートフォリオ」を新たに開発した。以上、第1部会での研究成果と課題をもとに、キャリア・ルーブリック試案のおおよその枠組みや、記述内容の方向性を議論した。				

③2019年度の事業成果	《第2部会》「ステークホルダーに対する養成校の役割」 連携協定先の各保育施設に対して幼児教育学科教員が定期的に巡回訪問等の関わりを続けるとともに、本学教員が担当する県内の様々な講座や研修において、保育現場からの直接の声を拾うなどして、ステークホルダーとの協議や連携を進めている。研究の成果としては、幼児教育学科に在籍中、計5回の実習に行く学生たちが、その都度の実習で何を体験しているのかについて、実習後アンケートの記述から明らかにした。その結果、実習の時期や実習種別によって経験内容、学習内容が異なっており、この点については、今後、保育現場と共有していく予定である。ところで、2019年8月開催の「保育現場体験ツアー」では、参加した48名の高校生へアンケート調査は実施したものの、研究成果としてまとめ上げるまでには至っていない。また、計画にある高校進路指導部への直接の調査は未だ実施できていない。保育職を志望する高校生に焦点を当てた研究成果としては、関連する先行研究を集め、その系譜と課題をまとめることで、養成校として高校側にどのようにアプローチすべきかの方向性を定めた。 《第3部会》「社会の実態、ステークホルダーの実態」 様々な人々にとって「保育職」に対するイメージはどのようなものなのかを調査している。その調査の第一段階として、2019年度は本学学生に対して質問紙調査を実施し、まずは保育者を希望する者のイメージ傾向を明らかにした。 ■ブランディング戦略 保育現場と高校のつながりを強化し、高校生に対して保育を志すきっかけを提供することを目標とする活動として、県内の二つの高校との複数回にわたる連携授業およびその後の保育現場での成果発表の実施に取り組んだ。あるいは上述の「保育現場体験ツアー」による附属幼稚園との協働など、これまで以上に、高校生と保育現場とをつなげる役目を本学が果たすことで、保育職の魅力を発信するとともに本学のブランドの向上等に寄与した。 最先端の保育研究を行っている短大としての認知度の向上ならびに本事業の告知を目標に、「ブランディング戦略部会」メンバーで本事業の発端や研究課題について共有したうえで、事業趣旨を具現化するようなロゴマークの制作、本事業を紹介するリーフレットの作成、特設webページの開設などを行った。さらに、最寄りのJR森田駅に附設されているギャラリーにおいて、本事業の告知に努めた。 なお、年度末に、研究活動およびブランディング戦略の詳細をまとめた『2019年度成果報告書』を刊行し、本学教職員および本事業関係者へと送付している。
④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	(自己点検・評価) ○部会の一つである「プロジェクト評価部会」は、2019年度の本事業活動を以下のように評価した。 ・事業計画に基づく実態把握・共有・展開への流れなど、進捗状況を確認しながら今後の課題についても整理されている。 ・研究実施部会では、2019年度当初の目標（短期目標）に沿って、著書・論文・学会発表など積極的な研究活動が行われ、教員の専門性や担当授業の特性を活かした研究、保育者養成に関わる多面的な視点からの研究がなされている。 ・ブランディング戦略部会では、できる限りの機会をとらえ、仁愛女子短期大学のブランドを意識して広報活動を積極的に行い、学外への周知は徹底していると評価する。 ・それぞれの活動をPDCAサイクルで確認しながら展開を図り、十分に集められた素材を活かしてループブリック作成に臨める準備はできていると思われる。 (外部評価) ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年3月に開催を予定していた「全体会（外部評価委員会）」は中止とし、外部評価員には『2019年度成果報告書』を送付するとともに、書面にて下記のような評価内容をいただいた。 「研究実施部会 活動報告」に対する評価 全体として、活発な研究活動を実施されており、本事業の根幹となる目的の達成に資するような成果が一定程度挙げられている。残念ながら、2019年度の目標に掲げられていた「キャリア・ループブリックの具体的な文言作成に着手」という部分が進められておらず、この作業に早急に取り組む必要がある。 本事業全体のねらいは、保育者のキャリア全体で求められる資質能力を示すループブリックを開発することだが、2020年度中にキャリア・ループブリック全体を試作し、完成させることは時間的に難しいように思われる。むしろ、子どもとの関わりや、保護者との関わり、設定保育といった保育者のパフォーマンスのいずれか一つに絞って、ループブリックの試作に取り組んでみてはどうか。 「ブランディング戦略部会 活動報告」に対する評価 全体として、活発なブランディング戦略の活動が行われており、仁愛女子短期大学のブランドイメージの向上と確立に資する成果が一定程度挙げられていると考えられる。とりわけ、保育現場体験ツアーや高校との連携授業、オープンキャンパスでの卒業生による設定保育の実施といった事業は効果的であり、今後の継続・充実が望まれる。さらには、ブランディング戦略活動とループブリック開発のための研究活動をより一層連携させ、ループブリックの開発のための素材（優れた保育者のパフォーマンスの実例）を集め、研究と広報の両方に生かしていくことが効果的だと考える。
⑤2019年度の補助金の使用状況	補助金使用については、年度当初に研究実施部会ならびにブランディング戦略部会が作成した事業計画書に基づき、総合学務センター内に所属する「ブランディング推進室」にて随時進捗状況を確認しつつ、下記の通り執行した。 ■研究活動 研究に伴う図書購入費、文献複写費、郵送費、学術大会・セミナー参加費および旅費、消耗品購入費 ■ブランディング戦略 ブランドイメージの向上および確立のための広報材料制作費（撮影費・デザイン費・印刷費）、本事業専用webページおよびバナー設計・制作・開設費、新聞掲載広告費、広報活動支援のための機器備品購入費（iMac・iPad等）、郵送費、高校生および卒業生対象イベント諸経費（保険代・参加品制作費など）

学校法人番号	181002	学校法人名	福井仁愛学園		
大学名	仁愛女子短期大学				
事業名	保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発 ～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	480人
参画組織	幼児教育学科、生活科学学科、研究活動委員会、CI委員会、点検評価推進室、情報資源センター、総合学務センター(旧:学生部および地域活動実践センター)、事務局				
事業概要	本事業の目的は、「保育職を志す高校生」が「豊かな経験を有する保育者」へと成長していくため、向上させるべき資質能力の継続的発展を示す「キャリア・ルーブリック」の開発を行い、高校・短大(養成校)・保育現場が三者間で連携・協働してシームレスな保育者育成環境を構築することにより、「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すことである。				
①事業目的	本学幼児教育学科では、これまで3ポリシー(AP・CP・DP)を設定し、適宜その見直しも行なってきた。しかし、見直しを重ねる中で、入口側であるAPと受験生が身につけている資質能力、出口側であるDPと保育現場が求めている資質能力との間には乖離(＝段差)があることが浮き彫りになってきた。この課題を明確にするため、平成26年度から4年間にわたり、福井県全幼稚園、保育所、認定こども園(計337園)を対象としたアンケート調査を実施し(回収率86%)、その結果を『福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書』(平成30年3月発行)としてまとめ、本学の保育者養成の特徴や課題の数値化及びその分析を行なった。 現在、本学が設定する3ポリシーは、あくまで短期大学の立場で、学生が入学時点で保有していて欲しい学習水準から、卒業時点での獲得すべき学習成果の目標、及びその達成のための教育課程編成等の基本的な方針を言語化したものである。しかし、学生本人の立場からすれば、保育職を志望する時点から保育者になった後の将来に亘ってまで、一筋のキャリアとしてストーリー化でき得るものとはなっていない。そこで本学では、「保育職を志望する段階」から「管理職の保育者になる段階」までの間に求められる資質能力を、一貫して体系化していくためのものを「保育者育成のためのキャリア・ルーブリック」と名付け、開発を行なう。 キャリア・ルーブリックとは、本人が、高校、短大、保育現場の各段階で身につけるべき資質能力及びその段階的基準を共通化し、それを共有することにより「学びの可視化」を図るためのものである。この開発により、三者がキャリア・ルーブリックという一つのツールで繋がり、一体となって保育者を育成していくとする育成環境、即ち、継ぎ目の無い「シームレスな高校、短大、保育現場の繋がりが構築される。 短期大学は、入学してから2年間という短い期間で保育者を育成し、しかも専門職就職率が9割を超える状況で学生を保育現場へと送り出す。言い換えれば、高校・保育現場と連携して、一貫した保育者育成環境を構築するには、短大が最も適していると言える。このように、本研究は、本学が短大の強みを活かしたものであり、研究テーマを地域社会にアピールしていくことで「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指すものである。				
②2020年度の実施目標及び実施計画	■研究活動 (目標) ○キャリア・ルーブリック試案の検証と改善点の洗い出し ○キャリア・ルーブリック完成版の作成 ○『中間報告書』の作成、配布 ○研究成果をまとめた書籍の出版 (実施計画) ・キャリア・ルーブリック試案の検証 ・キャリア・ルーブリック試案の改善点の洗い出し ・キャリア・ルーブリック完成版の作成 ・各研究テーマに基づく調査分析、文献収集、執筆 ・学会発表、学会誌投稿 ・研究成果をまとめた書籍の作成 ■ブランディング戦略 (目標) ○キャリア・ルーブリックの名称の認知度向上 (実施計画) ・保育体験ツアーの実施(キャリア・ルーブリックの活用) ・オープンキャンパスや各種説明会での本事業のPR ・キャリア・ルーブリックの完成周知				

③2020年度の事業成果	■研究活動 2020年度は、「キャリア・ルーブリック」研究を主軸としながら、その前提となる「3つのポリシー」や「ステークホルダーとの関係性」についても調査研究を重ねた。また2020年の新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けた短大における教育・研究活動に関して学内教職員に実践記録等の執筆を働きかけた。これらの各論考をまとめたものを2021年3月に『2020年度成果報告書』(中間報告書)として発行し、その内容を学内教職員で共有するとともに関係者、関係機関各所に送付した。なお当初計画していた書籍の出版については、『2020年度成果報告書』の発行およびPDFデータの公開(ブランディング専用webページにて)によって代替することとした。 『2020年度成果報告書』のおおまかな内容は以下の通りである。 【第1部】「保育者養成校としての現状および課題」と題し、「キャリア・ルーブリック」開発の前提として 整備・充実を図るべき本学の「3つのポリシー」について、その変遷を辿るとともに、養成校としての「3つのポリシー」に関する現状と課題を明らかにした。 【第2部】「キャリア・ルーブリック試案と養成校の今後:ステークホルダーとの関係性」というタイトルのもと、本ブランディング事業の中核である「キャリア・ルーブリック」作成に関して経緯をまとめた。「キャリア・ルーブリック」については未だ「試案」の段階ではあるが、おおよその枠組みや記述内容等は定まってきており、2021年度には完成する予定である。ほかにも、「キャリア・ルーブリック」を通じて高校および保育現場とどのような関係を構築していけばよいといった点に関して、実際にステークホルダーを対象とした調査などを踏まえながら考察を展開した。 【第3部】「コロナ禍における保育者養成校の現状と課題」は、2020年度の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い変革を迫られた保育者養成教育について各々の経験をまとめた。この作業によって、保育者養成教育における対面授業の重要性、あるいはオンライン授業の可能性などが明らかになった。 ■ブランディング戦略 2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、ブランディング戦略活動については大きな制約を受けることとなった。特にこれまで当たり前であった「対面」を基本とする説明会、オープンキャンパス、見学会、写真撮影、高校訪問などのすべてが、コロナ対応の結果、縮減もしくは中止せざるを得なくなり、再検討を迫られた。そこで、2020年4月の段階から、まさに「対面」しないブランディング戦略としてYouTubeチャンネル配信に注力することとした。動画コンテンツを主軸とする戦略に移行するなかで、「保育の学びがみえる仁短」をいかに動画内で表現するか、という課題が浮上し様々な企画を試みるようになった。2020年度を通じて動画制作の経験を重ねたことで、現在、本学YouTubeチャンネルは魅力ある広報ツールへと変貌を遂げつつある。ほかにも「対面」しないブランディング戦略の一環として、Webオープンキャンパスの実施、Jin-tan Press「聞いてみよう保育のお仕事」(広報リーフレット)の発行なども試みた。 なお「キャリア・ルーブリック」の周知や活用といった点に関してはその完成後に本格化するしかないが、すでに「大学案内」等ではそれらの議論を活用したページ構成を取り入れ、高校生等により分かりやすく保育の学びを見せる工夫を展開している。
④2020年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	(自己点検・評価) ○「プロジェクト評価部会」では、2020年度の本事業活動を以下のように評価した。 2019年度報告書で蓄積された成果を考慮して「保育者養成校としての現状及び課題」「キャリア・ルーブリック試案と養成校の今後:ステークホルダーとの関係性」をまとめ、さらには「コロナ禍における保育者養成校の現状と課題」を加えて3部に構成された『2020年度成果報告書』は、解説により全体の流れがつかみやすくなっている。この1年間で確実に成果をあげており、さらなる発展につながるものと確信している。 (外部評価) ○2021年3月26日に開催された「全体会(外部評価委員会)」において、下記のような評価をいただいた。 【キャリア・ルーブリックについて】 高校生から現場保育者までの流れを一目で確認できるのはいへん分かりやすく、完成した後は現場でも参考にしたいと考えている。また、「保育者の人間性」が重視されている点も、現場を見ていると納得できるものである。ただし、作成されている表を見る限り、これは「ルーブリック」よりも「キャリア・ラダー」に近いものと言える。また、表内での区分けにおいて「資質・能力」の分類ということが示されているが、「ルーブリック」を意識するのであれば、保育者としての「パフォーマンス」を見る観点、として捉えた方がよいかもしれない。併せて、具体的な各記述が人を主語とする文章で書かれているが、「ルーブリック」では一般的に、実際に要求されるパフォーマンスを主語にすることが多いので参考にしたい。いずれにせよ、「ルーブリック」を完成させるのだとすれば、今後はこの表を自己評価、他者評価のツールとして用いることが想定されるが、そういった意味で、どういった場面で活用していくのかを検討する必要がある。加えて、「中堅」「熟練」の項目の作成に早急に取り組む必要がある。 【小中高生への関わりについて】 保育者の志望が年々減っていることに衝撃を受けている。中高生の職場体験が保育者志望につながっているという点を考慮すると、自治体内にある各園でもっと積極的に保育体験を受け入れる必要性を感じている。ただし、自治体によっては高校生が現場に来る機会が少ない(自治体内に高等学校がない)こともあり、どのように高校生とのつながりを創出していけるかを考えていかないとならない。ほかにも、たとえば東京都文京区では、区立小学校に通う児童と、地域の赤ちゃんが触れ合う「赤ちゃん登校日」という企画を実施している。そのように、地域全体で子どもに関わる機会を設けるとともに、そのコーディネート役を仁愛短大が担うなどすると将来の保育者志望者の増加につながるのではないだろうか。 【保育者養成・育成の現状について】 保育人材の確保、育成はなかなか難しいのが現状である。特に確保という点を考えると、男性保育者の確保ということも考えていきたいが、あまり状況について詳しく知る機会がない。男性保育者養成についても、ぜひ研究を進めてほしい。
⑤2020年度の補助金の使用状況	補助金使用については、年度当初に研究実施部会ならびにブランディング戦略部会が作成した事業計画書に基づき、総合学務センター内に所属する「ブランディング推進室」にて随時進捗状況を確認しつつ、下記の通り執行した。 ■研究活動 『成果報告書』製本印刷費、研究に伴う図書購入費、学術大会・研究会等参加費、機器備品購入費(データ保存用PC等、現場保育者研修用iPadおよび通信回線使用料)、消耗品購入費など ■ブランディング戦略 ブランドイメージの向上および確立のための広報材料制作費(撮影費・デザイン費・印刷費)、HP更新・修正・リニューアル費、CM・Webサイト制作費、広報活動支援のための機器備品購入費(動画撮影用機材、Cloudサービス年間ライセンス等)、郵送費、動画出演謝礼など

学校法人番号	181002	学校法人名	福井仁愛学園
大学名	仁愛女子短期大学		
事業名	保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～		

【研究活動における成果】

○「キャリア・ルーブリック」開発

「保育職を志す高校生段階」―「保育者養成校在籍学生段階」―「豊かな経験を有する熟練保育者段階」という各時期において求められる(向上すべき)資質・能力の継続的発展を示す「キャリア・ルーブリック」の開発に取り組み、おおよその枠組みと表内に記述する具体的な文言を定めた(最新版:試案ver.5)。さらに試案ver.5(図1)を現場保育者等に実際に提示し意見聴取することで、今後の改善点を明らかにした。

	高校3年生	2年生段階	1年生段階	2年生段階	2年生段階	前入学生育	中堅指導者	経験豊富な
	高校3年生	2年生段階	1年生段階	2年生段階	2年生段階	前入学生育	中堅指導者	経験豊富な

	【ブランディング戦略における成果】 ○広報ツール ・本事業紹介リーフレット制作 ・特設Webページ開設 ・公式YouTubeチャンネル開設 ・Webオープンキャンパス実施 ・Jin-tan LIVE(リアルタイム配信型座談会)実施 ・OG's Voice(広報リーフレット)発行 ・Jin-tan Press「聞いてみよう保育のお仕事」(広報リーフレット)発行 ・短大ホームページリニューアル ○保育現場と高校のつながりを強化(保育を志す機会の提供) ・本学附属幼稚園での「保育現場体験ツアー」の実施(2020年度はコロナの影響で中止に) ・県内高校と複数回にわたる連携授業を実施(最後に保育現場で成果発表) ・Zoomを用いて県内高校と保育現場を接続し、保育現場の様子を直接高校生に配信 ○本事業の周知(認知度向上、魅力発信) ・ロゴマーク、イメージキャラクター制作 ・最寄のJR森田駅ギャラリーにて本事業告知 ※以上の内容については、ブランディング特設Webページにて紹介 https://www.jin-ai.ac.jp/branding/news/ ※仁愛女子短期大学公式YouTubeチャンネル https://www.youtube.com/channel/UCzW9O1Yc8fg9FiboMOqUwIA
今後の事業成果の活用・展開	【研究活動】 「キャリア・ループブック」を完成させ、ステークホルダーに対して公開し活用を促す。加えて、これまでの研究から見出された以下の新たな課題について、今後も継続的に研究を推進していく。 ○小中学生の方から自発的に「保育者になりたい!」と思ってもらえるような企画とは? ○高校生の保育職志望意欲を高めつつ、養成校での具体的な学習内容を伝える方法は? ○本学APの特徴である「他者の話や意見を聴く」の位置づけと入学後の学習成果との関係について ○社会・理科・数学・外国語等と保育内容との関連(高校生の保育職志望者を増やすために) ○幼児教育学科各授業科目において「地域社会に貢献」をどのように捉えるか? ○遠隔授業対応や、きめ細やかな学生支援に関する研究の充実 ○「実習振り返りシート」の改善・充実、「実習日誌」様式の見直し ○学生に対する「キャリア・ループブック」の試行・活用について ○保育者に求められる「人間性」に関するさらなる研究 ○今後の現職者研修の在り方に関する研究 ○養成校を卒業し新人保育者として働き出す期間＝「移行期」をどう捉えるべきか? 【ブランディング戦略】 2020年度に活動を展開したWeb上での広報戦略を継続するとともに、「保育の学びがみえる仁短」をより周知するための広報ツールやコンテンツの開発・改善を進めていく。また「キャリア・ループブック」完成後には、高校生等にも積極的に公開し、保育職志望者の増加につなげていきたい。 【その他】 以上の各研究活動およびブランディング戦略と併行して、高校—養成校—保育現場という3者間の連携・協働を進めていくために、次の2つの企画を計画している。 ①2021年5月16日:日本保育学会第74回大会「自主シンポジウム」【開催済】 ②2021年秋ごろ(予定):「ブランディング成果報告Webシンポジウム」 ※①については、本事業取組代表者である増田翼(仁愛女子短期大学)の企画にもとづき、「保育の質の確保・向上のために求められる『情報発信の質』とは～高校・養成校・保育現場および自治体の連携を通して～」というテーマでの自主シンポジウムを開催した。当日は、話題提供者として伊藤きみ子(坂井松涛保育園)、藤下紀之(仁愛女子高等学校)、青木美恵(福井県教育庁義務教育課)、指定討論者として宮本雄太(福井大学大学院連合教職開発研究科)に登壇を依頼し、オンライン(Zoom)上での討議を行った。 ※②のWebシンポジウム開催後には、本事業全体の成果を取りまとめた「最終報告書(仮)」を作成する予定である。

PART II

キャリア・ループリック

保育者としての意識・態度

新人保育者 子どもの成長に関わっている実感を持ち、保育の仕事のやりがいに気づく

- I303 ☐ 人権擁護の意識にもとづき子どもや保護者と関わるができる
- I302 ☐ 成長に喜びを感じながら子どもと接することができる
- I301 ☐ 保育職の魅力を他者と共有できる

2 回生後期 子どもと共に成長する保育者の意義と役割に気づく

- I253 ☐ 保育者の使命、役割、責任について記述できる
- I252 ☐ 自ら育つものを育たせようとする保育者特有の関わり方について記述できる
- I251 ☐ 子どもを共感的に理解することができる(≠客観的理解)

2 回生前期 一人ひとりに応じるための保育者の基本姿勢について気づく

- I203 ☐ 子どもの感情の変化、喜びや葛藤などを捉えることができる
- I202 ☐ 子どもの意見を傾聴しようと努めることができる
- I201 ☐ 誠実、公平かつ受容的態度で子どもに関わろうと心がけることができる

1 回生後期 子どもの行動や表情から内面を推し量り、子どもが自分でできるように見守るときもあることに気づく

- I153 ☐ 子どもとの関わりを通して、子どもの最善の利益とは何か議論することができる
- I152 ☐ 子どもとの自主性(自発性・主体性)と保育者の援助との関係性について記述できる
- I151 ☐ 子ども一人ひとりの生活・遊びへの取り組み方を捉えることができる

1 回生前期 子どもに対し、温かく、愛情をもって接することが大切であることに気づく

- I103 ☐ 子ども一人ひとりの人権を尊重できる
- I102 ☐ 保育者(実習生)としての心構えができている【身だしなみ、言葉遣い、個人情報の保護・守秘義務の遵守】
- I101 ☐ 子どもにも好意をもって優しく接することができる

発達支援 学び・育ちの見取り

新人保育者 子ども一人ひとりの発達の違い、活動の仕方の違いに気づく

- 2303 ☐ 子ども理解に基づく観察・記録・評価内容をもとに要録をまとめることができる
- 2302 ☐ 障害児や医療的ケア児の生活課題に応じた援助ができる
- 2301 ☐ 一人ひとりの発達過程や発達課題に応じた援助ができる

2 回生後期 保育記録を通して、子どもの発達や学びを評価していく重要性に気づく

- 2253 ☐ 発達支援の多様な方法を記述できる
- 2252 ☐ 障害児や医療的ケア児の発達特性を考慮した環境の構成について議論できる
- 2251 ☐ 子ども理解に基づく記録内容をもとに発達や学びを評価できる

2 回生前期 子どもの発達や学びを記録する際の書き方および着目点に気づく

- 2203 ☐ 発達・発達を踏まえた遊びの環境を構成できる
- 2202 ☐ 発達・発達を踏まえた生活環境を構成できる
- 2201 ☐ 子ども理解に基づく記録内容を他者と共有できる

1 回生後期 子どもの発達や学びを理解するためにどういった点に着目すればよいのかに気づく

- 2153 ☐ 発達・発達を踏まえた生活環境の特徴を記述できる
- 2152 ☐ 疾病予防や疾病対策、心身不調児への対応などを記録できる
- 2151 ☐ 子ども理解に基づく観察内容を記録できる

1 回生前期 年齢や個人差により発達には大きな違いがある、という見方が重要であることに気づく

- 2103 ☐ 発達・発達を踏まえた遊びの環境の特徴を記述できる
- 2102 ☐ (実習において)担当クラス児の学びの過程や特性を記述できる
- 2101 ☐ (実習において)担当クラス児の心身の発達過程および特徴を記述できる

計画と評価 ねらいおよび内容

3

新人保育者 子どもの姿に応じた保育の流れが大切であることに気づく

- 3303 □子どもの姿をもとに日々のねらいを定めることができる
- 3302 □発達の見通しをもった指導計画を構想できる
- 3301 □保育目標の達成に向けた保育を展開できる

2 回生後期 子どもの姿から次の保育の計画を立てていく流れに気づく

- 3253 □指導計画をパソコン上で作成できる
- 3252 □子ども一人ひとりの動きや活動の展開を予測できる
- 3251 □自ら立案した指導計画の課題を振り返ることができる

2 回生前期 指導案、環境構成、実際の保育実践、子どもの様子との関係性に気づく

- 3203 □（学外実習で1時間程度の）主活動の指導案に基づく保育実践を展開できる
- 3202 □（学外実習で1時間程度の）主活動の指導案に基づく環境の構成ができる
- 3201 □（学外実習で1時間程度の）主活動の指導案を立案することができる

1 回生後期 ねらいと内容との関係、さらに環境構成や保育実践との関係に気づく

- 3153 □「5領域」「ねらい及び内容」といった保育の構造について説明できる
- 3152 □計画-実践-記録-省察-評価-改善というサイクルを回していくことの重要性を説明できる
- 3151 □全体的な計画と各指導計画との関係を説明できる

1 回生前期 ただ遊んでいるわけではなく、多層にわたる計画のもとに保育が実践されていることに気づく 子ども・保育を捉える視点が5つ（5領域）あることに気づく

- 3103 □（附属幼稚園実習で）部分的な指導案に基づく保育実践を展開できる
- 3102 □（附属幼稚園実習で）部分的な指導案に基づく環境の構成ができる
- 3101 □（附属幼稚園実習で）部分的な指導案を立案できる

表現力・指導力 教材研究 環境の構成 クラス運営

4

新人保育者 活動への参加を促したり、指示を伝える際に何が大切なことに気づく

- 4303 □子どもが主体的に遊び込める環境を構成できる
- 4302 □養護と教育の一体性を前提とする生活環境を構成できる
- 4301 □特別な配慮、合理的配慮を踏まえた環境を構成できる

2 回生後期 環境構成を豊かにしていくために自分に足りないことに気づく

- 4253 □SDGs(ESD)を考慮した保育環境について議論できる
- 4252 □保育活動におけるICT活用について議論できる
- 4251 □他者の環境構成・表現技術を批判的に捉え議論できる

2 回生前期 環境構成や保育実践（表現技術）における保育者の工夫や配慮に気づく

- 4203 □現場保育者の魅力的な表現技術を自ら取り入れて活動できる
- 4202 □個への援助と集団への指導を考慮した環境を構成できる
- 4201 □身につけた保育技術や表現方法を状況に応じて展開できる

1 回生後期 どういった環境構成や表現技術をするかで子どもの活動は変化するということに気づく

- 4153 □生活と遊びの充実に向けて保育内容を自ら研究できる
- 4152 □生活と遊びの充実に向けてICTを適切に活用できる
- 4151 □子どもの興味・関心を惹く表現技術や環境構成を実行できる

1 回生前期 養成校で学ぶ表現技術が保育場面でどのように必要なのかに気づく

- 4103 □身近な素材や保育教材等の特性を活かした環境を構成できる
- 4102 □実際に保育教材を準備・作成できる
- 4101 □様々な表現技術を活用しながら保育活動を充実させることができる

保護者支援 子育て支援 地域社会 関係諸機関連携

5

新人保育者 保護者の想いに気づく
地域社会に暮らす様々な人々の想いに気づく

- 5303 □福井県（地域社会）の自然や文化に根づいた保育を展開できる
- 5302 □多様な家庭環境（特別な配慮を要する家庭環境）を把握し適切な対応ができる
- 5301 □保護者とコミュニケーションをとる際に話しやすい雰囲気になるよう工夫できる

2 回生後期 保護者を支援することの大切さに気づく
教育・福祉に携わる種々の人々（他職種）の存在に気づく

- 5253 □保幼小連携・接続を視野に入れた保育活動について議論できる
- 5252 □地域社会、関係諸機関（行政含む）、他職種の専門家などと連携・協働していく必要性について記述できる
- 5251 □保護者の抱える悩みや実態について記述できる

2 回生前期 保護者を支援する際のポイントに気づく
障害児保育・特別支援教育の見方・考え方に気づく

- 5203 □障害児や特別ニーズを有する子どもの生活上の困難を改善するための様々な組織的援助について記述できる
- 5202 □虐待・貧困家庭、外国籍の子どもなどへの組織的対応について記述できる
- 5201 □保護者との関係を築くために保育者が行っている様々な活動や工夫点について記述できる

1 回生後期 保護者支援の難しさに気づく
地域社会には教育や児童家庭福祉に関連する様々な諸機関が存在することに気づく

- 5153 □様々な支援体制および地域の社会資源について記述できる
- 5152 □社会的養護に関わる専門職者の役割や責務について記述できる
- 5151 □家庭の機能やその変化の理解にもとづいた支援の重要性について記述できる

1 回生前期 保育は、子どもの援助だけではなくて、保護者支援も重要であることに気づく
「学校教育」と「保育」の共通点および相違点に気づく

- 5103 □小学校以降とは異なる保育の特質（原理）を記述できる
- 5102 □保育現場に対する保護者の想いや関わりについて記述できる
- 5101 □子どもやその家族を取り巻く社会状況について記述できる

健康・安全・食育 危機管理

6

新人保育者 危機管理意識が生活のベースになければいけないことに気づく

- 6303 □食物アレルギー児への関わりおよびアレルギー症状発症時の対応を実行できる
- 6302 □保育室や遊具などの安全管理を徹底するとともに安全指導ができる
- 6301 □園内の危機管理体制を理解したうえで、緊急時などは適切な行動がとれる

2 回生後期 保育環境と危険との隣り合わせの状況に気づく

- 6253 □食に関わる保育環境の構成ができる
- 6252 □子どもの事故防止を踏まえた安全教育の意義について記述できる
- 6251 □保健的な視点にもとづき保育環境を評価できる

2 回生前期 保育現場で実践されているリスクマネジメントの工夫点に気づく

- 6203 □避難訓練（防災・減災）の意義について記述できる
- 6202 □危機管理のための組織と仕組みについて記述できる
- 6201 □感染症対策の要点について記述できる

1 回生後期 危機管理という考え方があることに気づく

- 6153 □発達に応じた食行動を理解し適切な援助・指導ができる
- 6152 □慢性疾患、アレルギー性疾患、子どもの体調不良、ケガ等に対する適切な対応について記述できる
- 6151 □安心安全に向けた危機管理の必要性について記述できる

1 回生前期 子どもの健康・安全・食育といったことの配慮も保育者の役目であることに気づく

- 6103 □食育の重要性について記述できる
- 6102 □ケガ・事故防止といった安全管理の視点から保育環境を捉えることができる
- 6101 □衛生管理、感染症対策といった視点から保育環境を捉えることができる

自己管理および組織管理

新人保育者 自分の働き方の長所・短所に気づく
多様な年代の職員同士で協働していくことの意味に気づく

- 7303 ☐ 組織の一員としての働き方を理解し、仕事をこなすことができる
- 7302 ☐ 自分の考えを伝えるとともに、助言を受け止めることができる
- 7301 ☐ 自らの保育実践を反省的に振り返ることができる

2 回生後期 自分の特性に応じた就職先選びが大切であることに気づく
他人（特に後輩）に自分の経験を語ることの重要性に気づく

- 7253 ☐ 保育者への移行に伴う心構えができていく
- 7252 ☐ これまでの保育経験・学習経験と今後求められる自己の役割との関連性について記述できる
- 7251 ☐ 自分の特性に応じた就職先を見つけることができる

2 回生前期 自分の強みと弱み、自分と保育職との距離に気づく

- 7203 ☐ 目指す保育者像を記述できる
- 7202 ☐ 自分の特技・得意分野について記述できる
- 7201 ☐ 自分の長所・短所について記述できる

1 回生後期 園によってまったく保育方針や保育内容が異なる（働き方が異なる）ことに気づく

- 7153 ☐ 健康の維持に努めることができる
- 7152 ☐ 日々の感情の起伏をある程度コントロールできる
- 7151 ☐ 広い視野で物事を捉えることができる

1 回生前期 自ら学習目標を設定し、自己主導型（自己決定型）の学習を実践・管理することの必要性に気づく

- 7103 ☐ 学習に必要な環境・ツールなどを適切に管理できる
- 7102 ☐ 自分に合った学習リズム・学習ベースを構築できる
- 7101 ☐ 自ら学習目標を設定し、その目標に対する自己評価を実行できる

仁愛女子短期大学幼児教育学科
「保育者育成のためのキャリア・ループブック」
【短期的ループブック】
最終更新日：2022年2月8日

「キャリア・ルーブリック」の見方および活用方法

「ルーブリック」の一般的構造

まずは「ルーブリック」の概要についてまとめておきます。そもそも「ルーブリック」とは学習状況等を評価するためのツールの一つで、現在は広く学校教育や産業界で用いられています。その厳密な定義が存在するわけではありませんが、一般的には、以下のような説明がよくされています。

学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点(規準)】と、観点の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した【評価の基準】から構成される評価ツール

(関西大学https://www.kansai-u.ac.jp/ap/activity/images/rubric_guide_faculty.pdf)

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表

(糸賀暢子・元田貴子・西岡加名恵『看護教育のためのパフォーマンス評価』医学書院、2017年)

よく見かけるタイプは表1のような形式で、縦軸に評価観点が、横軸に評価尺度が、各セルに評価基準が記述されているものです(不可から優は、左→右と右←左、両者存在します)。

表1 ルーブリック例①

観点	評価尺度			
	不可	可	良	優
内容	☐ ☐	☐ ☐	☐ ☐	☐ ☐
論理的思考	☐ ☐	☐ ☐	評価基準	☐ ☐
批判的思考	☐ ☐	☐ ☐		☐ ☐
自己の見解	☐ ☐	☐ ☐	☐ ☐	☐ ☐

表1ほどには見かけませんが、評価基準の記述内容が表2のようにになっている形式もあります。表1では、各セルの記述内容を尺度に応じて変化させる必要があり、ときにそれが冗長だったり分かりづらかったりする場合がありますが、表2では、すべて同じ記述内容を用意し、自己評価する側のチェック数に応じて点数化することで不可から優を示す、というところに明快さがあると言えます。

表2 ルーブリック例②

観点	評価尺度			
	不可	可	良	優
内容	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【0点】	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【1点】	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【2点】	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【3点】
論理的思考	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに触れている 【0点】	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに触れている 【1点】	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに触れている 【2点】	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに触れている 【3点】

表1・表2がともに、「個々の課題」を評価する際に作成されることが多いのに対して、学習者等の「長期的な発達・成長」を捉えるために作成されるルーブリックも存在します。これが「長期的ルーブリック」と呼ばれるものです(表3)。長期的ルーブリックは、特定課題、単元、学年なども越えて、より中長期的に学習者等の成長を描き出すようなルーブリックのことで、後で述べる「キャリア・ラダー」に近いものとも言えます。実際に長期的ルーブリックをもとにカリキュラムを運用している事例としては、「あじさい看護福祉専門学校 看護学科」の実践が参考になります(糸賀・元田・西岡、前掲書、22頁、134-135頁)。

(https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/226085/1/hte_019_1.pdf)

表3 長期的ルーブリック例

		観点			
		看護師としての適性	看護に関する知識・スキル	批判的省察 課題探究力	看護を創造する力
求められる 力量レベル	合格レベル (3年時修了・卒業時)	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐
	2年次修了時	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐
	1年次修了時	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐
	学びはじめレベル (入学時)	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐

「キャリア・ラダー」について

以上のようなルーブリックとは別に、特に看護学・看護教育学の分野において「キャリア・ラダー」と呼ばれるツールの開発・運用も進んでいます(表4)。「キャリア・ラダー」とは、おおまかにまとめると以下ようになります。

(参考:原玲子『目標管理とリンクした看護職キャリア開発ラダーのつくり方・活かし方』日本看護協会出版会、2015年)

専門職者の能力(実践能力、自己教育研究能力、組織的役割遂行能力、倫理観と地域貢献)を、ラダー(梯子)のように設定し、能力の発達や開発について段階的に発展させた表のこと。その専門職に関係するすべての人がお互いに能力段階を確認しながら、自己研鑽や人材育成を進めるための有用なツールとなるもの。

(香川県立中央病院HP <http://www.chp-kagawa.jp/nurse/edu/kyariarada/?mode=pc>をもとに修正加筆)

表4 キャリア・ラダー例

		レベル				
		初心者	新人	中堅前期	中堅後期	熟練
領域	看護ケア実践能力	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
	マネジメント能力	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
	教育・研究能力	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
	人間関係力	☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐
		☐	☐	☐	☐	☐

仁愛短大版「キャリア・ループリック」の構造

ここまで見てきたようなツールの仕組みを取り入れながら、仁愛短大版の「キャリア・ループリック」は作成されました。以下では、その構造について説明したいと思います。

まずは、「長期的ループリック」＝「キャリア・ラダー」に該当する部分です。これは、縦軸に私たちが独自に区分した観点を並べ、横軸に各時期を配置した表です。この観点と時期とが交わる各セルに記述されているものが、その期に求められるおおよその目標となります。ただし、この目標の記述の仕方は、高校生段階、養成校段階、現場保育者段階それぞれで幾分違いが見られます。

- ① 高校生段階においては、明確に観点別の記述を用意せず、保育職志望の前提となるような内容を目標とした。
- ② 養成校段階においては、文末を「気づく」で統一した。これは、保育者への成長目標を「できれば良い」「できなければダメ」とYes/NOで解釈することがないように、また単なる知識技能の獲得に終止しないように、との自戒の念を込めてわざと記したものである。
- ③ 「新任」段階までは、上記②と同様に各目標の文末を「気づく」で統一している。これは、「養成校から保育現場への移行」を視野に入れた際、卒業するまでに学生自身が意識できるように「養成校」側が移行環境を用意すべきことを強調するためである。
- ④ 「中堅」「熟練」段階の各目標については、高校生段階と同様に観点別の記述をしなかった。その理由は、経験が増すほどに保育行為や保育者集団におけるリーダーシップ・マネジメントにおいてあらゆる能力が複合的・重層的に要求されるために、区分の仕方が変化すると思われるからである。



次に、「短期的ルーブリック」＝「観点別ルーブリック」に該当する部分です。こちらは、先ほどの「長期的ルーブリック」の一部をより詳細に眺めた際に、各目標達成をより具体的に意識化するためのパフォーマンス評価表となっています。「短期的ルーブリック」は、観点ごとにまとめられており、それぞれ縦軸(各時期)に「長期的ルーブリック」に書かれている目標が並んでいます。さらに各目標の下には各時期3つずつのパフォーマンス評価基準が書かれており、各自が自己評価チェックをし全体像を把握できる仕組みを確保しています。なお、「長期的ルーブリック」の説明の際に触れたように、高校生段階および中堅・熟練段階においては、観点別の記載がないためこのルーブリックからは除外されています。

パフォーマンス評価基準の記述の仕方について

「短期的ルーブリック」において一番重要となる、各パフォーマンス評価基準(記述内容)については、以下のようなある程度のルールに基づき作成しました。

①事実的知識や個別的スキルの獲得状況を問うような記述は避ける

(×4歳児の発達の特徴を説明できる、×バイエル100番を弾くことができる)

②特定の状況(保育場面)で発揮される複合的プロセスを含んだパフォーマンスを記述する

→評価をする際、そのパフォーマンスを見れば知識・技能レベルが包括的に判断できる

③文末例：【事前】立案できる、構成できる、点検できる、用意できる、準備できるなど

【対面】援助できる、支援できる、指導できる、提案できる、展開できる、傾聴できるなど

【事後】記述できる、評価できる、改善できる、共有できるなど

【その他】議論できる、実施できる、連携できる、貢献できる、助言できる、率先できる

PARTⅢ

成果報告会

2022.2.26

(報告者:増田翼)

ここでは、2022 年2月 26 日にオンラインライブ配信 (Zoom ウェビナー) で実施した「成果報告会」の内容をまとめています。参加者に配付したスライドとともに、報告内容の文字起こしデータを掲載しました。なお、一部の内容については加除修正等を行っています。

■ 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業（2018年度～2020年度）

保育者育成のための キャリア・ループリックの開発

～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～

成果報告会

福井県のような人口減少社会においては、一人でも多くの保育職志望者を確保するとともに保育職従事者の定着を図ることが重要となってきました。しかし、現状として中高生に保育の魅力、保育職の魅力がどこまで伝わっているでしょうか。また、保育者養成校の学生ならびに現場保育者は、自らのキャリアパスをどの程度見通すことができているでしょうか。これらの課題を一体的に捉え取り組んできた本事業の成果をもとに、今後の保育者養成校に求められること、さらには高校—保育者養成校—保育現場という三者間における連携・協働の在り方について考えてみたいと思います。

2022. 2. 26 (土) 13:00～15:30

オンラインライブ配信 (Zoomウェビナー)

※質疑応答はZoomの「Q&A」機能を使用します



13:10～14:20

[第1部] 研究実施部会成果報告

- 事業着手からこれまでの経緯
- 事業組織
- 事業成果概要 (研究実施部会に関する成果概要)
- 「キャリア・ループリック」およびその活用方法
(保育者養成課程における質の保証・向上の仕組みづくりとその運用)
- 今後の課題

事業着手からこれまでの経緯



本事業紹介Webページ

2018年7月申請→2019年2月採択

TOPICS

本学は、2018年度(平成30年度)私立大学研究ブランディング事業に、
全国の短期大学のなかから唯一採択されました！

2018年度 選定件数20件
(申請件数157件、うち短期大学申請数21件)

私立大学研究ブランディング事業とは？

学長のリーダーシップの下で推進される研究を通じた全学的な看板となる研究を推進し、大学のめざす独自色や魅力を発信する取り組みに対して文部科学省による支援が行われるものです。学長のリーダーシップの下、大学の特色ある研究を基軸として、全学的な独自色を大きく打ち出す取組を行う私立大学に対して、文部科学省が支援する事業です。

1-1

まず本学のブランディング事業採択の流れについて説明します。私たちがこの事業に申請したのは2018年7月のことで、その年度内である2019年2月に文部科学省から採択の通知を受け取りました。この2018年度採択については、全国で20校が選ばれましたが、短期大学で選ばれたのは私たち仁愛女子短期大学のみでした。詳しくは、右上のQRコードにスマホなどをかざしていただくと、ブランディング事業専用ページにアクセスできると思いますので併せてご覧ください。

事業着手からこれまでの経緯

事業目的

「保育職を志す高校生」が「豊かな経験を有する保育者」へと成長していく過程において、その都度求められる資質・能力の継続的发展を示す「キャリア・ルーブリック」の開発を行うことで、高校・短大(養成校)・保育現場という三者間のシームレスな保育者育成環境を構築する

+

「高校—養成校—保育現場」=保育者としてのキャリアパスの接合点に位置する短大が、養成・育成における「学びの可視化」を推進していく

→「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を目指す

1-2

本事業の目的は、ご覧いただいているように主として二つありました。一つは、この上に書かれているもので、「キャリア・ルーブリック」というものを開発するということです。この「キャリア・ルーブリック」の開発について、そこまでの経緯であったり研究成果の蓄積であったりをご報告するとともに、完成した「キャリア・ルーブリック」を見ていただくというのが、本日の報告会の主旨ともなっています。

他方、この下に書かれている「学びの可視化」というのが本事業のもう一つの目的となります。これはつまり、広報などの工夫を通じて、いかに保育の魅力、保育職の魅力を様々な人々に知ってもらうか(周知するか)という点です。私たちは、「保育の学びがみえる仁短」というブランドイメージの確立を大きなテーマに掲げ、ここまですべてに取り組んできました。本日の報告会の後半では、こうした広報活動(ブランディング戦略活動)についてご紹介する予定です。

事業着手からこれまでの経緯

背景①



【2016年12月～】
福井県内337園に質問紙を郵送
(有効回答数1831)

63の質問項目(資質・能力)について、「養成校卒業時にどれほど身についていたか」
&「普段の保育のなかでどの程度求められるか」

- ◆「養成校卒業時の学習成果」と「初任者が現場で求められている資質・能力」とが必ずしも一致しない(一部の資質・能力にギャップが生じている)ことが明らかになった
- ◆新任・中堅・管理職という経験年数・役職の違いによって求められる資質・能力に違いがあることが明らかになった

福井県内で働く保育者全体の
57.3%が仁愛短大卒

嶺北北部地域で働く保育者の
69.0%が仁愛短大卒

- 仁愛女子短期大学 学長裁量経費事業(2014～2016年度)

「幼児教育学科卒業生による保育者ネットワークの構築」

- 仁愛女子短期大学 共同研究(2017年度)

「仁愛女子短期大学幼児教育学科における学習成果・教育課程の検討」

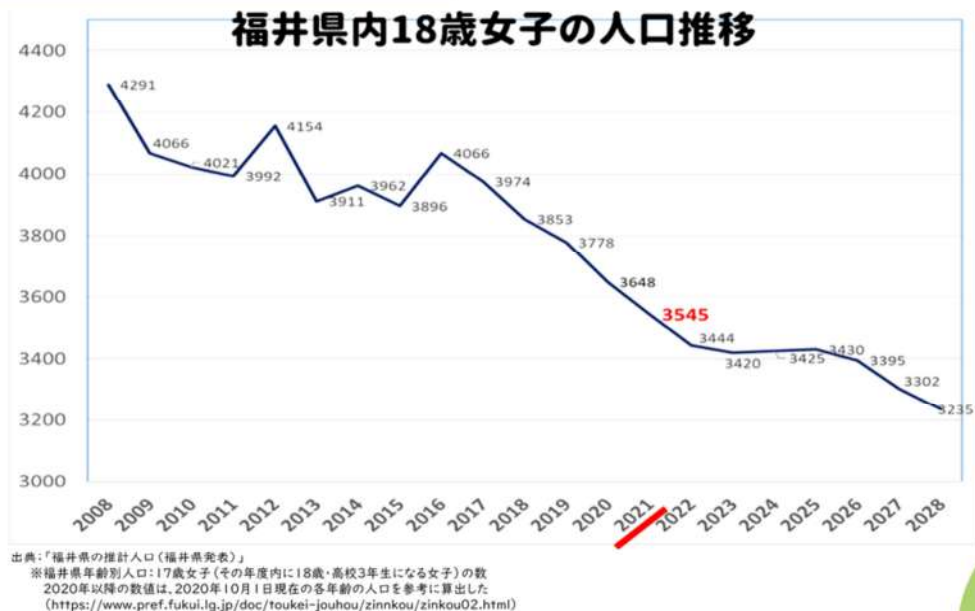
1-3

なぜそもそも本事業に申請することになったのか、という背景について少し触れたいと思います。まずは今ご覧いただいている「背景①」のスライドですが、これは、ブランディング事業に申請する前に実施していた「学長裁量経費事業」および「共同研究」の結果をまとめたものになります。ここでは、福井県内の保育現場の先生方にアンケート調査をしたり、インタビューをしたりしながら、どのように現場保育者とのネットワークを作っていくか、といった点に主眼を置きながら研究を進めていきました。ほかにも、アドミッションポリシー(AP)、カリキュラムポリシー(CP)、ディプロマポリシー(DP)の整備・改革というのも丁度この時期に重なりましたので、幼児教育として学習成果をどうするか、教育課程をどう編纂するかということもいろいろと研究しました。これらの研究結果は、このピンク色の表紙をした報告書にまとめ公表しています。こうした調査研究のなかで、スライドの赤字にあるようなギャップがあること、それから経験年数、役職の違いによって現場の先生のなかでも求められる力にはいろいろあることなどが分かってきました。こういう背景のもとに、本事業に応募したというかたちになります。

ちなみに、この調査のときはかなり大規模に県内にアンケート用紙をまいたので、右上の吹き出しのことが分かりました。つまり、福井県内で働いていらっしゃる保育現場の先生方のおおよそ6割は仁愛女子短期大学の卒業生だということです。本学は、50年以上、保育者養成に携わっていますのでこのような割合になるのかなと思いますが、こうした割合を踏まえた議論が本日の報告会のなかでも度々出てくると思いますので、その点はお含みおきいただけると幸いです。

事業着手からこれまでの経緯

背景②



1-4

話は変わりますが、今から三つほど人口の移り変わりを示した資料をご覧くださいながら、少し考えていただきたいと思います。そもそも福井県は、「人口減少地域」といい良いかと思いますが、今見ていただいているのは、18歳女子の人口推移を表したものです。18歳女子というのは、その年に高校3年生の学年になる女子のことを指しています。おおよそ高校に進学しているという想定で考えますと、県内の18歳の女性の人口推移は、見ていただければ分かるように、どんどん減ってきています。この赤いあたりが今度の4月(2022年4月)に高等教育機関に入学する年の人数だと思いますが、ここ10年間でだいぶ減少していることは一目瞭然です。細かな人数については、多少の増減はあると思いますが、このぐらいの人数で推移している現状があります。



1-5

それから次のスライドは、日本全体における出生数の推移(赤ちゃんの数)になります。皆さんもちろんご存知だと思うんですが、2015年の段階までは毎年100万人以上の赤ちゃんが生まれていました。私もよく授業で、「今の日本は100万人の赤ちゃんが一年間に生まれているんだよ」と言っていました。この5年、6年でそれが急激に減少し始めています。ここ最近では80万人に近づいているという、結構減り幅が大きい状態にあることは、しっかりと理解しておくべき点だと思います。

ところで、今紹介したこの二つのデータをもとに何が言いたいのかということですが、一つには、高校生の数が減ってきているということは、そのまま保育者になりたいと思う将来の保育者のなり手の数が減り始めている、ということです。しかし一方で、そもそも赤ちゃんの数も減っているのであれば、その保育者不足はずっと続くわけではないかもしれない、ということも考えられます。つまり、保育現場(園の数)も今と同じ数は必要ではなくなってしまうのかもしれないですし、この先を考えるとどうなるのだろう、という不確定な状態が訪れているということになります。

(2018) 平成30年度 出生数		(2020) 令和2年度 出生数	
福井市	2,097	福井市	1,999
越前市	644	越前市	618
坂井市	616	坂井市	579
鯖江市	609	鯖江市	555
敦賀市	519	敦賀市	449
小浜市	219	小浜市	233
大野市	203	大野市	184
あわら市	160	あわら市	164
越前町	141	越前町	108
勝山市	118	勝山市	131
永平寺町	108	永平寺町	100
若狭町	100	若狭町	94
高浜町	87	高浜町	73
おおい町	72	おおい町	72
南越前町	62	南越前町	64
美浜町	61	美浜町	72
池田町	7	池田町	16
福井県合計	5,823	福井県合計	5,511

出典：「福井県の推計人口（掲載）令和2年」
<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/zinnkou/zinkou02.html>

1-6

さらに、福井県の話として三つ目をご紹介しますが、先に右の表をご覧ください。福井県には17市町があります。それぞれの自治体が様々な子育て政策などに取り組んでいます。現状として1年間に生まれる赤ちゃんの数はこのぐらいになっています。（本日の報告会の参加者の皆様は）北は北海道、南は沖縄まで様々な方がいますので、この数値をどう捉えるかについてはそれぞれ違いもあるのだとは思いますが、私がここで言いたいのは、人口が減っていくというのはかなり複雑な道筋を辿るという点です。

たとえば、2年前に遡って平成30年の出生数の表（左）と見比べたとき、確かにこの2年間で出生数は減っています。ところが、県全体としては減っているんだけど、各自治体の中で見ると増えているところもあるし、それほど変化していないところもあるし、減っているとしても5人、10人減ってきたかな、というぐらいの感じのところもあるんです。このように各自治体個別に見ると、それほど減っていない、じわりじわり減っているだけなのだけれど、足し合わせると結構減っている、という状況に対して、私たちはなかなか何もできない、という現状があったりします。本日は、福井県の保育現場の先生もご参加いただいていますので、赤ちゃんがどんどん減っているというのは結構大問題だなと、もちろんお気づきだと思いますが、今、日本全国でこういったことが起き始めているんだろうと思います。

事業着手からこれまでの経緯

背景のまとめ

【保育者養成・育成における課題】

- ◆ 保育者養成・育成の全体図を
どれだけの関係者が把握しているのか？
- ◆ 各時期特有の状態や抱える課題をどれだけ理解しているか？
またそれを踏まえた養成・育成が行われているのか？
- ◆ 18歳人口減少への対応は十分なのか？
小中高生が保育職に興味・関心を抱くためには？

持続可能性

自律的成長を生み出せる組織づくり
質の高い専門性の維持・発展

連携・接続

キャリアパス

魅力の発信

1-7

さて、ここまでの背景を一旦まとめたいと思います。つまり、なぜ私たちがこのブランディング事業に着手しているのかと申しますと、主にこの三つかなと思います。まず一つ目は、たとえば養成校教員が養成校のなかのことだけ考えていたら、多分この先やっていけなくなるということです。その意味で、もっと広い視野で養成や育成の全体像を把握するということが必要です。ただし、全体像を把握しようと思ったら、いろんな方々と連携したり接続について皆で話し合ったりしなければいけない。この点がまず一つ目になります。

二つ目に、それでは実際、保育者として仕事をしていくことを想定した際に、それぞれの時期に一体どういうことを考えたり、どういう課題を抱えたり、今どういう状態にあるのかということに関係者の皆さんはちゃんと理解しているのだろうか、という問題があります。つまり、保育者としてのキャリアパスですね。これは、養成校教員である私たち自身も反省を込めてなんですが、保育者のキャリアパスをちゃんと理解したうえで授業をしたり、現場の研修を行ったりしているのだろうか、という点についてもっと考えていくべきなのだと思います。

三つ目に、先ほどから人口減少の話をしてきましたが、養成校の立場からすると18歳人口が減るというのは大変なことです。もっと広く捉えても、保育者のなり手はますます減っていくと想定されます。こういなかで、いかに小学生・中学生・高校生に保育職の魅力を知ってもらうか、関心を抱いてもらうか（魅力発信）、これも今後ますます大きなテーマになっていくと思います。

これら三つを合わせて、保育に関係するすべての人のすべての仕事が5年後10年後も今と同じような状態で（可能ならば発展して）いてほしい、そういう意味での「持続可能性」を考えていかなくてはいけない。これらの背景があって、今回この事業に申請したという流れがあります。

事業着手からこれまでの経緯

年次計画（概要）

	2018	2019	2020	2021
予備調査・研究に着手	●			
ステークホルダーの現状把握（アンケート等）		●		
キャリア・ループブック作成のための基礎研究（学会発表 / 学会誌投稿）		●	●	
キャリア・ループブックの試作 → 完成		●	●	
「中間報告書」の制作、配布			●	
研究成果をまとめた書籍の出版			●	
運用上の課題の検討（効果測定）				●
高校・養成校・保育現場等対象「公開シンポジウム」開催				●
「最終報告書」の制作、配布				●

2018年度

2019年3月28日（木）全体会開催【外部評価員参加】

2019年度

2020年3月全体会：コロナ感染拡大のため中止
【書面による外部評価】

2020年3月 報告書発行

2020年度

2021年3月全体会 オンライン開催【外部評価員参加】

2021年3月 報告書発行【Web公開】

2021年度

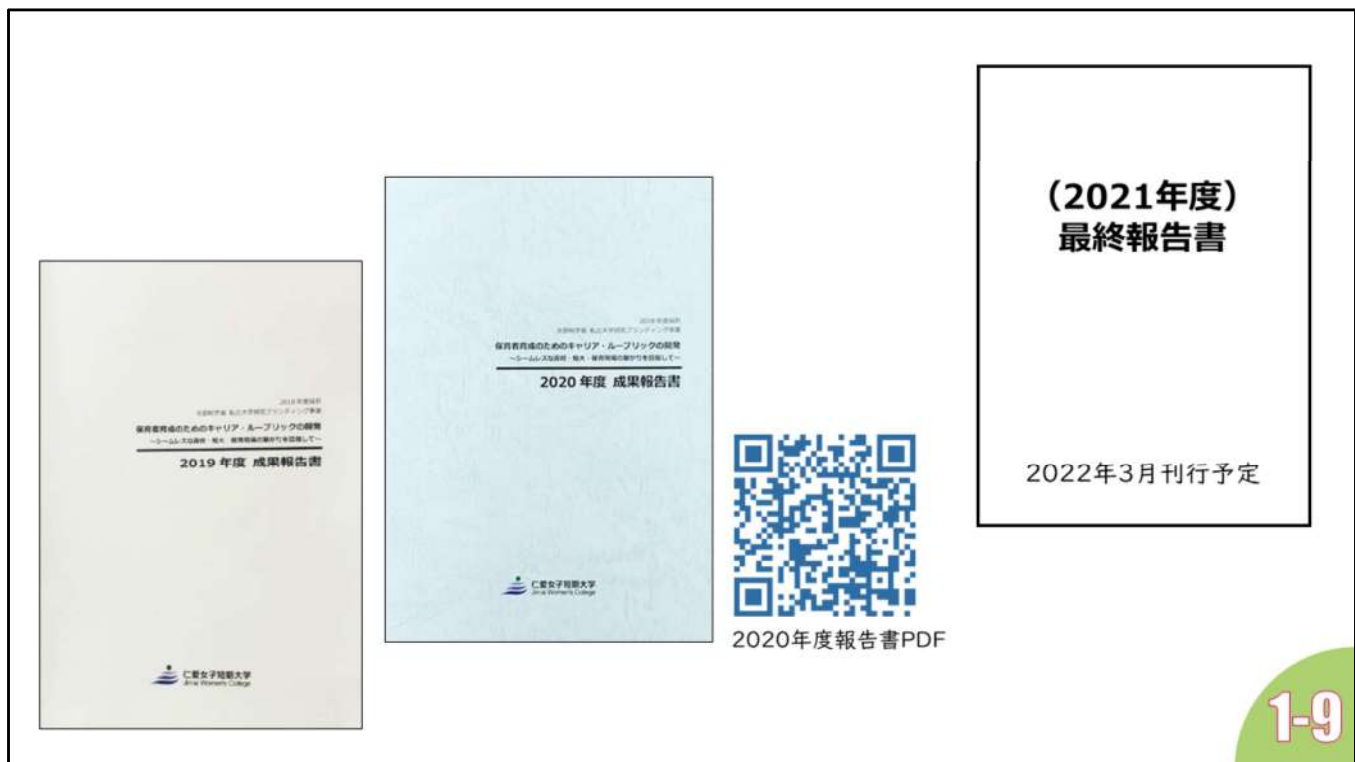
2021年5月16日（日）日本保育学会 自主シンポジウム

2022年2月26日（土）成果報告会オンライン開催
【高校・養成校・保育現場等対象「公開シンポジウム」】

採択を受けてからの経緯についてまとめました。文科省へは、当初5か年計画で申請をしましたが、諸事情ありまして補助金の交付期間としては3年ということになりました。したがって、2020年度までの事業というかたちで採択を受けたわけですが、当初5年で計画していたものを3年でまとめるのは困難であることから、学内で様々協議した結果、本学（学内）としては2021年度までこの事業を実施していこうということになりました。ご覧いただいている表は、こうした事情を踏まえたうえで作成したものになります。

この表に従ってそれぞれの年度で活動に取り組んできました。また、必ず年度末には、外部評価の先生方にもご参加いただきながら、その1年間の活動を振り返り、評価していただくという体制で今日に至っています。ただし、この事業期間中に新型コロナウイルス感染症拡大が重なってしまったこともあって、正直、様々な方々と話し合いながら進めていくという「連携」の部分が思うようにいかなかった面はどうしてもありますが、オンラインに変更したりするなど工夫しながら行って参りました。

なお、2019年度、2020年度については「報告書」を発行しました。また今年度に関しましては、2021年5月に日本保育学会の自主シンポジウムで発表したり、それから本日のこの報告会を開催したり、という公表の側面も意識しながら活動をして参りました。



ただいま「報告書」の話をしましたが、これまでに制作した「報告書」がスライドにある黄色の表紙(2019年度)と水色の表紙(2020年度)のものになります。なお、本日の報告会では、この水色表紙の「2020年度成果報告書」の内容がよく出てきますが、これについてはWeb公開をしていますので、資料内にある青色 QR コードにスマホなどをかざしていただければ、そのまま中身もご覧いただけると思います。ぜひご一読ください。

また、「2019年度成果報告書」ですが、こちらについては、高校生との連携授業の様子やそのほか多数の写真が掲載されていますので、Web公開はせず冊子印刷版のみとしております。すでにご紹介した「学長裁量経費事業」の成果報告書(ピンク色表紙)とこの「2019年度成果報告書」については、まだ少しだけ残部がありますので、もしご興味ある方はお知らせください。

2021年5月16日(日)日本保育学会 自主シンポジウム

日本保育学会 第74回大会 自主シンポジウム(J-C-7)
2021年5月16日(日) 10:00～11:00【Web会場08】

保育の質の確保・向上のために求められる「情報発信の質」とは
～高校・養成校・保育現場および自治体の連携を通して～

企画説明



増田 翼 (仁愛女子短期大学)

日本保育学会 第74回大会 自主シンポジウム(J-C-7)
2021年5月16日(日) 10:00～11:00【Web会場08】

保育の質の確保・向上のために求められる「情報発信の質」とは
～高校・養成校・保育現場および自治体の連携を通して～

話題提供②

本校進学コースの進路選択の
現状について



藤下 紀之 (仁愛女子高等学校)

日本保育学会 第74回大会 自主シンポジウム(J-C-7)
2021年5月16日(日) 10:00～11:00【Web会場08】

保育の質の確保・向上のために求められる「情報発信の質」とは
～高校・養成校・保育現場および自治体の連携を通して～

話題提供①

園長として
保育の魅力をどのように発信しているか



伊藤 きみ子 (坂井松涛こども園)

日本保育学会 第74回大会 自主シンポジウム(J-C-7)
2021年5月16日(日) 10:00～11:00【Web会場08】

保育の質の確保・向上のために求められる「情報発信の質」とは
～高校・養成校・保育現場および自治体の連携を通して～

話題提供③

「情報発信」「魅力発信」の重要性と難しさ
～「幼児教育支援センター」という立場から～



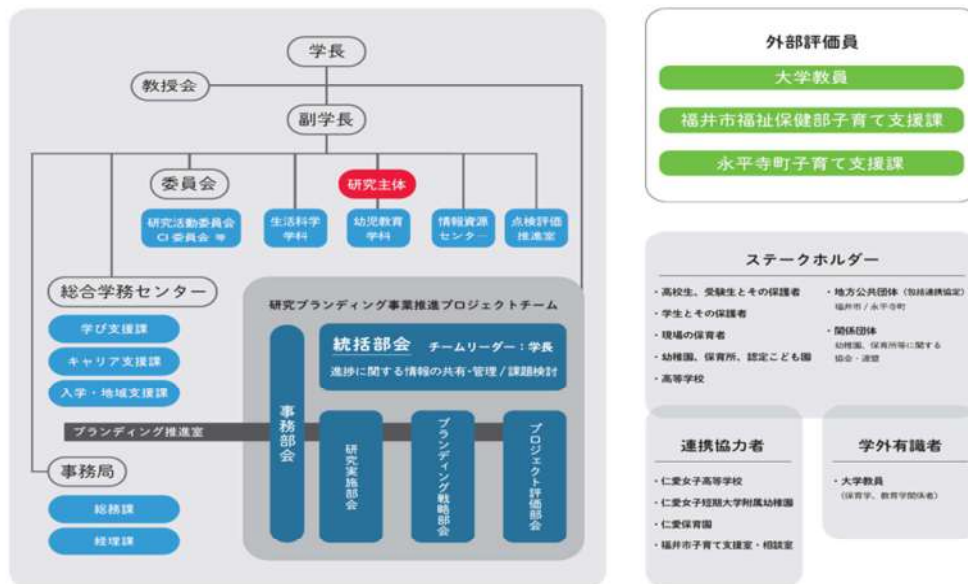
青木 美恵 (福井県教育庁義務教育課)

+【指定討論者】宮本雄太(福井大学大学院連合教職開発研究科)

1-10

それから、2021年5月に行いました保育学会自主シンポジウムですけれども、ここまでお話ししてきましたように、私たち養成校教員だけで考えても仕方がないという意味で、高校の先生、保育現場の園長先生、それから保育行政に携わっていらっしゃる福井県の義務教育課幼児教育支援センターの青木先生にもご参加いただきました。さらに指定討論者として、福井大学の宮本先生にもお願いしまして、様々なテーマを投げかけていただきました。たいへん活発な議論になったと思っております。

事業組織



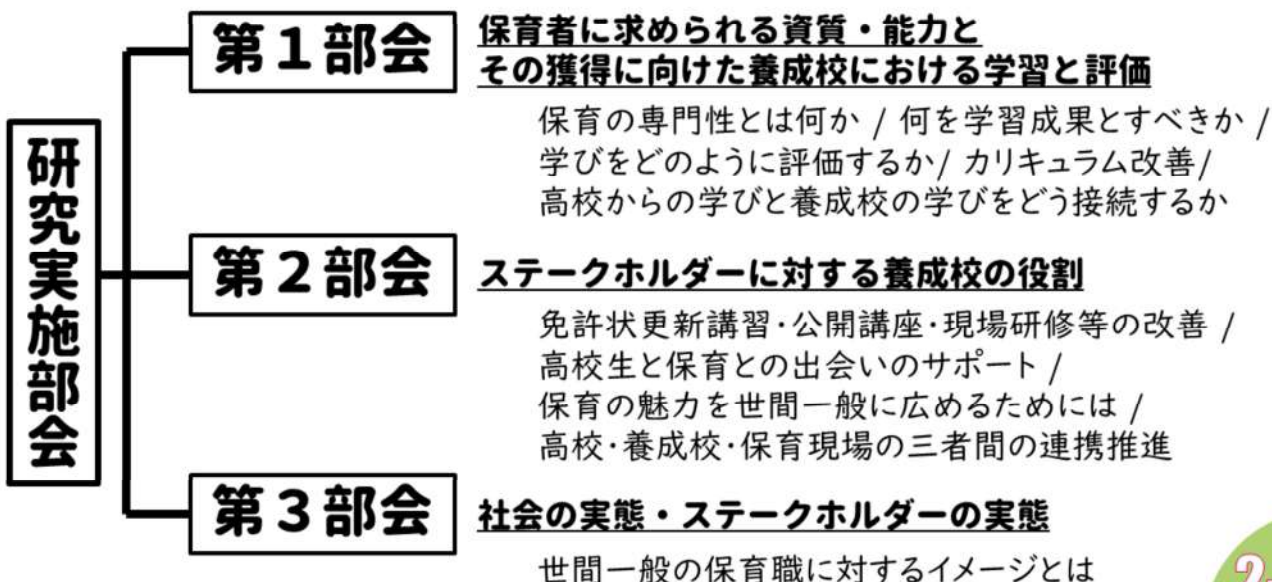
2-1

組織については簡単に説明して終わりたいと思います。このブランディング事業への申請に当たっては、ある一つの部署だけが関われば良いのではなく、全学を挙げて取り組むというのが前提条件でした。そこで、申請する前の段階で学内の様々な方々と協議をしました。もちろん中心となっているのは幼児教育学科であり、研究主体でもあります。それ以外にもスライドの図のように学内全体がこの事業に関与しています。そのなかでも、研究を進めていく部会として「研究実施部会」、そしてブランディングを進めていく部会として「ブランディング戦略部会」を置いたほかに、プロジェクトチームとして図のような部会をそれぞれ別に置き、全学の皆様にもご協力いただきました。また毎年、年度末には、外部評価の先生方にもご参加いただいて評価をお願いするという、こういう組織でまわして参りました。

外部評価につきましては、大学教員ということで本日もご出席いただいている東京大学の片山先生をお願いしまして様々なご助言をいただきました。それから連携協定を本学と結んでいただいている福井市さん、永平寺町さん、それぞれの子育て支援課の先生方にもいろいろお願いしまして、様々なご助言をいただいております。

事業組織(～2020年度)

※2021年度は学内有志メンバーを中心とする
「研究会」を立ち上げ研究活動を継続した

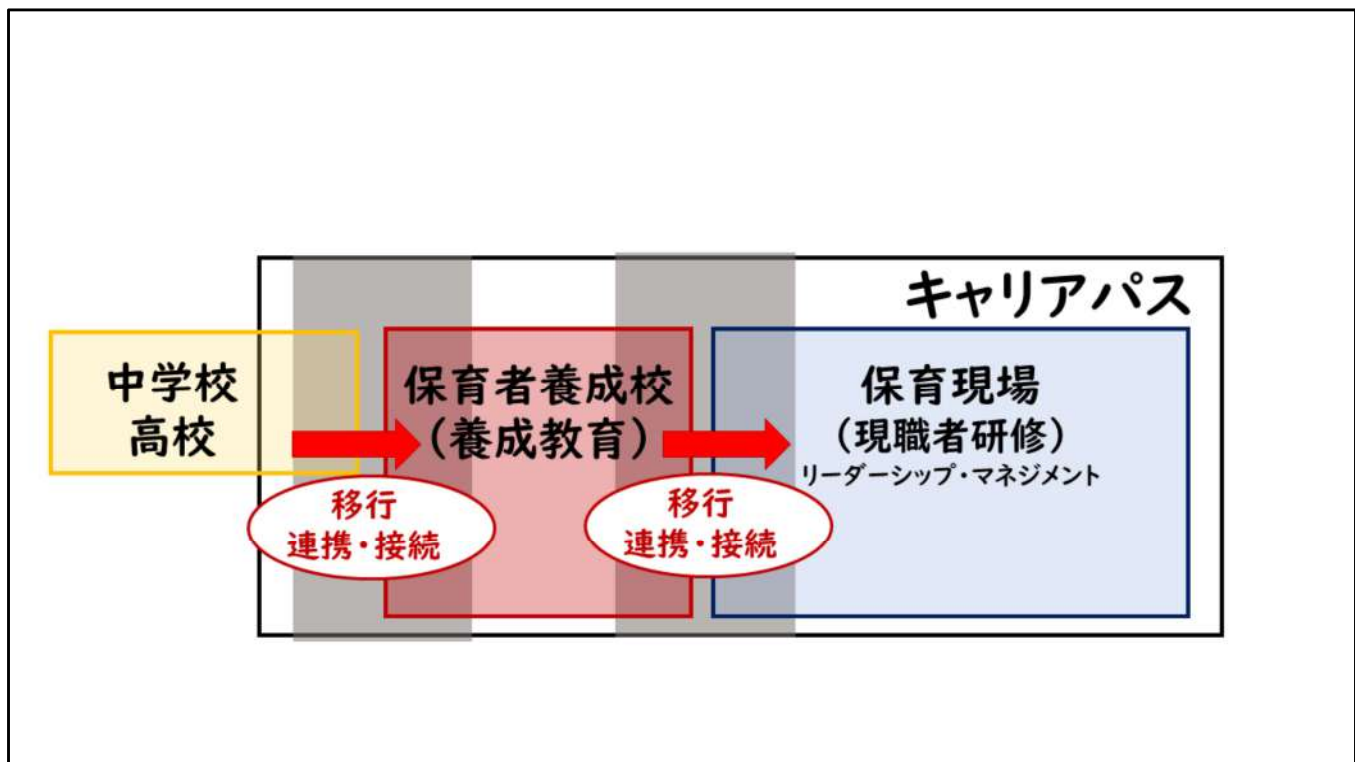


2-2

なお「研究実施部会」については、部会長を私(増田)が兼ねまして、さらにその下に、このスライドに示したように「第1部会」「第2部会」「第3部会」と設けました。それぞれ部会ごとにある程度のテーマを定めたうえで、より細かい内容もいろいろ話し合いながら、それぞれ各教員が研究に取り組むというかたちで2020年度まで行いました。この先の説明は、このそれぞれの研究成果を簡単にご紹介できればと思います。



それでは事業成果概要ということで、研究実施部会に關しての成果をお話したいと思ひます。このスライドは、皆様のお手元にも届いているリーフレットの巾面です。このリーフレットは、本事業に採択が定まってまもなく、最初に取り組んだ仕事だったように思ひます。まずは、関係する様々な方に「私たちはこういうことに取り組んでいきます」というのをお知らせするために、リーフレットを作成して配布しました。見ていただくとお分りいただけると思うのですが、実際の研究テーマとしてはこれらを想定しています、ということで四つぐらいのまとまりになっています。また、下に「ギャップ」とあると思うのですが、これは「課題」だと思ひていただけたら良いと思ひます。実際に保育現場、養成校、それから中学生・高校生を想定したときに、このつながりの間に様々なギャップがある。このギャップを放置していくことはあまり良いことではないだろう、と読み解いてください。先程もお話しましたが、これからますます人口は減っていくことなどを踏まえると、少しでも滑らかな連携・接続を図っていきたい、シームレスな連携を図っていきたい、そういう考えのもとにこの研究をスタートしていきました。

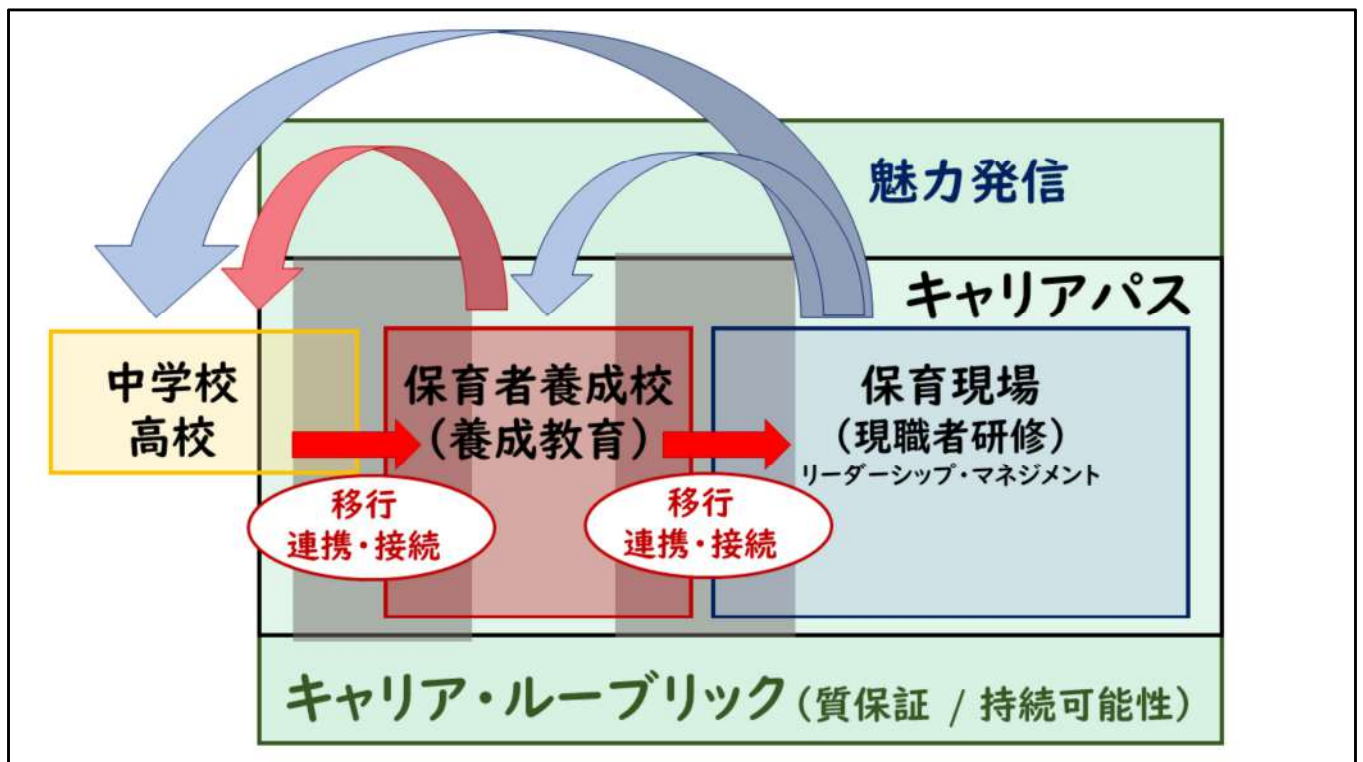


少し描き直したこの図をご覧ください。そもそも、今この瞬間も働いている保育者の先生方も、どこかで「なりたいな」と思った日があるはずです。(もしかしたら、もっと小さいときかもしれないんですが) おおよそ中学生だったり高校生だったりで進路を定めるという意味で、この図では中学・高校が一番左にあります。

次に、実際、自分の進路として「保育者」を定め、養成校への入学を考え勉強し、入学を果たす、という段階です。本日は四年制大学の先生もいらっしゃいますし、短大の先生も専門学校の先生もいらっしゃいますけれども、こういった高校生が大学・短大・専門学校の1年生になる、という間にすでに様々な葛藤があると思います。こうしたことを、最近「移行」、英語でトランジション (transition) と言ったりすると思いますが、新しい環境に突如変わって、そこで新しい仕組みとかいろんな新しい文化を吸収しながら、短大だと2年間で、長くて4年間で保育者になっていくという結構激動な変化だと言えます。こういった環境変化に適応しなくてはならないけれど、なかなかそれは難しい場合もありますよね。こういう観点で、高大連携、高大接続という言葉も当たり前になりました。高校側と大学・短大・専門学校側がいかに連携・接続を図るか、というのは大きなテーマだと思います。

同じような枠組みは、養成校—保育現場の間でも言えると思います。養成校を卒業して実際先生として働き始める1年目の先生方はいろいろご苦労なさったり、いろんな辛さ、困難を抱えたり、というのがあります。これも全く別の新しい環境に溶け込んでいくということの難しさであり、皆が通る道ではありますが、このトランジションが上手くいくときもあれば上手くいかないときもあります。極力、多くの人が上手くいくように、と考えたらやはり養成校と保育現場は連携を図ったり、接続を考えたり、というのが必要になってくると思います。

このようなところを全部含み込んで、なりたいたと思った頃から実際学び、そして現場で働くようになり、さらに成長のために研修なども重ねて学び続ける、という保育者のキャリアパスを、この図ではこのように括りました。



もう一つ、本日の大きなテーマとして、「魅力発信」があります。先程から何度か触れていますが、「保育の魅力」もしくは「保育職の魅力」をもっと世の中に発信していかないと、今後のなり手はどんどん減っていってしまいます。それから実際に保育者は何を考え、どのようなことをイメージしながらいつも仕事しているのか、ということも多くの人に伝えていく、「可視化」していくことで、ギャップを少しでも軽減できるのではないかな。こうした意味での「魅力発信」だと思ってください。矢印の最初は保育現場から出ていますが、併せてもちろん養成校としても、高校生に対して保育はこういうところが魅力なんだよ、仁愛短大の学びはこういうところが魅力なんだよ、という情報発信をしていく。これが、今この時代すごく求められていると思います。

以上、述べてきたことを含み込んで、1枚の表でパッと見せることができるのではないかな、というのが私たちが取り組んできた「キャリア・ループリック」というものになります。こういう可視化したものを作ることで、関係者一同がこれをまず見て、その質を考えるようになります。たとえば養成校の学生の視点で言うと、1回生前期のうちはこういうことを頑張れば良いんだな、こういうことに気づかないといけないんだな、という姿勢で授業を受けるようになるかもしれません。もちろん担当してる授業者も、1回生前期というのはこういう時期だから、こんなことを意識して授業しよう、といったように皆が可視化されたものを見ながら動くようになる。これがいわゆる質保証につながるのではないかな。そういう「キャリア・ループリック」というのを作りたかった、という流れです。こういうものができることで、先程も言ったような「持続可能性」を少しでも実現していきたい、こういう仕組みになっております。

事業成果（研究実施部会）



移行 / 連携・接続【高校→養成校】

◆増田「保育職への接続・適応に関する先行研究の系譜と課題（Ⅰ）」『仁愛女子短期大学研究紀要』52、2020年

【先行研究で明らかにされていること】

- 保育者養成校には「多様な志望動機を有した学生が混在」
- 志望動機の違いが養成校での「学習意欲」や「保育者効力感」に影響
- 志望動機の発端が自成的か他成的かで「保育者効力感」に違いが生じる
- 小学生で志望＝自律的に保育職を考えた
中学生以降に志望＝資格免許を取得し経済的に豊かになることを優先

そもそも世間の人において、保育者は「単に、子どもを預かってくれる人、子どものお世話をしてくれる人、といったイメージに留まっている」

- 志望段階から職務内容を知ることは、養成校におけるギャップの軽減につながるが、他方で、その業務の複雑さ・煩雑さが鮮明となって志望を諦めてしまうかもしれない
- 「ピアノ・エレクトーン」「運動」「図画工作」などの技能を有していること、教科では「音楽」「体育」を重視する受験には「国語」が大切である（近畿地区 高校804校調査 保育者を目指す生徒に求めるもの）

3-1

先行研究成果

ここからは、実際に私たちが取り組んできた研究の具体的成果についてお話ししたいと思います。まずは「移行/連携・接続」に関して中学・高校から養成校への移行についてです。この1枚目のスライドは、私（増田）が本学『紀要』に書いた論文になります。こうした大きな事業に取り組む際は、やはり先行研究のレビューをまとめておいた方が良いでしょう、ということで著した論文です。レビューですので、新しい成果ではなくて、これまでの様々な先生方が発表されている知見を寄せ集めたものになります。ご興味ある方は、右上 QR コードにスマホをかざしていただくと論文にアクセスできると思うので、ぜひご覧ください。

全部紹介している時間はないので簡単に説明しますが、まずもって養成校には様々な学生がいる、ということ、そして志望動機にはいろいろあって、その違いが学習意欲や保育者効力感に影響している、といった先行研究がいくつかありました。保育者効力感というのは、本日、何度か出てくると思うんですが、簡潔にまとめると自己肯定感にだいぶん近いもので、「何か困難な状況に直面しても私は保育者としてやっていけるはずだ」「乗り越えられるはずだ」といった自分に対する自信（信念）のことです。ほかにも、志望動機が自分からなりたいたと思ったのか、周りの人から（家族などから）「あんた保育者に向いてると思うからなってみたら」などと言われたのかという違いによっても保育者効力感に違いが出てくる、といった研究結果も出されています。また、志望時期によっても違いがある、というのもありました。

ところで、今日のこの発表の流れですと、できたら小さいうちから、小学生・中学生のうちから保育者にはこういう仕事があつて、こんな大変なこともあるけれど、こんなにやりがいがあるんだよ、みたいなことをたくさん教えるべきなのかもしれません。教えれば教えるほどイメージは確立するので、ギャップの軽減につながるかもしれませんが、その一方で、そんなに業務が大変ならば、そもそも養成校に入学しないかもしれないと書いている方もいます。なぜならば、そもそも世間の人々のイメージは、保育者は単に子どもを預かってくれる人、子どものお世話をしてくれる人ぐらいに留まっている場合があるから、ということです。イメージの話はまた後で出てくると思います。

最後に、これはずいぶん古い研究ですが、高校804校の進路の先生を対象に調べたものです。保育者志望生徒にとって高校時代に重要と思われる教科などを尋ねていますが、このスライドのように「ピアノ」「運動」「図画工作」とともに教科として「音楽」「体育」を重視、受験には「国語」が大切といった回答傾向があったようです。

事業成果（研究実施部会）



移行 / 連携・接続【高校→養成校】

◆香月・松川・田中・内田「2年制保育者養成校のアドミッション・ポリシーについての検討」『2020年度報告書』

- 全国203の保育者養成短大のAPをテキストマイニング (KH Coder)

01. 専門的な知識・技能
02. 子どもへの関心、保育・幼児教育を学ぶ意欲
03. コミュニケーション能力
04. 自分の考え
05. 地域社会に貢献
06. 高校卒業程度の基礎学力

APの妥当性の検証

- ・ 上記6カテゴリーが見出された
- ・ 6カテゴリーと本学APとを比較した結果、ほぼ同様であった
- ・ 【本学の特徴】を挙げるならば、「他者の話や意見を聴く (AP3)」と明記している点にある (上記03との関連)

- 高校から短大への学びの接続に関する調査 (本学科学生20名対象)

- ・ 「子どもに関心」「その成長を支援したい」: 高校卒業時よりも現在 (短大生) の方が高まっている
- ・ 「他者の話を聴く力」: (高校卒業時) 習得水準と (現在) 学力水準との間に 有意な関係

3-2

続いて、ブランディング事業内での研究成果に移ります。このスライドは、香月らが取り組んだものですが、保育者養成校のアドミッションポリシーについて検討しようということで、全国203の保育者養成校 (短大) のホームページなどをまずは見たそうです。そこからアドミッションポリシーの部分を集めてきて、KH Coderというソフトにかけテキストマイニングすることで、全国の短大のアドミッションポリシーはどのような構造として出来上がっているのかを明らかにしようとした。このテキストマイニングの結果、6つのブロックに割とはっきりと分かれたそうです。要するに、全国の多くの短大は、入ってくる高校生に対してこういう6つのカテゴリーを要求している、と思っていただいたら良いかと思います。そして、これが分かったうえで、それでは本学 (仁愛短大) のアドミッションポリシーはどうなのかと比べたところ、本学もほぼ同様だった、という研究成果を残しています。一言で表せば、アドミッションポリシーの妥当性の研究といえるかと思いますが、このような研究をしました。

事業成果（研究実施部会）



移行 / 連携・接続【高校→養成校】

◆香月・松川・田中「初年次カリキュラムの検討—高校の授業科目との関連について—」『2020年度報告書』

- 本学幼児教育学科開講科目担当者（非常勤教員含む）に質問紙調査

- ・高校と短大との学びのつながりを意識している教科は「国語」
- ・そのほか「音楽」「美術」「保健体育」「家庭」「総合学習」
- ・地歴公民、理科系科目、数学、外国語等との接続意識はあまり見られない

3-3

次のスライドも香月らの研究になります。これは本学（仁愛短大）の幼児教育の授業を担当されている先生方への質問紙調査で、実際、短大の授業をするうえで高校までの教科のなかで特にどの教科とのつながりを意識していますか、という調査をしました。先程ご紹介した近畿地区の先行研究結果と絡めて考えていただきたいのですが、この調査結果からも多くの先生は「国語」を意識していて、ほかにも「音楽」「美術」「体育」「家庭」といったものを意識することはあるそうです。裏を返すと、社会系、理系、数学、外国語などの接続意識を挙げる先生はあまり見られなかったそうです。

保育・幼児教育に携わる職業は文系の進路なのか？

全国的には異なるかもしれませんが、福井県においては、保育者を目指すというのは高校における「文系」の生徒の進路先というイメージが強いように思います。反対に、「理系」の生徒で保育者を目指すというのは、あまり見かけたことがありません。上のスライドにもあるように、養成校の教員が、たとえば「数学」との接続をあまり意識していないのだとすれば、私たち養成校側が保育者のなり手を狭めてしまっている、ということが言えるのかもしれません。

そもそも保育は総合的であり、子どもの生活と遊びにおいては、数学的要素が散りばめられています。もちろん、将来の理系教科につながるような様々な科学的要素にも満ちています。こういったことに関心を寄せ、子どもと一緒に楽しくなり、子どもの学びを広げたりできる「理系」出身の保育者の存在が大切なのは言うまでもありません。こういった意味からも、養成校教員の接続意識を変えていくことは重要だと言えるでしょう。

事業成果（研究実施部会）



移行 / 連携・接続【養成校→保育現場】

増田「保育職への接続・適応に関する先行研究の系譜と課題（2）」『仁愛女子短期大学研究紀要』53、2021年

【先行研究で明らかにされていること】

先行研究成果

- 現場保育者への移行には「**変容プロセス**」がある
- 移行に際して、**リアリティショック**、**困難感**などが伴う
- **早期離職**の実態は様々
 - ・〈1年未満で25%近くが離職〉というデータもあれば、〈卒後3年以内11.3%〉というデータも
 - ・おおよそ**離職要因**のトップは「**人間関係**」
- 移行期を乗り越えるための個人的感覚・能力が存在する
 - ・「**保育者効力感**」「**レジリエンス**」（自尊心・首尾一貫感覚・ストレス対処など）
- 移行者に対する評価：概して「**コミュニケーション能力**」の**不足**が指摘されている
 - ・**保育者としての「専門性」よりも社会人としての「人間性」が重視されている**

3-4

今度は、養成校から保育現場への移行の話です。このスライドもまた私（増田）の方でまとめたレビュー論文ですので、先行研究をまとめたものになります。

養成校から保育現場への接続に焦点化した先行研究については、かなりの数が存在しています。概して言うと、1年目の先生はかなり苦労していて、最近では「リアリティショック」という専門用語も一般化しているようですが、こうした「リアリティショック」を受けたり困難を抱えたりしているそうです。また、これらが要因と考えられる「早期離職」の問題についても多くの方が研究関心を向けています。

他方、このようなショックを仮に受けたとしても、その後に乗り越えられる先生方というのはどういう力を有してるのかを明らかにする研究もあります。よく見かけるのは「保育者効力感」が結構大事だ、というもののですが、ほかにも「レジリエンス」という言葉も最近よく聞くようになりました。

ところで、現場の園長先生方へのアンケートみたいなものも結構ありますが、比較的多くの研究が述べているのが、1年目、2年目の保育者のコミュニケーション能力が足りない、という点のようです。

事業成果（研究実施部会）



移行 / 連携・接続【養成校→保育現場】

◆松川・香月・田中・内田「2年制保育者養成校のディプロマ・ポリシー（学習成果）についての検討」『2020年度報告書』

- 全国189の保育者養成短大のDPをテキストマイニング（KH Coder）

- ①保育・教育の知識、方法、技術の習得
- ②子どもの理解
- ③地域貢献・社会貢献
- ④コミュニケーション能力
- ⑤幅広い教養と豊かな人間性
- ⑥自ら課題を解決する力
- ⑦保育者としての倫理観、使命感、責任感

DPの妥当性の検証
(社会的通用性の検証)

- ・ 上記7カテゴリーが見出された
- ・ 7カテゴリーと本学DPとを比較した結果、ほぼ同様であった
- ・ 本学の課題:「地域社会に貢献」を意識している授業担当者が少ない
(各授業科目における到達目標とDPとの関係性をまとめた結果)
- ・ 本学キャリア支援課「事業所アンケート」結果によると、

現場からはコミュニケーション能力への期待度が高い

3-5

続いて松川らの研究ですけれども、今度は保育者養成校のディプロマポリシー、つまり出口側に焦点を当てる研究です。こちらは、全国の短大189校のディプロマポリシーを、先程と同じような手法で集め、KH Coder にかけてテキストマイニングしています。すると、DPの方は、7つのカテゴリーに分かれたそうです。今見ていただいているような7つになります。つまり、多くの養成校(短大)は、出口側としてこの7つを設定しているということになりますし、短大2年間で、こういうことがちゃんと身につくように様々な授業を組んでいる、と言えば良いのかと思います。

ちなみに、本学(仁愛短大)のDPと比較すると、やはりほぼ同様であった、ということです。こちらはDPの妥当性の検証と呼べるかと思いますが、このような研究成果を残しています。このようにAPとDPとを全国と比較しながら、養成校としてのあるべき姿を考えていったというのも、本事業の研究成果の一つと言えるでしょう。

事業成果（研究実施部会）



移行 / 連携・接続【養成校→保育現場】

◆賞雅「人として、保育者として：養成校から保育現場への接続」『2020年度報告書』

- 「キャリア・ルーブリック」試案について現場保育者（園長10名）・行政職員1名にインタビュー調査

- すべての方から「人間性」に関する考えが語られたが、人間性に関する内容は多様（解釈が様々）
- 多くの方が保育者の資質・能力として「人間性」を重視している
- 人間性は小さい頃から家庭で育つものであるから、学校や現場で育てるのは難しいとも言う

・保育者という仕事には「人として」と「保育者として」という2つの部分がある

・「人として」自信がなくても「保育者として」の専門性を高めればカバーは可能なのではないだろうか

※保育者養成・育成の過程には「人間性」に関する捻じれた構造が存在するのでは？

- 「人間性」は養成・育成すれば身につく・磨かれるようなものではないかもしれないが、それがとても重要視されている、という構造

→この捻じれ構造をどのようにくほぐしていくかというところがポイントとなる

3-6

このスライドは、賞雅による研究成果をまとめたものになります。本日お見せしている「キャリア・ルーブリック」完成までには何度もバージョンを重ねているのですが、昨年度において、ある程度これでいけるかなというバージョンの段階で、一度現場の先生方からもご意見を頂戴したい、という話になりました。このスライドの賞雅の論文は、その意見聴取の結果から考察するものとなっています。賞雅は、福井県内の現場の園長先生方10名とそれから行政職員の方1名に「キャリア・ルーブリック」をお見せしてインタビュー調査をしています。その内容として、全ての方々から「人間性」に関する考えが語られ、「人間性」はすごく大切だという共通した理解が見られたそうです。一方で、全ての方ではないのかもしれませんが、「人間性」というのは正直言うと小さい時から育つものであって、学校や現場で育てるのは難しい、といった声もあったそうです。

これを受けて賞雅は、保育者という仕事には人としてという部分と保育者としてという部分、つまり「人間性」という部分と「保育の専門性」という部分と、どうしてもこの二つの部分があるのではないかと書いています。また同時に、人間性という部分が満たされない場合でも専門性を高めていくことである程度カバーできるのではないかと、といった考察もしています。どうしてもルーブリックなどを作ろうと思うときに、「人間性」というのは欠かせないが難しい話になる、という面があるのかなとは思っています。

スライドの下に書いたことは先程と同じなのですが、「人間性」というのは、たとえば短大2年間で育て上げることができるのかと言えば、それは難しいかもしれないという意見もあるでしょう。けれども、保育現場では「人間性」がとても重要視されている。それでは一体どうしたらいいのか。保育者を養成し育成する、ということ考えた際に、この「人間性」というのはどう考えたらいいのか。ここはなかなか難しい話なのかなと思います。私たちもよく研究会で集まったときに、この辺を議論してきました。

研究の焦点【移行 / 連携・接続】

(ルーブリック開発において考慮すべき事項)

- ・高校までの学習と保育の学びはどう結びついているのか？
- ・APの妥当性(円滑な高大連携・接続を実現しているのか)？
- ・DPの妥当性(保育現場が求めている資質・能力とは)？
- ・養成校から保育現場(新人保育者)への移行(ギャップ)の特徴は？
- ・ギャップ軽減のために養成教育カリキュラムはどうあるべきか？
- ・保育者に求められる「人間性」とは？それは養成できるのか？



3-7

ここまで、移行/連携・接続の話をずっとしてきました。このスライドは、説明するというよりは、本日お集まりの皆様はこのあたりどうお考えですか？という投げかけになります。また同時に、関係者一同が常日頃からこういうことを意識できるようになると「持続可能性」につながるのではないか、という意味合いのスライドだと思ってください。

保育者に求められる「人間性」とは何か？

保育現場の先生方からは、度々「人間性」という言葉が聞かれますが、よくよく分析してみると、マナーや子どもと関わる際の心構え、といったものと、もう少し深遠な人間としての生き方や人格・性格のようなものを指すと思われるものが混交しているケースが多くあります。私たち養成校としては、この二つを峻別しなければなりません。言葉を換えれば、育成できるものと育成できないもの(育成しづらいもの)、授業を通して身につけられるものと身につけようがないもの、とを分けて考える必要がある、ということです。もちろんだからと言って、人間としての生き方や人格・性格等を磨く必要はない、と言いたいわけではありません。これらは、おそらく授業外の課外活動や様々な人生経験を通じて徐々に涵養されていく部分であって、考えるきっかけを提供することはできても、計画的に育成することは養成校には出来ないでしょう。むしろ、こうした無意図的な様々な偶然の出会いが環境のなかに溶け込んでいるような充実したキャンパスライフを提供することに、我々養成校側は尽力すべきなのかもしれません。

事業成果（研究実施部会）



保育者養成教育

◆江端「教育実習の現状と課題について―授業と実習の往還を捉えた実習振り返りシートの作成―」『2020年度報告書』

－「授業と実習の往還」を可視化するシート

- ・養成校と保育現場とが互いに情報交換することが重要
- ・「実習で何を学ぶのか」「授業で学んだことが実習で実感できる」

実習は〈入学者の実態〉および〈保育現場の実態〉を把握しながら、その間の〈保育者としての成長〉を支援するという課題を引き受けている授業科目

※実習振り返り往還シートを書き込むことで…

学生

教科ごとに、こんなことを学ばなければいけないのだなと具体的に想像しやすくなった / 教科によっては記述内容が難しく（理解しづらく）、書きづらい箇所があった
授業で習う内容と実習の実体験が結びつくことが少なかったため、書く時困った / 実習では経験できない部分（保護者支援など）が書かれた教科もあって、どう書けばよいかわかった
実習に行かせてもらう園ごとに何歳児に行くのか様々なため、乳児について書くことができなかったりすることがあった
事前に振り返りシートを書くことをもっと理解し、分からないことは実習先の職員の方々に質問すべきだった
授業科目が多いので、似たような内容の科目が2つ以上あると何を書けば良いかわからなくなった
成長した部分や学び直しが必要な部分をチェックできるようなシートだともっと良いと思う / 欄の大きさが狭く書ききれない箇所がある

教員

最初の実習（附属幼稚園実習）後では空白も多く、保育特有の言葉の力もないため内容も薄いのが、
2回生幼稚園指導実習後は、書くスペースが足りないくらい詳細に書かれている
個人差は大きいですが、一人ひとりの学びの軌跡は感じられる

3-8

ここからは養成教育というテーマのもと、二つご紹介します。一つは、江端が取り組みました「授業と実習の往還を捉えた実習振り返りシートの作成」というものになります。江端は、教育実習を担当してきたのですけれども、論文のなかで次のように言っています（青字部分）。実習というのは、入学者の実態と保育現場の実態をどちらも両方把握しながら（ただし両方を把握すれば必ずキャップがありますが）、この間の成長を支援するという課題を真っ向から引き受けている、そういう授業である、と。そういう意味で、実習というのはすごく大切であると同時に非常に難しい面もある。

そのなかで、特に江端が取り組みながら課題だと思ってきたことは、この赤字の部分になります。養成校側でいろいろ学生は学び、養成校としていろいろ保育現場に情報発信したいことがあるけれども、なかなか実習先と情報交換できない面があります。さらに、学生は現場で様々にお世話になりまして実習させていただくのですけれども、その保育現場でどんなことを学んできたとか現場の先生とどういってお話をしてきたかということのすべてを短大に持ち帰ってきて皆で情報交換する、というのなかなか難しいところがあります。仕組みとしては、実習報告会であるとか、実習のノートを点検するとか、いろいろあると思いますが、なかなかこの情報交換がうまくいかないときがある。そもそも実習で何を学ぶのか、ということをもっと学生に意識づけしたいし、さらに授業で学んできたことを実習先で実感してほしい、それが保育者としての成長につながるはずなんですけれども、授業でやっていることと実習が分離しているような傾向があるのではないかと。そういうニュアンスで江端はいろいろ課題意識をもちまして、この「実習振り返りシート」というのを作りました。

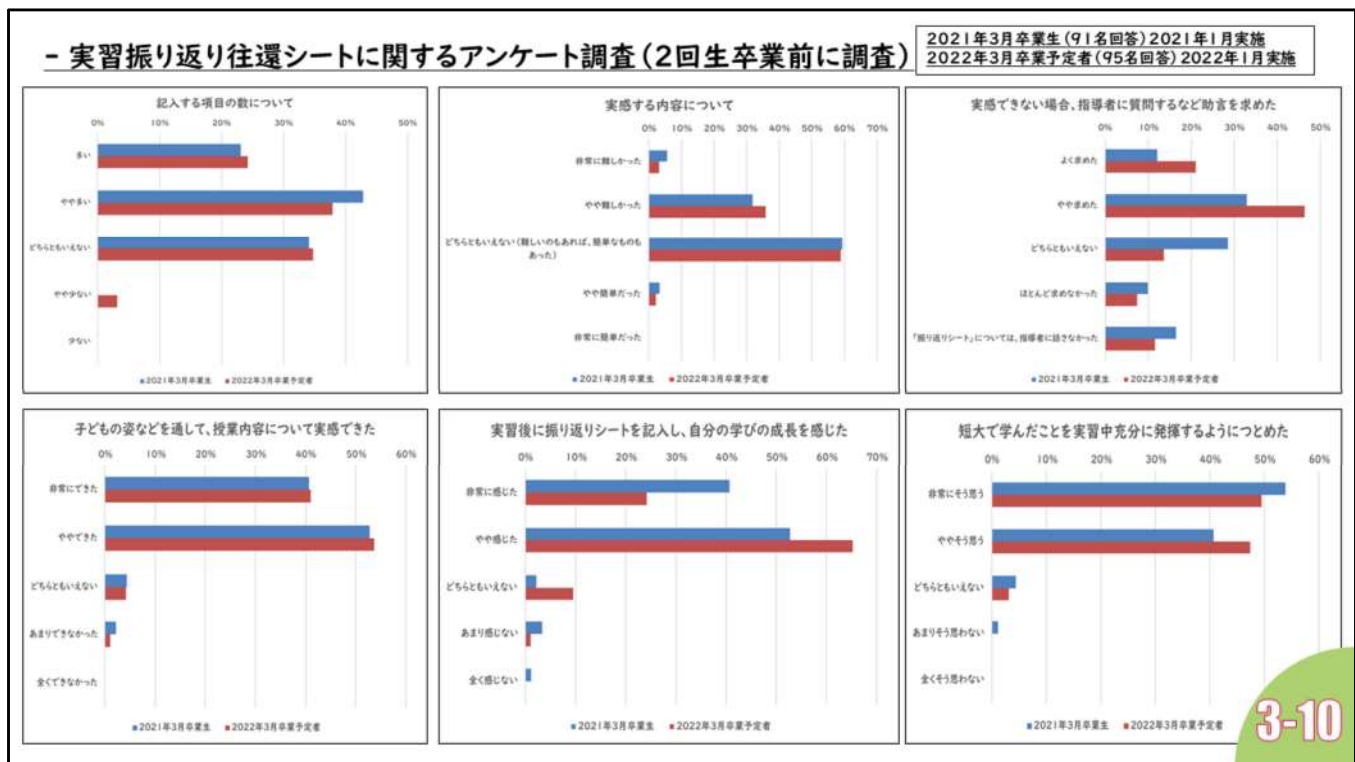
授業		実習で気付いてきてほしいこと（他にできてもいいことなど）	
1	教育原理	小学校以降の「学校教育」と「保育」との違いを説明できる。 【テーマ】遊び、学び、自主性、自律性、経験、環境構成、など	
2	子ども家庭福祉	「子どもの権利を守る（子どもの人権を認識する、子どもの人格を尊重する）」保育を行うために、園で何を行っていること（保育者がおける、環境構成の工夫など）を理解する。（例）先生方の言葉のかけ方、子どもがやりたいことを尊重する、など	
3	教育心理学	保育をする上で、子どもの発達・学習の過程・仕組みの理解が重要であることを「実感」する。	
4	教育課程総論	「環境を通して行う教育」「幼児期にふさわしい生活」「遊びを通しての指導」「一人一人に合わせた指導」といふ幼児教育の基本について具体的に理解する。 指導計画の作成方法について具体的に理解し、子どもの姿に基づいて指導計画を作成、実施、評価する。	
5	保育内容指導法	5領域の理解	子どもの遊びの中に「健康」「表現」「社会性」の要素が含まれており、相互に関連し、統合的に展開していることに気付く。
6		健康	健康「健康」のねらいや内容を踏まえて、「健康」の観点から幼児の育ちを捉える。
7		表現	幼児の表現遊び（造形・身体・言語・音楽など）に対して、個々の異なる大型に、柔軟で展開すること、自発や自主性など成長につながることを捉える。
8	子どもと健康	子どもの生活・活動・遊びの中で出現する動きの多様性を観察し、動きの質や特徴、発達段階を評価することができ、また、活動の際に生じる危険性にも気づくことができる。	
9	子どもと人間関係	子どもの他者意識の形成の発達（教科書「まねっこ」）について、園と家庭との連携で子どもの発達を支援すること、子どもの育ちを支援すること、（例）〇〇歳児の子どもが、〇〇遊びをしているときに、まだ〇〇とこのように関わっていた、など）	
10	子どもと環境	どのような自然環境（生き物）や物理環境（おもちゃ、遊具など）が子どもをとりまいているかを観察する。また、それらを実習に取り入れるかを考える。	
11	子どもと言葉	親子に合わせた言葉・言葉遊び・表現・言葉を考えることができる。	
12	音楽（ピアノ指導法）	先生がピアノを弾いた時の子どもの様子を観察し、子どもの表現活動を促すためのピアノ演奏技術として、どのような事が重要なのかを考察する。	
13	乳児保育Ⅰ	『乳児』の子ども「おべんとうのうた」「おべんとうのうた」のピアノ伴奏を止まらずに弾くことができる。余裕があれば、子どもたちの歌の様子を見ながら演奏する。	
14	教育実習Ⅱ	幼児園勤務の役割について「指導者」「共同作業者」「あこがれとしてのせんせい」など様々な役割を担っていることに気付く。 実習に対する意欲や態度（園長・教師・先輩園長・園児・保護者など）を身に付ける。（アンケートで自己評価するが、その中で、特に身に付いた事、できるようになったことを書いてください）	

授業		実習で気付いてきてほしいこと（他にできてもいいことなど）	
1	教育の方法と技術	幼稚園教師（指導者）や幼稚園児（子ども）の両方から観察し、互いに学びあう関係を築く。	
2	社会福祉	幼稚園（子どもや保護者）の生活と社会との関わりを説明できる。 幼稚園の環境、役割などについて説明する。（例）先生の働きかけや保育士との関係など）	
3	子ども家庭福祉	幼稚園で働く保育士と保護者の関係性について説明する。	
4		幼稚園で働く保育士と保護者の関係性について説明する。	
5	社会的養育	身体・心理・行動・生活の状況から保育（お世話）が提供される子どもやその保護者について説明する。	
6	子どもの健康と安全	子どもの発達段階における健康と安全に関する知識や子どもの健康の観察について説明し、観察する。また、健康と安全に関する知識や子どもの健康の観察について説明し、観察する。	
7	子どもの食と栄養	子どもに必要な「栄養素」を理解し、食事の計画（計画、おやつ）を説明する。	
8		子どもに必要な「栄養素」を理解し、食事の計画（計画、おやつ）を説明する。	
9	保育内容指導法	人間関係	幼稚園（幼稚園、お世話）のねらいや内容を踏まえて、遊びや生活の中で、保育士と子ども、保育士と保護者の関係性を築く。
10		健康	幼稚園（幼稚園、お世話）のねらいや内容を踏まえて、遊びや生活の中で、保育士と子ども、保育士と保護者の関係性を築く。
11	音楽	音楽	音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。
12		音楽	音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。
13	子どもと環境	どのような自然環境（生き物）や物理環境（おもちゃ、遊具など）が子どもをとりまいているかを観察する。また、それらを実習に取り入れるかを考える。	
14	子どもと表現（音楽）	音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。	
15	子どもと表現（造形）	音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。	
16	音楽指導法	音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。	
17	保育実習指導Ⅱ	音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。	
18		音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。	
19		音楽の楽しさや楽しさを伝えることができる。	
20	保育者の社会的役割、保育士支援などについて、具体的に理解する。		

3-9

3-9

「実習振り返りシート」の現物が、このスライドになります。左側に見えるのが1回生前期、右にあるのが1回生後期になります（実際はさらに2回生のものもあります）。1回生前期で本学ではこれだけの授業を学生は受講します。たとえば1回生前期で「教育原理」という授業がありますが、その「教育原理」を担当している先生は、この前期終わった時点で行く幼稚園実習のなかでこういうことを実感してきてほしいと考えている（前期終わると本学では附属幼稚園での最初の実習があります）と読み解いていきます。この一つひとつの授業それぞれに担当者がメッセージを記入していて、これに従って学生は、前期の授業で習ったことを意識しながら実習に臨むことになります（さらに、実習先の指導担当の先生にも見ていただくよう伝えていきます）。そして、実習を終えた段階では、今度は学生自身がこの右側の欄（本当はここに空欄が並んでいます）に、実際実習先でどんなことを感じたか、どんなことに気づいたかなどを書いていきます。おおよそ想像いただけるかと思いますが、全ての授業について空欄が右横にあるので、学生は実習後にこれを書くという結構大変な作業をすることになります。とはいえ、学生たちは非常に真面目に書いてくれて、さらに回を重ねるごとに仕組みも分かってくるので2回生になると、かなりきっちり書いてもらっていたそうです。こうした仕組みのものを、江端は独自に開発し、実際、数年にわたって運用もしてきました。



このスライドは、「実習振り返りシート」を記入してきた学生たちにアンケートを行った結果をまとめたものです。短大を卒業する前の2回生最後の時期にアンケートをしていますが、結果を一言で表すならば、実施する意義はある、ただし書く量が多いので大変、とまとめられるかなと思います。

「実習振り返りシート」については非常に意味がある、と学内の教員間でも共有しており、今後も継続していきたい面もありますが、やはり学生にとって作業がなかなか大変で、さらに持ち帰ってきたシートを教員側で一つひとつ確認していくのもまた大変だったりするという現実があります。そこで、今後については、この後説明する「キャリア・ルーブリック」へと一本化しよう、ということで話し合っているところです。

事業成果（研究実施部会）



保育者養成教育

◆木下「保育者養成校として大切にしたい音楽教育」『2020年度報告書』

－音楽教育とりわけピアノ技術の習得については難しい対応に迫られている

- ・近年、入学者全体のなかで初心者の占める割合が増加
- ・音楽が好きな学生、そうでない学生が混在する
- ・保育現場では「毎日何回も(50%)」「ほとんど弾かない(35%)」と様々

－ピアノ習得を重要視しつつ「新しい学習スタイル」「評価方法」の模索を

◆木下「遠隔ピアノ授業について（遠隔授業対応）」『2020年度報告書』

◆河野「コロナ禍における保育者養成校の入学前ピアノ教育」『2020年度報告書』

3-11

このスライドは、木下による論文の内容をまとめたものになります。木下は、本学では音楽の授業を担当しています。おそらく本日お集りの養成校の先生方皆さんも同様に抱えている問題かなと思いますが、近年、養成校入学者全体のなかでピアノの初心者割合が非常に増加しています。このように入り口側で非常に初心者が増えているというのと同時に、出口側を考えた際に、保育現場でどれほどピアノ技術が求められているのか、というのも考えていかなければなりません。木下が調査したところによると、毎日ピアノを弾いてる園も50%ぐらいある一方で、ほとんど弾かない園や、行事のときだけ弾ける先生が弾くといった感じの園も少なくない現状があります。つまり、出口側も結構いろいろで、ピアノの状況についてバラバラであるという状態のなかで、初心者の学生たちにピアノ学習の動機づけであるとか、学習の継続とかを促すというのがなかなか困難な時代になっています。こうした点をまとめているのが木下の論文になっています。

併せて、音楽のことに関しては木下とともに河野も『報告書』を書いています。河野は、丁度このコロナ禍がいろいろと大変だったなかで、入学が決まった高校3年生の「入学前教育」として、YouTube 上に課題曲の動画を作り、それを視聴しお家で練習したうえで入学しましょう、という流れを確立しました。その詳細について文章でまとめているので、ぜひご覧ください

事業成果（研究実施部会）



保育者養成教育

コロナ禍における保育者養成校の現状と課題

- ◆田中「リアルタイム配信（同期型）オンライン授業の設計と実践」『2020年度報告書』
- ◆木内「『子どもの食と栄養』における遠隔授業」『2020年度報告書』
- ◆前田「『わかったこと』を書く力の連続性と対面・遠隔ハイブリット構想」『2020年度報告書』
- ◆重村「コロナ禍における実技・演習系の面接授業について」『2020年度報告書』
- ◆賞雅「新型コロナウイルス感染症流行化における2020年度実習について」『2020年度報告書』

- 遠隔授業の経験や必要性について
- 遠隔授業実施における問題点
- 遠隔授業になって気づいたこと（養成教育において必要不可欠なこととは？）

3-12

今、コロナの話に少し触れましたが、本事業を継続する一方で、新型コロナウイルス感染症拡大により本学（仁愛短大）でもオンライン教育がしばらく続きました。そういうなかで、むしろその経験をきちんと書き残しておくことにも意味があるかもしれないということで、『2020年度成果報告書』については、一つの章をまるごとコロナ対応関連の論稿集としました。幼児教育学科の授業を担当していただいている様々な先生方に、コロナ対応としてどのような授業を行ったかまとめていただいていますので、ぜひこちらもご覧ください。

内容としては、遠隔授業の経験や必要性はもちろんですけれども、オンライン特有の問題点について、さらにオンラインになることで気づかされた対面の良さや、保育者を育てるという意味で欠かしてはいけない部分など様々な分かった、というものになっています。

研究の焦点【保育者養成教育】

(ルーブリック開発において考慮すべき事項)

- ・養成校学生の各時期の特徴・実態は？
- ・各時期に何を学び何を経験してほしいと考えているか(カリキュラムの順序性は)？
- ・保育者に求められる資質・能力を「学力の3要素」で区分可能か？
- ・教員は自らの教授内容と養成課程全体との関連性を自覚できているか？
- ・学生は自らの学び・経験・成長・課題などを可視的に自覚できているか？

＝保育者養成課程の質保証および質向上の仕組みは？



3-13

養成教育のところのまとめですけれども、これもまたクエスチョンを作りましたのでぜひご参考いただければと思います。

事業成果（研究実施部会）



保育現場（現職者研修）

◆中尾「保育者養成校と協働した現職者研修の可能性」『2020年度報告書』

- 福井県内A町の幼児教育・保育施設に協力を依頼

- ・タブレット端末を利用したりリモートによる「協働型研修」
=Zoomを使用した「協働型研修」の開催を構想中
- ・その研修をレコーディングし別機会の現職者研修の資料として活用できるのではないかな？
- ・ただし、情報管理の面を整備することが今後の課題

ビデオ撮影に対する保護者了解を得ること

記録されたデータの扱いについての運用ガイドラインを策定すること

【試行としてタブレット端末を貸与：タブレットを使ってみることで・・・】

- ・職員間で子どもの成長や発達を共有できる
- ・保育カウンセラー訪問日に限って対象児が欠席といったことがあったが、撮影したものを見せられるので安心感がある
- ・タブレットは記録・保存・視聴をすべて1台でできることが利点

3-14

さてここからは、保育現場における現職者研修を中心に見ていきたいと思います。繰り返しますが、本事業期間においてコロナの感染が拡大したことは、特に保育現場との連携において様々支障が出ました。当初予定していたこともなかなか実行できない状況でもあったわけですが、そのようななかで中尾は、連携協定を結んでいる自治体の先生方に協力をお願いして、タブレット端末で何とか研修を進めていけないか、という点を模索しました。特にタブレット端末を用いながらZoomで何か所かをつなぐというリモートによる協働型研修を構想し、その事前準備を行ったようです。さらにZoomの利点を活かして、その研修をレコーディングすることで別の研修機会に別の先生方にその映像を見てもらうといった、まったく新たな形態の研修についても考察しています。

ただし実際やっていくと、青字で書いたように、いろいろ了承を得なければいけない部分がたくさん出てきました。様々な人がタブレット端末を触ったりするので、データの扱いについてガイドラインを作ったりということも必要で、なかなか一筋縄にはいかないんだなという点をまとめています。ほかにも、試しとしてタブレット端末を現場の先生にお渡ししたりしましたが、そうすると現場の先生方としては、タブレットがあることで今まで出来なかったことが可能になる、というようなお話もしてくださったりしています。

事業成果（研究実施部会）

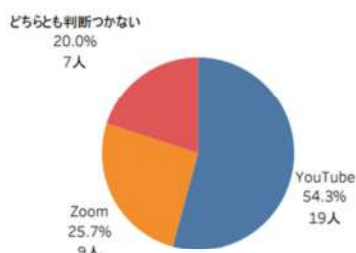
保育現場（現職者研修）

2020年度 教員免許状更新講習（オンライン）
受講者数（受講希望段階）
【前期】237名（のべ988席分）
【後期】65名（のべ145席分）

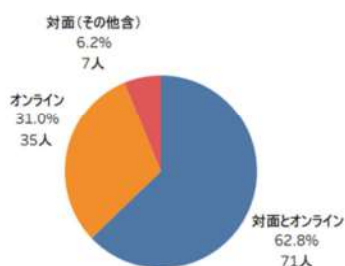


◆木下ほか「コロナ禍での『教員免許状更新講習』オンライン化の試み」『2020年度報告書』

youtubeとzoomどちらが良い？



今後の講習形態はどちらが良い？



調査対象者の属性

居住地域	人数
石川県内各地域	9
福井県「奥越」地域	14
福井県「嶺南」地域	13
福井県「嶺北」地域	77

短大まで所要時間	人数
30分以内	32
30分以上 60分以内	46
60分以上 90分以内	19
90分以上 120分以内	9
120分以上	7

受講形態	人数
「YouTube」と「Zoom」	35
「YouTube」のみ	77
「Zoom」のみ	1

Youtubeとzoomを両方受講した方35名を対象とした集計結果

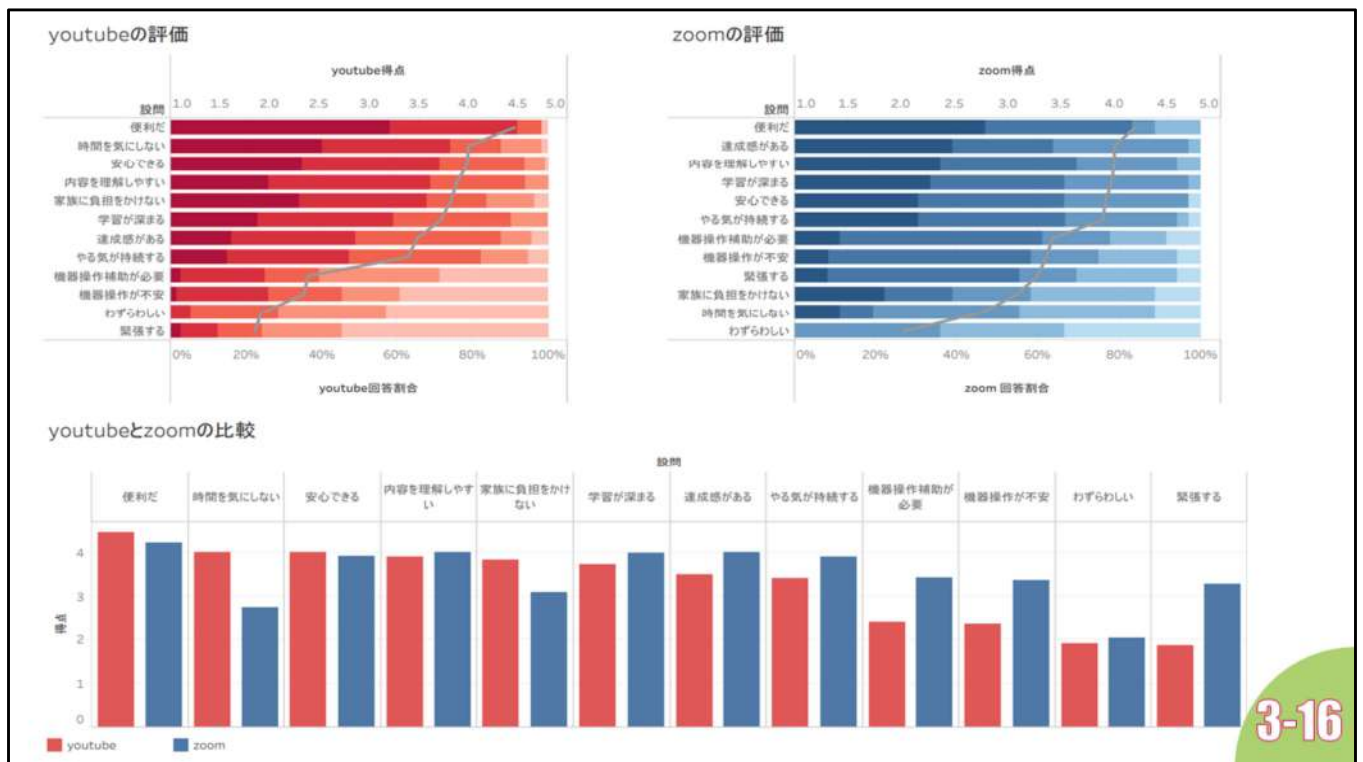
設問:「YoutubeとZoomあなたにとってより良い学習方法は、どちらでしたか？」

設問:「今後の教員免許状更新講習の開催形態について、あなたの考えは以下のどれが一番近いですか？」に対し、全調査対象者が回答した。

3-15

ほかにもコロナ対応の一つとして、教員免許状更新講習に触れておきたいと思います。本学(仁愛短大)も、ずいぶん長いこと教員免許状更新に携わってきました。主としては幼稚園の教員免許の更新を対象としていますけれども、教員免許状更新講習についてはコロナ前は対面講習で実施をしてきていました。それがこのコロナになってしまい、中止という案も出ましたが、福井県内現場保育者の多くの方に受講していただいていたという経緯があるため、いきなり中止にすることはできないだろうということで、対面形式から切り替えてYouTubeコンテンツ視聴もしくはZoomという二つの選択肢を用意しながら継続を図りました。

かなり多くの人に受講していただいていたので、受講後にアンケート調査をしました。その結果がスライドになっています。たとえば、YouTube とZoomどちらが良かったですかとか、今後も対面だけでなくYouTubeやZoomの講習を選択できるようにした場合、こういった形態が一番相応しいですか、といったことを尋ねています。その結果としては、割とYouTube支持が多いという点、もう一つは絶対に対面講習でなければダメというわけではないという点、が特徴と言えるでしょう。現場保育者にとってオンラインというのは比較的受け入れられているのだな、ということがこの結果からも分かっています。



続きのスライドですが、YouTube視聴、Zoom参加、それぞれについてどのように感じたかを5件法で尋ねた結果が上のグラフになります。この結果を簡潔にまとめると、YouTubeの方はやはり便利で、時間を気にしなくて良くて、家族に負担をかけたりもしないのでこういう研修があるのはありがたい、といった意見が多かったように思います。一方Zoomを受けた方々は、YouTubeと比べると便利さなどが落ちますが、学習が深まる、達成感がある、やる気が持続するといった点が評価されています。Zoom講習の場合、グループワークなどもしますので、より学びを深めたいという方にはZoomが良いということの表れなのだと思います。なんとなく感覚では分かっていたかもしれませんが、実際データで、こういうかたちで示されたということだと思います。

福井市との保育研究合同発表会(2020.1.25)

学生と現場保育者が保育の研究を発表する場を共有し、互いに学びを広げ深めることを目的とする。福井市（包括連携協定）との共催企画。ポスターによる研究発表、福井市保育アドバイザーによるミニレクチャー、保育実践に関するシンポジウムを、それぞれの会場にて実施した。

ポスター展示会場（体育館）の入口に研究ブランディング事業を周知するためのポスターを掲示するとともに、参加者一人ひとりにリーフレットも配布した。

新型コロナウイルス
感染症拡大を受けて

2020年度・2021年度
福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科
保育研究合同発表会(オンライン)

3-17

それから連携協定を結んでいます福井市さんと、2019年度から「保育研究合同発表会」というのをさせていただいております。元々、福井市さんの方ではもうずいぶん長いこと市内公立園の先生方が中心となって1年に1回、保育研究を発表し合うという場を設けていらっしゃったんですが、今回、本学のブランディング事業採択を受けてぜひ一緒に開催できたら嬉しいですということで合同で実施するようになりました。実際の現場の先生方の研究発表の場に、本学学生の2回生最後のゼミ発表も加えていただくというかたちで、お互いに発表を見せ合うという発表会となり、コロナになる前は本学の体育館で、参集型で実施できていました。これがコロナが拡大してしまった影響で、2020年度、2021年度については、YouTubeチャンネル上での実施に変更せざるを得なくなりましたが、なんとか継続を図っています。今年度のYouTubeチャンネル画面を右側に示していますが、2021年度については「基調講演」として和洋女子大学の矢藤先生にご講演動画も作成していただいて、その下に福井市公立園の先生方の発表(2021年度は私立園の先生の発表もありました)として、各園が1年間研究してきたことを10分程度のパワーポイント経由の動画にまとめて掲載しました。さらにその下には、本学幼児教育学科学生のゼミ発表動画も掲載して、これらのYouTube動画をお互いに見せ合うことで交流を図る、といった発表会になっています。

このスクリーンショットは、YouTubeチャンネル「A-1~A-5 福井市公...」の画面です。チャンネル名の下には「再生」と「シェアフル」のボタンがあります。動画リストには5本の動画が並んでおり、それぞれにサムネイル、タイトル、および「福井市・仁愛短大 保育研究...」という共通のタグが付いています。動画のタイトルは「A-1 森田浜保育園」、「A-2 東郷こども園」、「A-3 西藤島保育園」、「A-4 社保育園」、「A-5 啓蒙保育園」です。動画の再生時間はそれぞれ11:48、12:36、10:02、9:23、12:10と表示されています。

このスクリーンショットは、YouTubeチャンネル「C-1~C-10 仁愛短...」の画面です。チャンネル名の下には「再生」と「シェアフル」のボタンがあります。動画リストには6本の動画が並んでおり、それぞれにサムネイル、タイトル、および「福井市・仁愛短大 保育研究...」という共通のタグが付いています。動画のタイトルは「C-01 エブロンシアター...を作ろう (松川ゼミ)」、「C-02 気がかりな子どもの支援方法について...」、「C-03 色々な活動を終えて得たもの (重村ゼミ)」、「C-04 子どものあそびから学び (小川ゼミ)」、「C-05 世界の保育事情について (増田ゼミ)」、「C-06 コロナ禍における子どもの活動の変化...」です。動画の再生時間はそれぞれ11:33、14:42、5:37、10:50、7:33、10:17と表示されています。

**2020年度・2021年度
福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科
保育研究合同発表会(オンライン)**

【視聴対象者】
 福井市立公立園職員
 福井市立私立園職員
 仁愛女子短期大学幼児教育学科1・2回生
 仁愛女子短期大学入学予定者(高校3年生:入学前教育)

福井県内現場保育者、行政関係者、養成校教職員など

※このYouTubeチャンネルは「限定公開」のためアドレスを入手した方々のみが視聴できます。また、今年度(2021年度)の合同発表会は2/14にて終了したため、現在は視聴できません。

3-18

このスライド左側が福井市公立園・私立園の先生方の動画が並んでいるYouTubeチャンネルになります。また右側が、本学学生の動画が並んでいるYouTubeチャンネルです。これらを保育者、学生がお互いに視聴し合い、アンケートに回答することで意見交流をする、といった流れになっています。この企画は、ブランディング事業の一つということと同時に、現職者研修と養成校学生の学習をミックスさせるという割と新しいチャレンジかなと思いますが、こういったことにも取り組んできました。

研究の焦点【保育現場（現職者研修）】

（ループリック開発において考慮すべき事項）

- ・養成校との連携・協働による現職者研修の可能性とは？
- ・現職者研修のオンライン化によって学びは深まるのか？
- ・現場保育者としてのキャリアパス（能力の段階的発展）とは？

【例】高知県教育委員会幼保支援課「キャリアステージにおける保育者育成指標」
京都府「京都式保育人材キャリアパスモデル」



3-19

ということで、またこのスライドです。従来からも、保育者としてのキャリアパスという点で、高知県教育委員会さんや京都府さんが能力の段階的発展を示すような表を公表していますが、福井県としてもこうしたものを考えていけると良いのではないかと思います。

事業成果（研究実施部会）



魅力発信

◆乙部「保育職に対するイメージ：看護職との対比による検討」『2020年度報告書』

- 回答者全体（養成課程在籍学生・他学科学生・養成課程入学予定者）の傾向

- ・ 看護師は就職することが難しく、保育士は就職することが難しくないとされている
- ・ どちらの職種も「やりがいがあり」「経験が重要な仕事」だと考えられている
- ・ 保育士は給料が安く、看護師は給料が高いとされている

- 他学科学生のみ

- ・ 看護師の方がより専門性が高いというイメージがある

- 養成課程入学予定者

- ・ 自分は保育職に合致している
- ・ 資格取得のための学習量や中身については漠然とした理解にとどまっている
- ・ 保育職の将来性や実際の給与等は期待していない

3-20

さて最後に、「魅力発信」のお話です。ここについては、乙部がアンケート用紙を配って、看護職と保育職に対するイメージを比べるというかたちで調査をしました。保育者養成課程に在籍する学生、そういった養成課程以外の学科に在籍する学生、それから保育者養成課程への入学を予定している高校3年生、という三つの属性に分けてアンケートを取りました。その結果が今ここに並んでいます。概して言うと、看護職は就職が難しいのだけれどもお給料が高い、というイメージを持たれている。幼児教育に全く関心がないという学生は看護師の方がより専門性が高いというイメージを持っている、という結果になりました。それから幼児教育等への入学予定の高校生に聞くと、自分は保育職に合っていると思うからここを選んでいるけれども、資格を取るためにどれくらい学ぶのか、さらに中身として何を学ぶのかについては正直理解が漠然としている。保育職の将来性についても聞いていますが、将来性や実際の給料等にはあまり期待していない、という結果になったそうです。こういった高校生たちが幼児教育のような学科への入学を決めている、といったことを明らかにしたイメージ調査になります。

【概要】保育の現場・職業の魅力向上検討会 報告書

1. 基本的な考え方

- 保育士の仕事は魅力であふれている。
・子どもの育ちに関する高度な専門知識を備えた専門職・多くの子どもを見守りながら育みあげることができる仕事・子どもの成長の喜びを保護者と分かち合える等
- 保育の質の中核を担う保育士の確保や専門性を向上させていくためには、主に、以下の方策の推進が必要。
① 保育士の職業の魅力を広く地域や社会に発信するとともに、養成段階の取組を充実させること
② 保育士が生涯働ける魅力ある職場づくりを推進するため、働き方改革と業務効率化・業務改善を進め、技能・経験・役割に応じた処遇としつつ、多様な働き方を可能とする職場環境を整備していくこと
③ 保育士資格を有する者と保育所とのマッチングを図るため、保育士・保育所支援センターは関係機関とネットワークを構築すること
- 本報告書を踏まえ、国や地方自治体、保育団体、養成校団体、保育所等の関係者が、取組を進めていくことが期待される。

2. 具体的な方策

① 保育士の職業の魅力発信・養成の充実

保育士の職業の魅力や専門性を地域や保護者等に発信するとともに、養成段階の取組を充実させる。

（具体的な取組）

- 保育所を「開く」、保育参加を呼びかける
・保護者や地域の住民等に保育所を積極的に開く（職場体験・ボランティア等）
・保護者に保育参加を呼びかけ、保育現場の日常、子育ての楽しさ、奥深さを知ってもらう
- 関係機関の連携による保育の魅力発信
・保育の魅力や専門性を発信する基盤の構築の検討
・HPやSNS、漫画等を活用し、国、養成校、保育団体等が連携して、魅力を発信
- 養成校における教育の充実と質の向上
・養成校と保育所双方の実習担当者の共通研修等を実施
・保育現場との協働により、教育の質の向上
・卒業生の横のつながりの強化・保育士のコミュニティ作りのサポート

② 生涯働ける魅力ある職場づくり

働き方改革と業務効率化・業務改善を両輪として行い、保育士が生涯働ける魅力ある職場づくりや、やりがいに見合った職場づくりを推進する。

（具体的な取組）

- 保育所における働き方改革の推進
・産休・育休後のキャリアパスの明確化や多様な働き方を選択できる勤務環境の整備、技能・経験・役割に応じた処遇となるよう、労務管理の専門家による支援や働き方に関する研修会の開催等による支援
・財源確保と併せて、引き続き処遇改善の検討
- ICT等による業務効率化と業務改善の推進
・作成書類の在り方を踏まえICT化、保育補助者等の活用のガイドラインの策定、研修による普及
・ICT等の活用に係る研究の推進
- ノンコンタクトタイムの確保、保育の質の向上等
・ノンコンタクトタイムを確保し、保育の振り返り等を行う
・オンライン研修の推進、公開保育等の推進
・保育士が外部人材に相談しやすい環境整備
・シニア人材の活用等の推進

③ 保育士資格保有者と保育所のマッチング

保育士・保育所支援センター（保・保センター）が関係団体等と連携して、ネットワークを構築し、機能強化を図る。

（具体的な取組）

- 保・保センターの機能強化
・ハローワーク、養成校や保育団体とのネットワークの構築
・学生等の資格取得支援や現役保育士の就業継続支援の実施
・センターの好事例の収集、周知
- 保・保センターへの登録の推進
・センターの認知度向上
・離職時の住所等の登録の努力義務化を含む、「潜在保育士」の把握方法の検討
- その他
・保育士試験合格者に対する実習の推進
・民間職業紹介事業者に対する規制や取組について、保育所関係者へ周知

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/newpage_09174.html

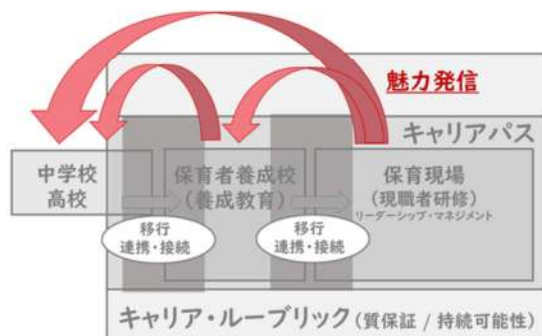
3-21

こういった「魅力」の話というのは、最近ですと、厚生労働省が「保育の現場・職業の魅力向上検討会」という会を立ち上げて、報告書も公表しています。魅力を向上したり発信したりということは、今や、国を挙げて取り込まなければならないもの、という意識になってきているようです。ただし現在、着手が進んでいるのは、いわゆる「働き方改革」のような「職場づくり」の話で、これらが先行している印象があります。それももちろん大事なのですが、本日の私たちの発表は、どちらかというと養成校として如何に魅力を発信していくか、という話をしているのだと思っていただけると幸いです。

研究の焦点【魅力発信】

(ループリック開発において考慮すべき事項)

- ・中高生が自発的に「保育者になりたい!」と思えるような企画とは?
- ・保育現場が中高生を受け入れる際の留意点とは(職場体験・ふれあい体験など)?
- ・高校生の保育職志望意欲を高めつつ、養成校での具体的な学びを伝える方法とは?
- ・「保育」の魅力とは(小学校以降の学校教育との違いは)?
- ・「保育職」の魅力とは(他職種と比較した際の違いは)?



3-22

「魅力発信」についてのまとめですが、これまでと同様、クエスチョンマークをつけたそれぞれの投げかけについて、いろいろと考えていくことが必要かと思います。

「保育」の魅力と「保育職」の魅力

昨今、魅力発信の話題をよく見かけるようになりましたが、「保育」の魅力と「保育職」の魅力、この二つが混同されて論じられているように思います。多くの場合、「保育職」の魅力が語られており、こちらは他職種と比較した際のやりがいや使命・責任などが説明されています。要するに、先生というお仕事の魅力、になります。

他方、「保育」の魅力、と言った場合、これは「保育の原理」に関わる問題になります。日本の保育は長い歴史のなかで何を守り、何を大切にしてきたのか。そしてそのことは、小学校から始まる、いわゆる「学校教育」の目的・目標・内容・方法・評価とどういった点で異なるのか。この部分をしっかりと関係者同士が共有していくことによって、はじめて「保育」の魅力が伝わっていくのだと思います。

そもそも「ルーブリック」とは

学習目標の達成度を判断するため、【評価の観点(規準)】と、観定の尺度を数段階に分けて文章(記述語)で示した【評価の基準】から構成される評価ツール

(関西大学https://www.kansai-u.ac.jp/op/activity/images/rubric_guide_faculty.pdf)

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表

(糸賀暢子・元田貴子・西岡加名恵『看護教育のためのパフォーマンス評価』医学書院、2017年)

一般的なルーブリック

観点	評価尺度			
	不可	可	良	優
内容	☐	☐	☐	☐
論理的思考	☐	☐	☐	☐
批判的思考	☐	☐	☐	☐
自己の見解	☐	☐	☐	☐

観点	評価尺度			
	不可	可	良	優
内容	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【0点】	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【1点】	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【2点】	☐ Aを理解できている ☐ Bが説明できている ☐ Cが示されている 【3点】
論理的思考	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに熟れている 【0点】	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに熟れている 【1点】	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに熟れている 【2点】	☐ Dが明確である ☐ Eを提示している ☐ Fに熟れている 【3点】

長期的ルーブリック

【例】西岡加名恵「看護教育におけるパフォーマンス評価:あじさい看護福祉専門学校における実践」
京都大学大学院教育学研究科『教育方法の探究』19、2016年

		観点			
		看護師としての適性	看護に関する知識・スキル	批判的考察・課題探究力	看護を創造する力
求められる力量レベル	合格レベル (3年時修了・卒業時)	☐	☐	☐	☐
	2年次修了時	☐	☐	☐	☐
	1年次修了時	☐	☐	☐	☐
	学びはじめレベル (入学時)	☐	☐	☐	☐

キャリア・ラダー

専門職者の能力(実践能力、自己教育研究能力、組織的役割遂行能力、倫理観と地域貢献)を、ラダー(梯子)のように設定し、能力の発達や開発について段階的に発展させた表のこと。その専門職に關係するすべての人がお互いに能力段階を確認しながら、自己研鑽や人材育成を進めるための有用なツールとなるもの。(香川県立中央病院HP <http://www.chp-kagawa.jp/nurse/edu/kyariarada/?mode=pc>をもとに加筆修正)

		レベル				
		初心者	新人	中堅前期	中堅後期	熟練
職種	看護ケア実践能力	☐	☐	☐	☐	☐
	マネジメント能力	☐	☐	☐	☐	☐
	教育・研究能力	☐	☐	☐	☐	☐
	人間関係力	☐	☐	☐	☐	☐

さてここからは、本事業の到達点の一つである「キャリア・ルーブリック」のお話に移りたいと思います。そもそも「ルーブリック」とは何か、そして今回の「キャリア・ルーブリック」はどのような構造なのか、といった点については、本日は時間ありませんので、このスライドをご参照ください。

【詳しくは、本書17頁-21頁を参照】

長期的ルーブリック (キャリア・ラダー)

高校

保育者養成校

保育現場

熟練保育者

	1 園生前期	1 園生後期	2 園生前期	2 園生後期	新人保育者	中堅保育者	熟練保育者
1 保育者としての意識・態度	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	一人ひとりに応じた保育の提供が求められる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。
2 保育実践・学び・習得の能力	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。	年齢や個人差により保育には向き不向きがある。
3 知識・技能	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。
4 資力・能力・専門性・個性の発揮	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。
5 保育者としての意識・態度	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。
6 知識・技能	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。	保育の基礎知識・技能を身につけている。
7 自己管理および継続能力	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。	子どもにやさしく、温かく、愛情をもって接することができるといえる。

これは「長期的ルーブリック」と最終的に名づけたものです。看護学の世界などでは、これは「キャリア・ラダー」だよね、と言われてしまうかなと思うんですが、一応ここでは「長期的ルーブリック」という名前をつけました。簡単に言いますと、左の方が高校生、真ん中が養成校で、右側に行けば行くほど養成校の終わりから新人保育者、中堅、熟練という順につながっていきます。高校3年生の段階では、ここに記述してあるようなことに気づいてもらえると嬉しい、そしてこれらに気づいた高校生たちが入学を果たした後は、養成教育において7つの観点に分けていろいろ考えていきましょう、という構造になっています。さらにその7つの観点が新人保育者まで続き、その先は一旦統合されて一つになってから、このような部門に分かれて考えられていく。このように、それぞれの時期に求められる資質・能力というのを、1枚にまとめたこの表を「キャリア・ルーブリック」だと理解していただければ良いかと思います。

なお、今見ていただいているのは「長期的ルーブリック」であって、これが一番大きな枠組みとなります。実際には、これだけ提示しても運用としては上手くいかないもので、これらをより細分化した「短期的ルーブリック」というものも同時に作成しました。「長期的」と「短期的」の関係性が分かるように、7つの観点に分かれている一つずつのセルに「1100番」「1150番」とシリアルナンバーを付しています。

短期的ループリック

保育者としての意識・態度

1	1 回生前期	新人保育者 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1101 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生後期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1102 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生前中期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1103 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。

発達支援 学び・育ちの見取り

2	1 回生前期	新人保育者 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1101 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生後期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1102 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生前中期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1103 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。

計画と評価 ねらいおよび内容

3	1 回生前期	新人保育者 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1101 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生後期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1102 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生前中期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1103 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。

表現力・指導力 教材研究 環境の構成 クラス運営

4	1 回生前期	新人保育者 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1101 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生後期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1102 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。
		2 回生前中期 子どもの成長に関心を持ち、愛情を注ぎ、温かく接することを目指す。 1103 □保育者の働きかけが子どもの成長に貢献していることである。

白雲女子短期大学幼児教育学科
「保育者としての意識・態度」
【短期ループリック】
最終更新日：2022年2月25日

ということで、こちらが「短期的ループリック」になります。先の1枚目と比べると構造が分かっていただけたと思いますが、1枚目（長期的ループリック）で1100番と付されていたセルが、この2枚目では、観点①、1回生前期の「子どもに対し、温かく、愛情をもって接することが大切であることに気づく」の中身と対応していることになります。ここにはより細分化した1101番、1102番、1103番が並んでいます。これは、いわゆる「ループリック」と呼ばれるものに近いと思います。実際の運用の話をしめすと、本学の学生たちにこれを見せて、今日現在どれくらいチェックがつくのかというかたちで自己評価をしてもらいます。もし仮に1101番、1102番、1103番、三つにチェックがつくのであれば、それによって観点①、1回生前期「子どもに対し、温かく、愛情をもって接することが大切である」という点に気づくことができた、と読み解いていく、と思ってください。こうした構造のものが、7つの観点ごとに、さらに1回生前期後期、2回生前期後期、新人保育者とそれぞれ並んでいるという仕組みになっています。この後、これを用いた試行結果をお話しますが、その際に出てくるフレーズやシリアルナンバーは、すべてここに書いてあるものになりますので、併せて対応させていただけると嬉しいです。

短期的ルーブリック

保護者支援 子育て支援 地域社会 関係諸機関連携

5

健康・安全・食育 危機管理

6

新人保育者

保護者支援に関する知識・技術に気づく
地域社会と関わりあう態度に気づく
5203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
5202 □子育て支援機関（福祉関係）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
5201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

2 回生後期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
5203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
5202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
5201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

2 回生前期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
5203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
5202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
5201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

1 回生後期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
5103 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
5102 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
5101 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

1 回生前期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
5103 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
5102 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
5101 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

自己管理および組織管理

7

新人保育者

自分の働き方の長所・短所に気づく
多岐にわたる保護者支援に気づく
7203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
7202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
7201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

2 回生後期

自分の働き方の長所・短所に気づく
多岐にわたる保護者支援に気づく
7203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
7202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
7201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

2 回生前期

自分の働き方の長所・短所に気づく
多岐にわたる保護者支援に気づく
7203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
7202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
7201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

1 回生後期

自分の働き方の長所・短所に気づく
多岐にわたる保護者支援に気づく
7103 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
7102 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
7101 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

1 回生前期

自分の働き方の長所・短所に気づく
多岐にわたる保護者支援に気づく
7103 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
7102 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
7101 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

新人保育者

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
6203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
6202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
6201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

2 回生後期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
6203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
6202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
6201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

2 回生前期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
6203 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
6202 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
6201 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

1 回生後期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
6103 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
6102 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
6101 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

1 回生前期

保護者支援に関する知識・技術に気づく
保護者支援に関する知識・技術に気づく
6103 □保護者（地域社会）の役割や責任について理解を深め得る
6102 □保護者（地域社会）の役割や責任を理解し、適切な対応ができる
6101 □保護者や子どもと関わりあう態度に気づく（保護者に対する態度）

短大生 多岐にわたる保護者支援
保護者支援に関する知識・技術に気づく
【短期ルーブリック No.2】
最終更新日：2022年2月5日

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

キャリア・ルーブリックによる自己評価

「キャリア・ルーブリック」とは、本学が取り組んできた研究事業において独自に開発した「自己評価ツール」です。これを用いる目的は主に以下2点となります。

- ①学生の皆さんが今日現在の自分自身の状態を把握し、今後の学習に役立てるため。
- ②教職員側が皆さんの学習状況を把握し、今後の授業改善等に役立てるため。

今のところ「キャリア・ルーブリック」は「試行段階」のため、その様式や皆さんへのフィードバック方法などはまだ確立できていません。本日の試行結果をもとに使いやすいものになるよう検討を重ね、学生の皆さんによって有益なものとなるように調整していきますので、ご協力をよろしくお願いします。

なお、本日ご回答いただいた内容については、個人が特定されるような結果の公表は行いません。ただし、個人が特定されない形式でのデータ全体の結果等については、研究会・報告会、また研究論文等での発表を想定しています。また、仁愛女子短期大学の学内範囲において、授業改善等を目的に、集計されたデータを活用する場合があります。記名式にて入力をお願いしますが、学生の皆さんの不利益になるようなことはありませんのでご安心ください。

2022年1月
仁愛女子短期大学ブランディング推進室長
増田 眞

◆今回はあくまでも試行(学生へのフィードバックは未定)

◆本来は、一人の学生or一つの学年の経年的変化を辿るべき(今回は暫定的に異学年間比較)

◆今回の結果をもとに、今後の運用を検討

①保育者としての意識・態度

以下の15項目について、それぞれ当てはまる数字をチェックしてください。

- 1:当てはまらない
- 2:どちらとも言えない
- 3:当てはまる

【項目文章の意味が分からない、という場合は「1」を選択】

保育職の魅力を他者と共有できる*

1 2 3
当てはまらない ☐ ☒ ☐ 当てはまる

子どもとの関わりを通して、子どもの最善の利益とは何か議論することができる*

1 2 3
当てはまらない ☒ ☐ ☐ 当てはまる

人権擁護の意識にもとづき子どもや保護者と関わる事ができる*

1 2 3
当てはまらない ☐ ☒ ☐ 当てはまる

◆質問項目は、観点ごとに15項目ずつ(ランダムに配置した)

それでは、今見ていただいたこの2枚の「キャリア・ルーブリック」を本学の幼児教育学科の1回生・2回生対象に試行してみましたので、その結果のご報告に移りたいと思います。なお、当初は紙を配って実施しようとしていたのですが、コロナの影響でオンライン授業に変更したりといったこともあったので、急遽Googleフォームの方に全て用意して回答してもらうことにしました。学生には、自己評価をすることの目的を説明するとともに、ここで集めるデータは個人は特定されないけれども今日みたいな報告会で説明することはあります、という承諾を得たうえで回答してもらいました。

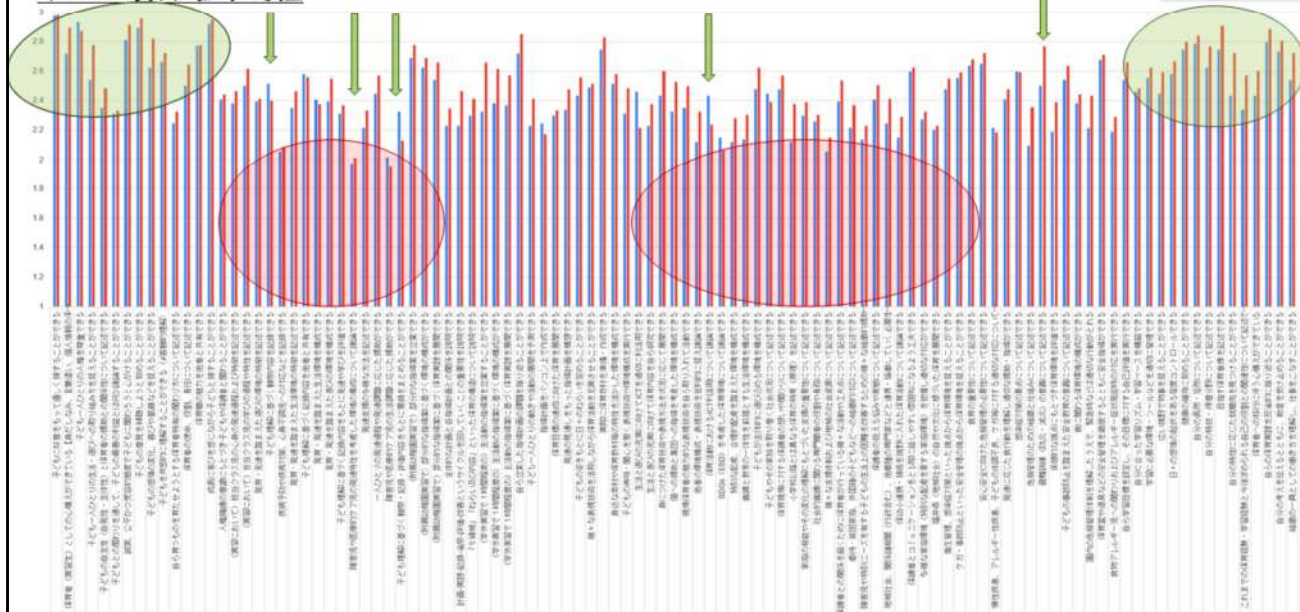
あくまで試しですので、これが全てというわけではありません。それから、本来ルーブリックの使い方としては、一人の学生が入学したとき、半年終わったとき、と順々に追っていったどのように変化するかということを追うべきだと思います。したがって、今日の報告は本来の使い方ではないのですが、暫定的に1回生と2回生の回答の違いはどうか、という部分を比較したいと思います。

実際には、右側のようなGoogleフォームの画面において、一つずつの質問項目に回答してもらっています。たとえば、ここに書いてある「保育職の魅力を他者と共有できる」と書いた文章(先に見たルーブリックにある文章)ですが、これを見て学生は、自分は「当てはまる」と思えば「3」を、「当てはまらない」と思えば「1」を、「どちらとも言えない」と思えば「2」を押すという3件法ですべての項目を尋ねています。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

◆105項目 各平均値

学年
■ 1回生(74名回答:81%)
■ 2回生(93名回答:96%)



このスライドは、この試行調査の結果の平均値です。大きく7つの観点を用意されていて、さらに一つの観点ごとに15個の質問が並んでいるので、全体で105の質問項目があります。それが左側から右側に順に並んでいます。3件法で尋ねているので、高いと3に近づくのですが、ほとんどの学生が出来ると回答している質問項目もあれば、すごく低い質問項目もあります。このように質問項目によって、結構違いが出ました。

それから青色の棒が1回生、赤色の棒が2回生の回答の平均値を表しています。したがって、たとえば青い方が短くて赤い方が長い質問項目もあれば、反対に青が長くて赤が短いというものもあったりします。また、観点ごとに観点①、観点②の順で観点⑦まで並んでいるわけですが、比較的観点①と観点⑦は平均値が高く、一方で観点②と観点⑤の平均値は相対的に低い、という結果になっています。ひとまず大雑把に見ると、このような結果が見えてきます。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

観点① 保育者としての意識・態度



4-1

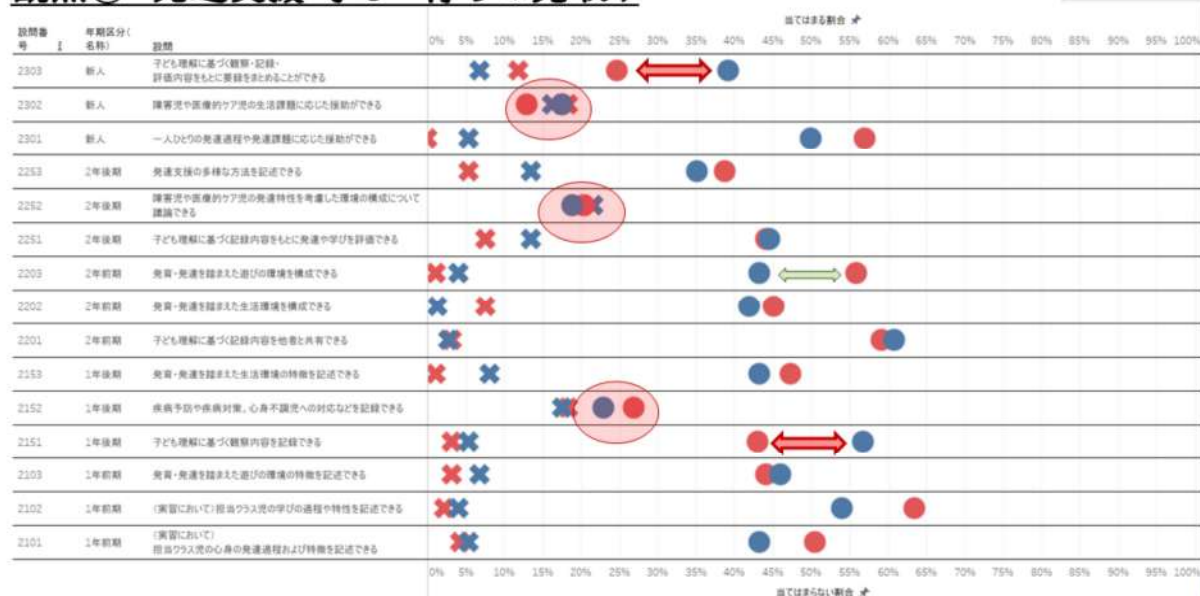
ここからしばらく続くスライドは、観点ごとにさらに細かく見ていったものになります。先に紹介した「キャリア・ルーブリック」と対応させると仕組みが分かっていると思います(観点ごとに示してあった「短期的ルーブリック」と同様に、下から順番で並べてあります)。

この図にあるそれぞれの丸印は、Googleフォームの3件法において「3」(自分は当てはまる)を押した学生の割合(全体に対する)を示しています。さらに青色丸印は1回生が「3」を押した割合、赤色丸印は2回生が「3」を押した割合になります。一つひとつを説明していく時間はもちろんありませんが、大雑把に捉えておきましょう。スライド右側の緑色で囲った部分は、全体の8割を超える学生が「3」を押した項目だと思ってください。あくまで自己評価ではありますが、学生自身がそういうことはできるよ、と評価しているものがこのあたりにあると思ってください。これに対して、中央より左側の赤色で囲った部分は、「3」を押した学生の割合が全体の35%程度に満たないものになります。要するに、学生にとって自己評価が低い質問項目には赤い囲いがしてあると理解してください。細かな比較は皆さんご自身でしていただければ良いかと思います。

そのほか、一部に緑色の矢印が付いている箇所がありますが、これは1回生と2回生の丸印の差が大きいものになります。たとえば、1151番「子ども一人ひとりの生活・遊びへの取り組み方を捉えることができる」などは、1回生で「3」を押した学生と2回生で「3」を押した学生の割合の差が結構ある、と見て取れるはずですが、ではこれが、何を意味するのかという話になると、これはまた別問題になってしまいますが、もしかしたら1回生終了時ではこのあたりについて、まだなかなか理解できていないけれど、その後の実習や2回生の授業を経て、多くの学生が「3」を付けるようになるのかもしれないですね。もちろん、一人の学生を辿った経年変化(縦断研究)ではないので、あまりいろんなことは言わない方が良いでしょうが、もしかしたら本学のカリキュラムの結果なのかもしれません。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

観点② 発達支援 学び・育ちの見取り



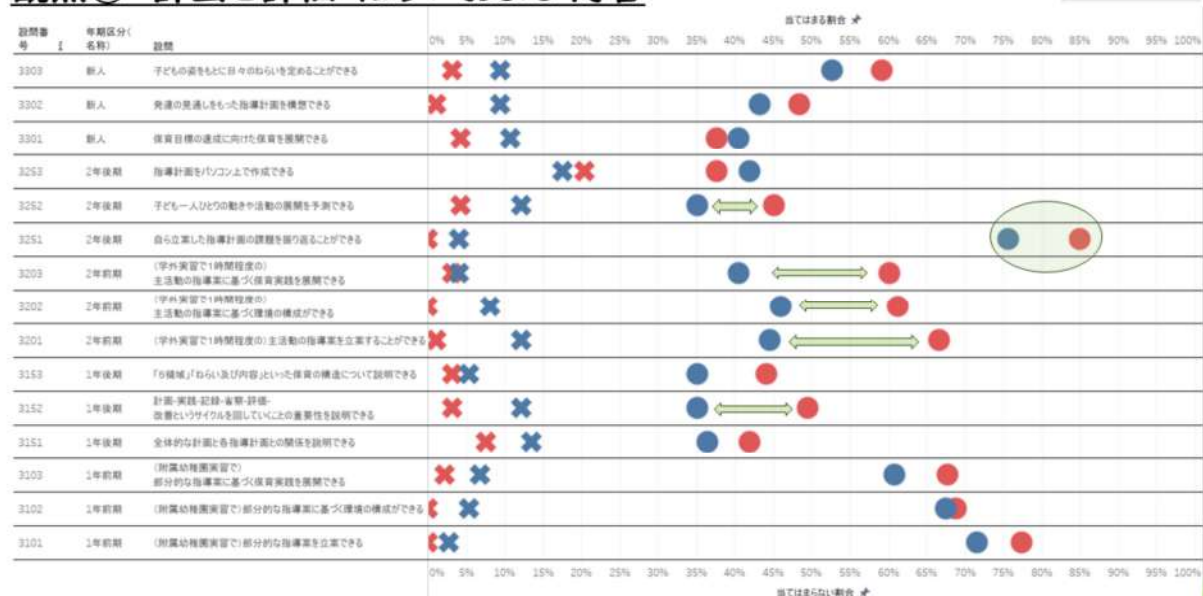
4-2

この図の見方についてはお分かりいただけたと思いますので、あとは簡単に説明を加えるだけにします。この観点②では、ご覧の通り、緑色で囲った部分(全体の8割超え)がまったくありません。この時点で、本学の学生の自己評価として、「発達支援」とか「学び・育ち」を読み取るという部分が不安なのだろう、ということが予想されます。それから、初めて赤色矢印が出てきましたが、これは1回生の方が高く2回生になると自己評価が下がっているものになります。

なお、赤色で囲ってある部分(全体の35%未満))は、障害児、医療的ケアとか、疾病予防などといった項目です。本学のカリキュラム上では、そういう障害児保育であったり、医療・看護系に近いような分野の授業において、学生としては自信がもてないのかな、ということを感じたりしています。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

観点③ 計画と評価 ねらいおよび内容



4-3

観点③は、このような結果になりました。ここは、主に計画を立てて評価してという部分、ねらいおよび内容のあたりを並べてあります。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

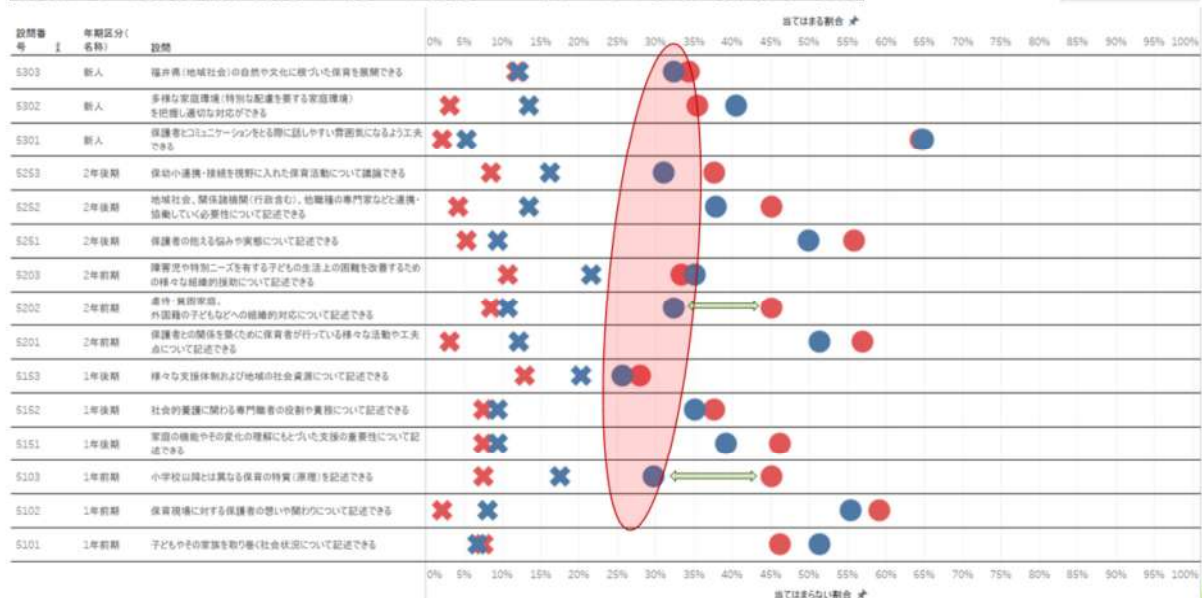
観点④ 表現力・指導力 教材研究 環境の構成 クラス運営



観点④は、主に表現型の授業を担当されていたり、保育内容の授業を担当されていたりする方が直接的には関係してくるところかなと思います。今回の調査では、このような結果になりました。一番高いのは、4102番「実際に保育教材を準備・作成できる」という項目で、これについてはかなり自己評価が高いので自信は持っているのだと思います。低いものでは、たとえば4302番「養護と教育の一体性を前提とする生活環境を構成できる」があります。これは質問の文章が難しく聞こえるのかもしれませんが、2回生になると伸びてはいますし、もともとは新人保育者の時期を想定していますので、このように自己評価が低くても仕方がないかとは思いますが、保育の原理としてすごく重要な部分ですので、今後のカリキュラムや授業での工夫を少し考えても良いかもしれません。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

観点⑤ 保護者支援 子育て支援 地域社会 関係諸機関連携

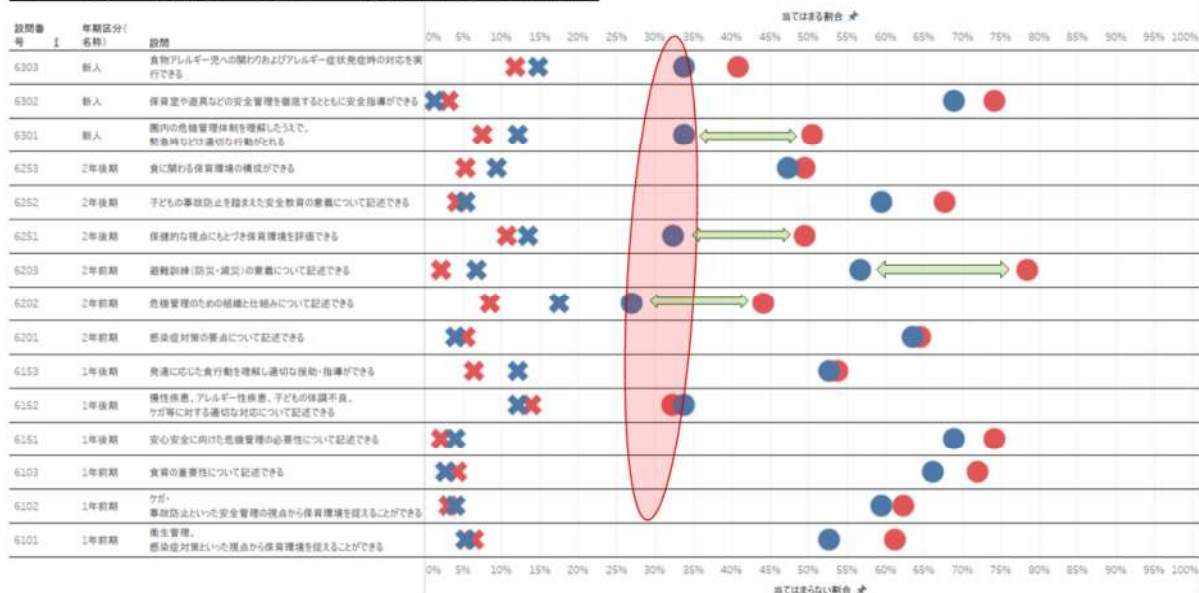


4-5

観点⑤は、保護者支援や様々な関係諸機関との連携などを想定しているところですが、ここも割とほかの観点と比べると低めに出ているところです。どうしても実習ですら保護者との関わりはなかなか持てませんし、さらに関係諸機関との連携という授業では習っているけれど、といった部分ですので難しいのかなと思います。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

観点⑥ 健康・安全・食育 危機管理



4-6

それから観点⑥です。ここは、健康・安全・食育に関するようなところですが、ほかの観点と少し違いがあって、この緑色矢印の長さがすごく長いという傾向にあります。要するに、1回生のときはあまり自信が持てていないけれども、2回生になると「3」をつける学生が増える、という傾向にあるようです。おそらく、実習等での様々な経験が活きてくるのかなと考えています。

「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

観点⑦ 自己管理および組織管理



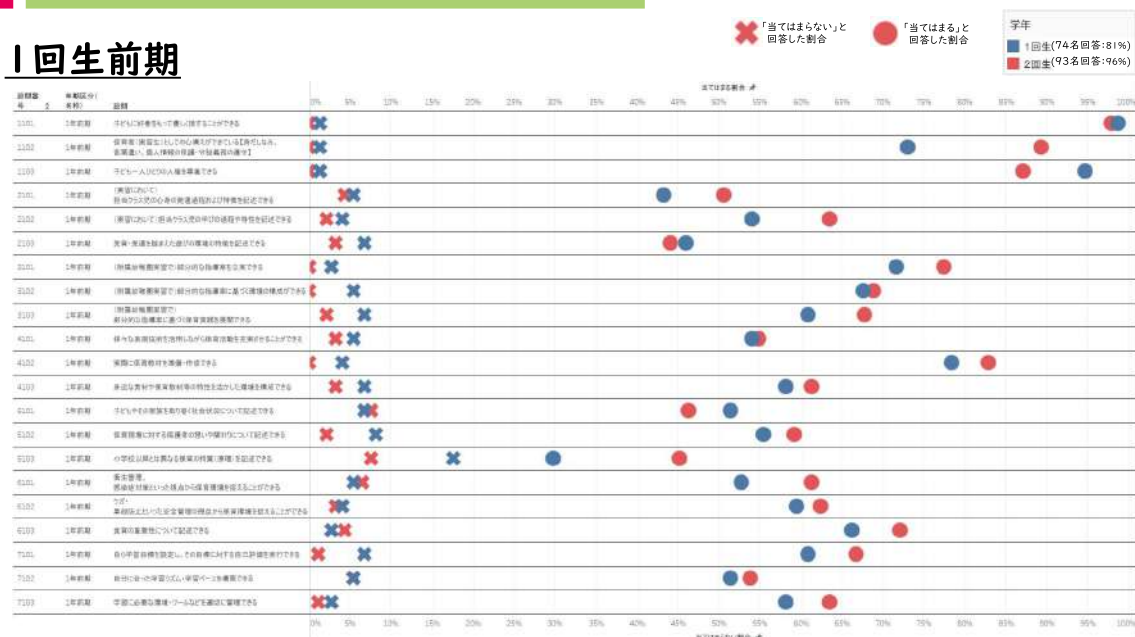
4-7

最後に観点⑦です。ここは主に、「人間性」とまでは言いませんが、学校で教えてある程度理解できるような「自己管理」、さらにそれらが発展して、組織で働く一員としてという意味での「組織管理」について尋ねている部分になります。この観点については、全体としてそれほど自己評価が低い項目はないようです。

なお次のスライドからは、観点ごとではなく、1回生前期、1回生後期といった時期ごとに結果を並べています。今回のすべての集計については、幼児教育学科で統計を得意とされている先生にお願いをしましたが、ボタン一つでこのように見せ方を変えられますので、今後の検証の際に様々な視点から眺めることができるかなと思っています。

「キャリア・ループブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

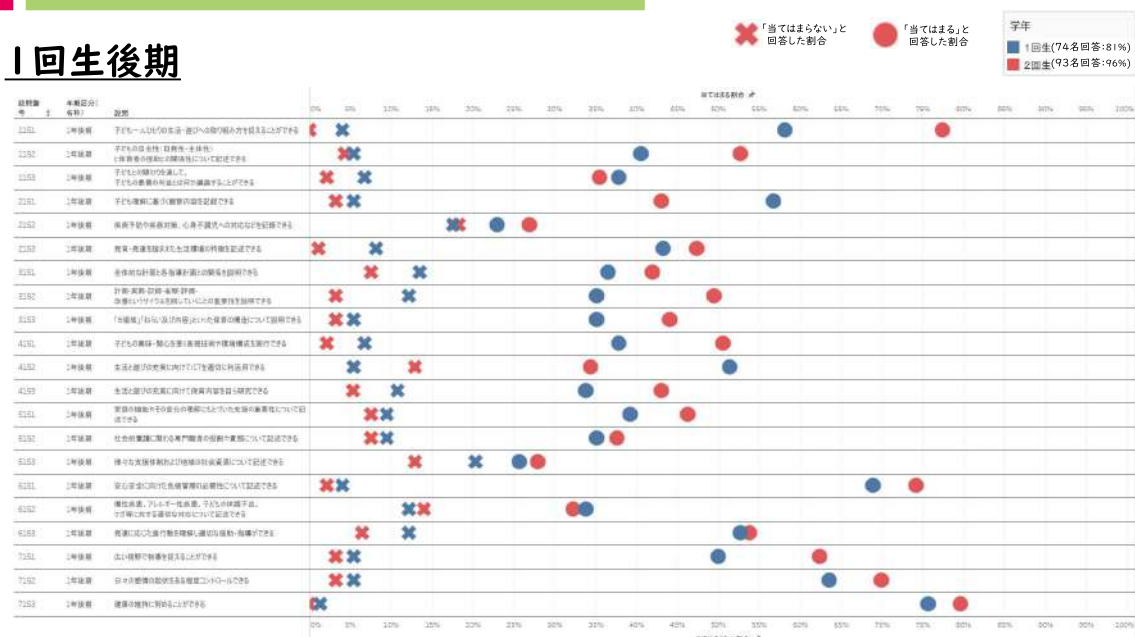
I 回生前期



4-8

「キャリア・ループブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

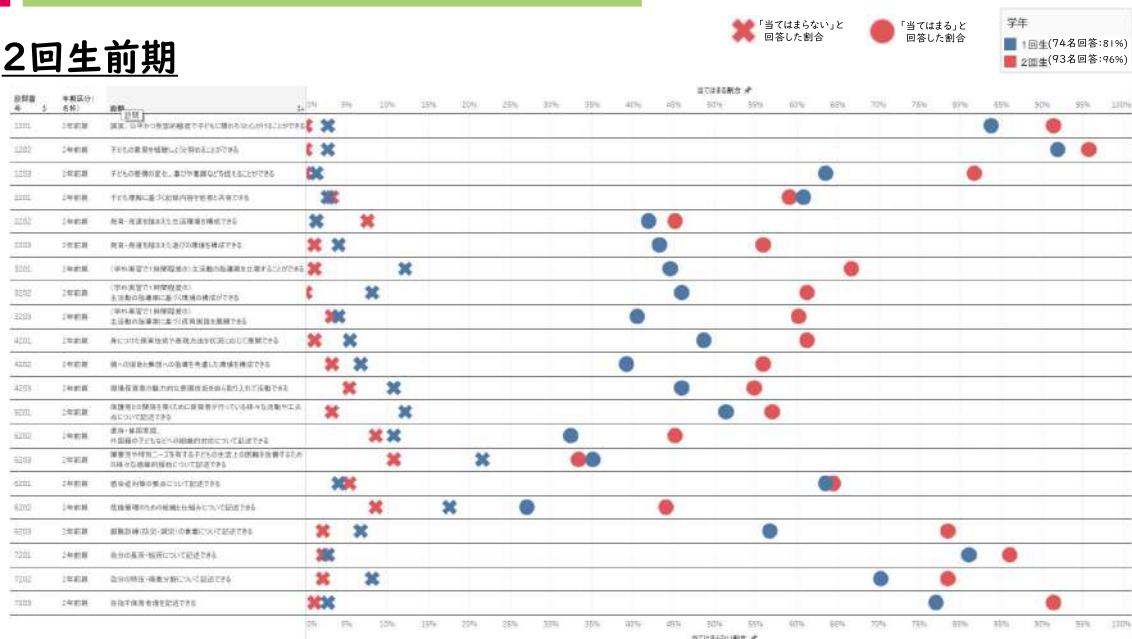
I 回生後期



4-9

「キャリア・ループブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

2回生前期



「キャリア・ループブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)

2回生後期



「キャリア・ルーブリック」試行結果 (2022年1月21日～2月2日:Googleフォームにて実施)



4-12

このスライドの左上をご覧ください。観点ごとに見た際に、現在の幼児教育学科として比較的高めに出ている観点は何か、というのを見やすくした図になります。これを見れば分かる通り、観点①(保育者としての意識・態度)と観点⑦(自己管理および組織管理)が高い、という結果になっています。反対に、比較的低めに出ている観点は何か、と言えば、観点②(発達支援、学び・育ちの見取り)と観点⑤(保護者支援、関係諸機関連携)ということになります。先日、研究会メンバーで集まって、この点についても確認したりはしました。今後のカリキュラム改善等の参考になるかと思っています。

ルーブリック試行結果を踏まえた考察①

ルーブリックの枠組み(質問項目)に関すること

- ・ 学習成果を自己評価する指標として一定の意味をもつといえるが、一部の質問項目については見直しが必要
- ・ 定期運用を開始するにあたり、どのような形態で実施していくのが良いか？
(例)紙面orオンライン上？データの蓄積方法は？フィードバックの方法は？

今後のルーブリック活用について

- ・ 実習時の往還シートに(旧:実習振り返り往還シート)
- ・ 高校卒業時点(入学時)、現場保育者の各期における調査が必要
- ・ 1枚の表で「保育者の成長」が読み取れるようなリーフレットを作成・配布
- ・ 【学内】GPAとリンクさせながらIRデータとして活用

4-13

さて、このようにルーブリックの試行を実施したうえでの考察をしておきたいと思います。まずは、質問の仕方や質問項目が少し伝わりづらかったかな、と思われる箇所がありますので、これについては見直しが必要だと言えます。とはいえ、こうした自己評価は一定の意味があるという話にはなっていますので、今度の4月から実際に運用してみても良いのでは、という話にはなっています。ただし、いざ運用するとすると、一人ひとりのデータを蓄積しないといけないので、それをWeb上に蓄積するのか、それとも少し古風ですが冊子を作ってそこに書かせる方が意外と管理しやすいのではないか、などいろいろと案が出てきています(今のところ、おそらくGoogle フォームの活用になるかなと思っています)。

なお、今回できていないのは「フィードバック」で、学生が自分自身の自己評価をもとに全体と比較してどうだったのか、という振り返りをしないと本来意味がないんですけれども、こうしたことの実現にはプログラムを組んだりしないといけなかもしれません。こうした点も、これからの課題です。

今後の活用としては、先に触れました江端が取り組んでいた「実習振り返りシート」を、このルーブリックと一体化していきたいということ、それからもちろん入学した時点での調査や現場の先生方への調査なども継続してやっていきたいと思っています。さらに、これは周知方法の話ですけど、本日皆さんのお手元にあるこのルーブリックはカラフルにはしましたが、やはりまだ見づらいものですので、もっと多くの人にパッと分かってもらえるようなデザインのリーフレットを作って配りたいとも思っています。

一番下ですが、今日はまったくこの話はできないのですが、実際は、ルーブリックでの自己評価と学生のGPA情報とをミックスさせることが可能ですので、それをするともっと様々なことが見えてきます。学内の研究会では少しだけそういうものも見たりしましたが、もちろん学外に出せるデータではありませんので本日は公表していません。あくまで学内のIRデータとして活用することは可能だと考えています。

ループリック試行結果を踏まえた考察②

評価結果から見えてきたこと

- ・ 観点別に見ると「2. 発達支援 学び・育ちの見取り」と「5. 保護者支援～関係諸機関連携」の自己評価が相対的に低い【カリキュラム・授業内容の改善を検討してもよいかもしれない】
- ・ （暫定的な異学年間比較ではあるが）1回生と2回生で自己評価の結果の差が大きい項目と差がほとんどない項目がある【カリキュラム・授業内容を反映している可能性もある】
- ・ 「1回生後期」の多くの項目において自己評価が相対的に低い
【質問の文章が難しく感じられる？カリキュラムとして1回生後期が難しい？】

4-14

こちらのスライドについては、先程の話のなかで出てきたものが多いので簡単に終わります。観点別にみると、2と5が相対的に低いということ、それから1回生と2回生で自己評価の結果の差が大きい項目とそれほどでもない項目があるということ、などを書いておきました。これらについては、なぜこうなるのかについて今後検証した方が良いかと思っています。それと3番目の項目ですが、時期的なことを言うと1回生後期に設定している質問項目の自己評価が、他の時期と比較して全体的に低い、という結果になっているのですが、これについてもなぜそうなるのかよく分かっていません。今後、検証していければと考えています。

今後の課題

【周知および活用】

- ・ 分かりやすく見やすいデザインで「キャリア・ループリック」を発信していく
- ・ 実際に本学のアセスメントツールとして運用し、その結果を分析していく

【高校・保育現場とのさらなる連携・協働】

- ・ 高校説明会などで「キャリア・ループリック」を用いて保育の学びを伝える
- ・ 現職者研修での連携・協働を進めながら、新たな研修形態の可能性を模索する
- ・ 保育者のキャリアパスについて検討を重ねる

【カリキュラム・教育内容の改善】

- ・ 「キャリア・ループリック」による自己評価結果を教育改善につなげていく
(カリキュラムの順序性、開講科目の見直しなど)

【中高校生への魅力発信】

- ・ 保育の学びの可視化(コンテンツ開発、企画開発) → ブランディング戦略

5-1

本日最後のスライドです。本事業については、今日の成果報告会をもって一つ区切りがつくわけですが、今後も学内的に研究活動およびブランディング活動を継続していくという意味で、課題をここにまとめておきました。各項目は、おおよそお話しした内容なのでご覧いただければと思いますが、最後の部分(小学生も含めた中高生への魅力発信)だけ改めて強調しておきたいと思います。今後ますます「保育の学び」が見えるかたちで、見やすいかたちで届けていくことが重要となってくるはずです。そのためにもコンテンツを開発したり、企画を立てたりという点が求められていくことでしょう。こうした点のより詳しい内容については、本日の報告会の第2部「ブランディング戦略部会成果報告」でお話できればと思います。【本書では、第2部報告内容については省略】

PARTIV

2021 年度ブランディング戦略活動報告

1

YouTube

2021 年度制作 YouTube 動画



保育者の一日【前編】

2021/06/09

157,582 回視聴 (2022.3.27 現在)



保育者の一日【後編】

2021/06/29

38,874 回視聴 (2022.3.27 現在)



Jin-tan LIVE 幼児教育学科

2021/08/06

676 回視聴 (2022.3.27 現在)



うさぎのもちつき

2021/11/10

363 回視聴 (2022.3.27 現在)

昨年度に引き続き、2021 年度においても YouTube 動画制作に力を入れた。上の4本は幼児教育学科に関する動画だが、特に「保育者の一日」動画については再生回数 15 万回超えとなっている(動画周知のためのチラシも作成し、関係各所のほか、福井市内の中学校などにも配布した)。また「Jin-tan LIVE」動画は、もともと2021年7月に行ったオンラインライブイベント「Jin-tan LIVE」の収録映像をそのままYouTubeへアップロードしたものである。ほかにも、好評の「るみせんせいとわらべうたであそぼう！」についても続編を制作した。

なお、幼児教育学科以外を対象とする動画については、下のようなもののほか、オープンキャンパスの告知動画やYouTubeショートへの投稿など、様々な試みを行っている。





仁愛女子短期大学
チャンネル登録者数 619人

登録済み

ホーム 動画 再生リスト コミュニティ チャンネル 概要

授業 ▶ すべて再生

仁短の授業を動画で体験してみよう！



【仁愛女子短期大学】食料栄養専攻 調理実習Ⅱ「お…」
仁愛女子短期大学
51 回視聴・2 日前



【仁愛女子短期大学】学生のリアルな授業！ 食物栄養…
仁愛女子短期大学
913 回視聴・1 年前



【仁愛女子短期大学】体験授業 身近な色彩学
仁愛女子短期大学
221 回視聴・1 年前



【仁愛女子短期大学】体験授業 席次のビジネスマナー
仁愛女子短期大学
300 回視聴・1 年前



【仁愛女子短期大学】体験授業 プリンを作ろう
仁愛女子短期大学
440 回視聴・1 年前

保育の学びがみえる仁短 ▶ すべて再生



【前編】保育者の一日 幼稚園教諭篇 (2021年4月 撮影)
仁愛女子短期大学
15万 回視聴・9 か月前



【後編】保育者の一日 幼稚園教諭篇 (2021年4月 撮影)
仁愛女子短期大学
3.8万 回視聴・8 か月前



仁愛女子短期大学 キャンパスツアー 附属幼稚園 篇
仁愛女子短期大学
5172 回視聴・1 年前



先輩に学ぶ【2020年度 附属幼稚園篇】
仁愛女子短期大学
2830 回視聴・1 年前



3ひきのこぶた【てあそびであそぼう Vol.1】 仁短幼稚園 篇
仁愛女子短期大学
945 回視聴・1 年前

あそびせいでわらべうたであそぼう！ ▶ すべて再生



うさぎのもちつき【あそびせいでわらべうたであそぼう…
仁愛女子短期大学
363 回視聴・4 か月前



いもにんじん【あそびせいでわらべうたであそぼう…
仁愛女子短期大学
665 回視聴・1 年前



あめこんこん【あそびせいでわらべうたであそぼう…
仁愛女子短期大学
446 回視聴・1 年前



うしめぼん【あそびせいでわらべうたであそぼう…
仁愛女子短期大学
1117 回視聴・1 年前



しみたがまい【あそびせいでわらべうたであそぼう…
仁愛女子短期大学
344 回視聴・1 年前

ショート



女子短大の授業を覗いてみよう！ 幼児教育学科：スポー…
1438 回視聴



女子短大の授業を覗いてみよう！ 幼児教育学科：スポー…
860 回視聴



女子短大の授業を覗いてみよう！ 幼児教育学科：スポー…
195 回視聴



女子短大の授業を覗いてみよう！ 幼児教育学科：スポー…
1011 回視聴



女子短大の授業を覗いてみよう！ 幼児教育学科：保育内…
1514 回視聴

Jin-tan LIVE 2021 ▶ すべて再生

2021年7月17日に配信されたLIVEの動画です！



Jin-tan LIVE2021.7.17生活デザイン専攻
仁愛女子短期大学
308 回視聴・7 か月前



Jin-tan LIVE2021.7.17食物栄養専攻
仁愛女子短期大学
241 回視聴・7 か月前



Jin-tan LIVE2021.7.17幼児教育学科
仁愛女子短期大学
676 回視聴・7 か月前

卒業生の働く姿



【卒業生の働く姿】食物栄養専攻卒業 社会人2年目 〜株式会社 米五〜
仁愛女子短期大学・550 回視聴・8 か月前
Jintanの学びを活かして、卒業生はどんな样な仕事をしているの？今回は、食物栄養専攻卒業 社会人2年目の黒田さん、栄養士の知識やスキル、

仁愛女子短期大学
公式 YouTube チャンネル
【2022.3.27 時点】
<https://www.youtube.com/channel/UCzW9OIYc8fg9FiboMOqUwIA>



それでも、笑顔の理由がある。



大変でも、泣きそうなくらいうれしい。

「大変でしょ？」って、よく言われます。
子どもたちと一緒に遊んで、学んで、
行事の準備に、保護者の方へのお便り書き、
保育者同士のミーティング、とフル活動。
毎日ヘトヘトだけど、子どもたちの笑顔や
ちいさな成長を見ると、すごくうれしい。
保護者の方の感謝の言葉に、思わず泣きそう。
そんな心が動く瞬間がいくつもあることを、
「やりがい」っていうんだと思うんです。

動画 / 保育者の1日。

幼稚園の先生って、子どもがいない時間は何してるの？
子どもと遊ぶときは、どんな所に気を付けているの？

動画「保育者の1日（前編/後編）」では、
出勤から退勤まで、幼稚園の先生に密着！
園の様子だけでなく、先生の動きや言葉かけにも注目してみましょう♪

 動画はこちらから！





保育の学びがみえる仁短

子どもが大好きで、明るく元気な笑顔、でもそれだけじゃいい保育者にはなれない。

保育者のお仕事は、ただ「子どもを預かる」だけではありません。

毎日、子どもたちが楽しく、安全に生活できるように様々なことを考え、話し合い、計画を立て、準備し、記録も残しています。さらに、保護者や地域の方々とのよりよい子育て環境の実現のためにも、日々奮闘しています。こうした保育者を目指すためには、どういったことを学び、どういったことを身につけていく必要があるのでしょうか。

この動画「保育者の1日」を通して、現場の先生方と子どもたちのかかわりを「じっくり」と味わってください。保育のすばらしさ、奥深さを体験することで、「保育者を目指す」とはどういうことか、感じてもらえれば嬉しいです。



仁愛女子短期大学
幼児教育学科 准教授 増田 翼

福井県民間保育園連盟主催パワーアップセミナー講演会
「保育者だからできること 保育者にしかできないこと」講師ほか、
県内の保育者研修を多数担当

幼稚園の先生に 保育の現場のこと、お聞きしました。

子どもや保護者の方との信頼関係を築けるよう、毎日を大切に！
たくさん経験も積んで、もっと信頼される保育者になりたいです！



こんな仕事は、そうそうないと思います。

子どもができなかったことができるようになったり、心が成長していく姿を見ると「この成長に関われて本当に良かった」と思います。保護者の方も、お迎えの時や連絡帳のやり取りの中でたくさんの感謝を伝えてくださいます。(左・T先生)

その瞬間にたくさん出会える素敵な仕事。

「今日も楽しかった!」「幼稚園が好き!」という元気な言葉が聞けることにも大きなやりがいを感じます。それと、行事を無事にやり終えた時の達成感。準備は大変だけど子どもたちの楽しそうな姿を見ると頑張って本当に良かった!と思います。(右・K先生)

入学地域支援課



0120-05-6677 平日/9:00~17:00
土曜/9:00~12:00



nyusi@jin-ai.ac.jp

仁愛女子短期大学のこともっと知りたい人は

www.jin-ai.ac.jp



仁愛女子短期大学
Jin-ai Women's College

910-0124 福井県福井市天池町43-1-1
TEL.0776-56-1133 FAX.56-2922

2 Instagram

【例】Instagram（2021/12/03 投稿）



本学では、2017年からInstagramへの投稿をスタートした。2021年度は、フォロワーや「いいね」数を増やすことを目的として、「リアルな学生生活」をコンセプトに投稿を継続した。積極的に授業やイベントを取材し、学生たちの生き活きとした様子を発信するように心がけた。

フォロワーは、2021年9月の306名から、2022年3月には511名まで増加している。「いいね」も開設当初は1投稿に対し20人程度であったが、今年度は最高122人を獲得することができた。

一方で、魅力的な投稿をするために、「見栄えの良い授業」や「イベント」に取材が偏り、本学の学びの幅の広さや講義形式の授業の紹介が後回しになってしまっている点が今後の課題である。アプリの特長や役割を使い分け、来年度も発信を続けていきたい。



仁愛女子短期大学
公式 Instagram
【2022.3.27 時点】
https://www.instagram.com/jintan_now/?utm_medium=copy_link

3

未来の参考書



2021 年度より本学ホームページに「未来の参考書」というコンテンツを設けた。このコンテンツでは、社会で活躍する卒業生や内定が決まった在学生を紹介している。具体的には、卒業生や在学生に、仁短へ進学した理由や、授業のこと、実習のこと、学生生活のこと、仕事のことなどをインタビューしたうえで文章をまとめ掲載している。特に、本学で過ごした 2 年間でどのようなものであったか、仕事をしているなかで役立っている仁短での学び、などを中心に、先輩たちのリアルな声を引き出せるように心がけている。

仁短へ進学を考えている高校生が、本学で成長していく先輩たちの姿と重ね合わせながら、将来の自分をよりよく想像できる一種の「参考書」になれば幸いである。

先輩の今、教えてください

INTERVIEW

— 未来の参考書 —

幼児教育学科

仁短が大好きで、毎日仁短愛で溢れています。

保育士（公務員） 坂井市役所



つださん 2021年内定

Q 仁短を志望した理由、この学科を選んだ理由は？

A 保育者という立場でいろいろな子どもをサポートしていくことに魅力を感じ、高校生の時に保育者を目指すようになりました。仁短では現場での実習も多いので経験を積むことができるし、何より短期集中で勉強して早く社会に出られることが進学決め手になりました。家からも近く、車で通える点もポイントになりました。

Q 学生生活は楽しい？

A ものすごく楽しい！仁短が大好きです。いつも朝8時20分ごろ登学し、夕方18時30分ごろまで…、毎日12時間くらい学校にいます。きつとどの学生よりも長い時間学校にいる自信があります（笑）先生や職員の方、友達含めて、いい人ばかり。一緒にトランプをして遊んでくれる先生もいます。いろんな先生が相談に乗ってくれて、居心地の良さを感じています。私はよく空き時間を図書館で過ごしています。仁短の図書館はとても充実していて、絵本はたくさんありますし、図書やDVDもたくさんあります。リクエストした図書を置いてくれることもあります。雑誌などを読んで過ごすこともありますが、それ以上に図書館のスタッフの方と話していることが多いです！図書館にはいろいろな先生が来られて、他の学科の先生方とも仲良くなれました！図書館は私にとって強い場所です。



Q 好きな授業は？

仁愛女子短期大学
公式ホームページ
【2022.3.27 時点】
<https://www.jin-ai.ac.jp/>

4

保育体験ツアー (2021.12.24)

体験内容 (午前中)



体験内容（午後）



福井県内高校1・2年生を対象に、保育体験ツアーを企画したところ、39名の参加があった。午前中は附属幼稚園で子どもとふれ合う活動および幼稚園教諭との座談会を実施した。また、午後は短大2回生の実際の授業に参加し、学生と一緒に授業体験を行った。

参加者からは、コロナが続くなかで直接子どもとふれ合える体験は貴重だった、という声が聞かれた。また、その後の3月オープンキャンパスの参加につながった高校生もいるなど、この企画によって、保育の学びへの興味・関心がさらに深まったようである。





保育の学びがみえる仁短

2018年度私立大学研究ブランディング事業

保育者のタマゴのみなさんに。

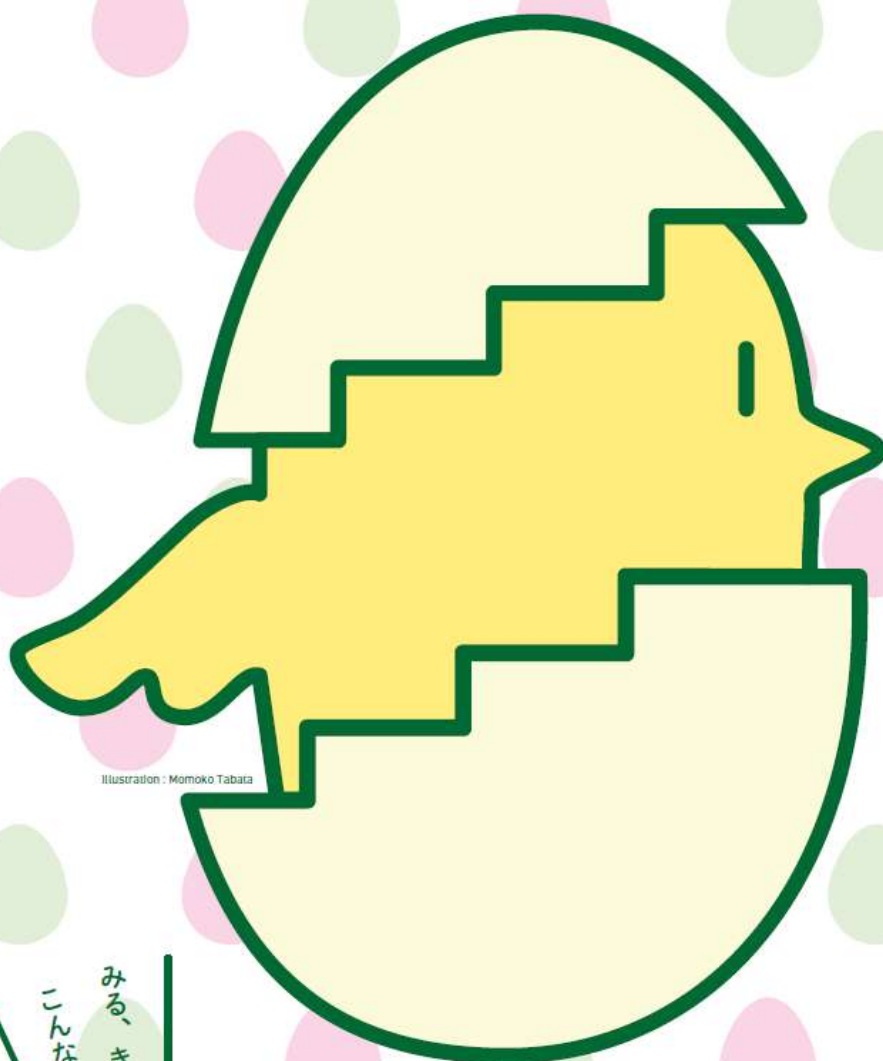


Illustration: Momoko Tabata

みる、きくだけとは、
こんなにちがう！

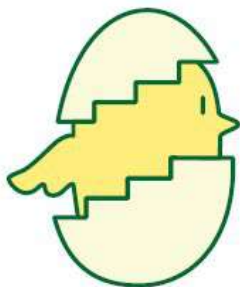
保育者になるための第一歩！！

保育体験ツアー

● 幼稚園教諭体験 ● 仁短の授業体験

2021
12月 24日 (金)

仁愛女子短期大学
附属幼稚園



今回の体験を通して、現場の先生方と子どもたちの かかわりを「じっくり」と味わってください。

保育者を目指すためには、どういったことを学び、

どういったことを身につけていく必要があるのでしょうか。

保育のすばらしさ、奥深さを体験することで、「保育者を目指す」とはどういうことか、
感じてもらえれば嬉しいです。



2021
12月24日 金
9:30~15:00
(受付9:00~)

幼稚園教諭体験 仁短の授業体験

体験場所／仁愛女子短期大学
附属幼稚園

対象／福井県内高校1・2年生(先着30名)

持ち物／体操服、シューズ、筆記用具

9:30	短大にてオリエンテーション	・スケジュール等の確認をします
10:00	幼稚園で体験開始	・冬休み中のため、 30名程度の園児と過ごします
11:30	先生との座談会	・幼稚園の先生に、話を聞いてみよう！
12:00	昼食 デザート付	・ステキなケーキを用意しています★
13:00	リアルな授業体験	・仁短2回生と一緒に、実際の授業に 参加しよう！ 授業名『保育の専門性』
14:40	振り返り(15:00終了)	・参加者同士で意見交流

 仁愛女子短期大学
Jin-ai Women's College

申込
サイト



www.jin-ai.ac.jp

ホームページの「お申し込みフォーム」から
必要事項を入力後、送信してお申し込みください。

仁愛女子短期大学



申込
お問合せ

0120-05-6677

受付時間 平日/9:00~17:00
土曜/9:00~12:00(日・祝日を除く)
※入学・地域支援課(通話料無料)

おわりに

思い起こしますと、本学が研究ブランディング事業に採択されたのは、2019年4月からの新教職課程ならびに新保育士養成課程がスタートするという直前のことでした。今日までのこの間、実質3年ほどの期間ではありましたが、新課程における保育者養成と研究ブランディング事業とをつなげながら、学生が保育者としての資質・能力を身につけるためにはどのようにしたら良いのか、それぞれの教職員がそれぞれの立場で思案してきたように思います。本報告書を眺めると、そうした3年ほどの歩みが蘇ってくるように思えます。特に最後の2年間は、コロナ禍での取り組みとなり、思うように進まなかったところもございましたが、コロナ禍だからこそその研究成果を得ることもできました。残念ながら、研究ブランディング事業によって本学の入学者が飛躍的に増加したとは言えない状況ですが、今後も研究ブランディング事業のレガシーを引き継ぎ、全教職員が一丸となって保育者の魅力を発信し、中学・高校、そして保育現場の皆様との連携を模索しながら、子どもたちが幸せに成長できるようにということを目指して地道に取り組んで参りたいと存じます。

2月の成果報告会にご参加いただいた先生からのご意見の中で「連携」という言葉がキーワードではないか、というようなお話もございました。私にとっても本事業は、学長のリーダーシップのもと、大学の特色ある研究を基軸として全学的な独自色を大きく打ち出していこうと努力すること、つまり教職員みんなでつながって協働することが重視されている事業であるということを改めて実感しています。本学では、いのちのつながりを「建学の精神」に掲げておりますが、このつながりがとても重要なテーマではないかと感じております。本報告書を手にとっていただいた皆さまとのつながりも、本研究の成果の一つではないかと思えます。

最後になりますが、皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが本事業を閉じさせていただきます。本報告書にお目通しいただきまして、誠にありがとうございました。

2022年3月

幼児教育学科長
松川恵子

あとがき

2021 年度をもちまして、本事業の取り組みは一つの区切りを迎えます。これまでブランディング事業を円滑に進めることができたのも、後久さん、上屋敷さん、小角さん、松村さん、そして鈴木さんという職員の皆様のご尽力あつてのことです。ブランディング推進室は閉室となりますが、2018 年度採択以降これまで培ってきた様々な知見については、今後も発展的に継承していければと思います。2022 年 4 月からは、新たな組織のもと、「ブランディング戦略部会」として取り組んでまいります。

最後に、本報告書をまとめるに当たり、多くの皆様にご協力を賜りました。この場を借りて御礼申し上げます。毎日、目まぐるしくニュースが飛び交い、新たな時代に突入したかのような 2022 年上半期ですが、短期大学としては着実な学びを保証できる日常を大切に願いつつ、筆を擱きたいと思います。

2022 年 3 月 30 日

ブランディング推進室長 増田翼

2018 年度採択 文部科学省 私立大学研究ブランディング事業
保育者のためのキャリア・ループリックの開発
～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～

最終報告書（2021 年度）

令和 4 年 3 月 30 日 発行

発 行 仁愛女子短期大学 ブランディング推進室
〒910-0124 福井県福井市天池町 43-1-1
TEL 0776-56-1133（代表）
FAX 0776-56-2922

印刷所 宮本印刷
〒918-8104 福井県福井市板垣 5 丁目 603